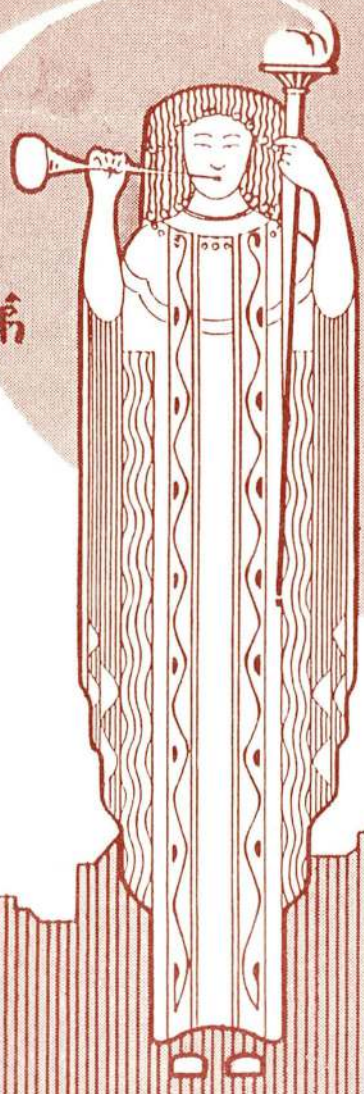
日本建築協會雜誌



第二輯　第八號

大正八年八月二十五日

關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經歷アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記載ス

會員タラントヲ希望スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ商業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記載ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會則ニ於テ規定セル其責任ノ外ニ於テ其責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ハ對シ理事會ノ決議ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ任綜會費ノ返還ヲ求ノ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年ト但引續キ重任スルコトヲ得ズ

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ例會研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨記委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ營業上ノ秘密事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議報告ス、臨時ニ討論會又ハ講演會ヲ開催スルコトヲ得

必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ開催ス

第十九條　本會ハ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　會誌ノ發行

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　其他通常ニ關スル有益ナル事項

十一　北船通線ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金貳拾圓ヲ本會ニ提出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

會員タルノ永遠ヲ以テ終ハント入會金貳拾圓ヲ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助會費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スヘシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

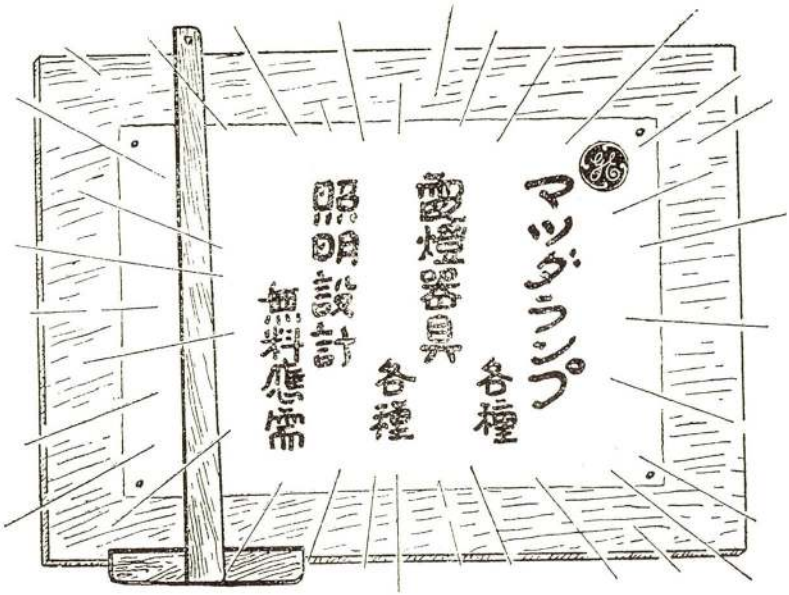
第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立金及每月ノ收支ハ主計其計算ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



製圖と定規

建築と燈火とは製圖と定規に於けるが如し。
完全なる建築とは正確なる燈火を設計したるの謂なり。

大阪出張所

西區阿波堀通一丁目

電話新町〔長六三
八八九九
八九〇

東京電氣株式會社
神奈川縣川崎町

D-192

日本建築協會雜誌 第貳輯 第八號

目次

口繪 神戸市正金銀行支店（三色版）
大阪市營簡易食堂（自一至六）
大阪市營兒童相談所（一、二）

△經濟界の膨脹と建築の欠乏……會員……片岡安……二
△都市住宅の建設に就て（上）……會員（内務省都市計畫課長）……池田宏……九
△都市計畫に關する法制（一）……會員（都市研究會副會頭）……内田嘉吉……一五
△都市研究の必要（中）……會員（内務事務官）……吉村哲……二〇
△都市計畫に就て（二）……會員（法學博士）……渡邊鐵藏……二五
△軍備と文化（下）……會員……小笠原鋭……二九
△本邦現代住宅改良の施工法（二）……會員（都市事情研究會員）……三宅勘一……三五
△住宅問題と田園都市（B）……會員……村野藤吉……四二
△様式の上にあれ！（結論）……會員……村野藤吉……四二

△女流の住宅觀
□何處かに温か味のある柔い感じのある家を好みます……島　盛園女史　談……四九
□子供と主婦の部屋と臺處の科學的な設備談……竹原藤次郎氏夫人　竹原みどり子　談……五二
△街道樹論（二）……特別賛助員農學士　大屋靈城……五六
△朝鮮營林廠所管の森林一班……會員　谷　民藏……六一
△都市と社會施設（其二）
□北米合衆國に於ける住居社會法人……會員　M　T生……六九
□大阪市營簡易食堂及市立兒童相談所……大阪市天王寺公園主任　江村郊邨……七四
△華城街樹私見……特別賛助員　衣笠滋三……九七
△京都古建築觀（十二）……伊藤清造……一〇二
△調査
□横濱市大火罹災家屋に關する調査（B）……一〇八
□大阪市接續町村下水道調査綱要（二）……一一二
△時報……一一七
△會報……一二一
△編輯たより……一二三

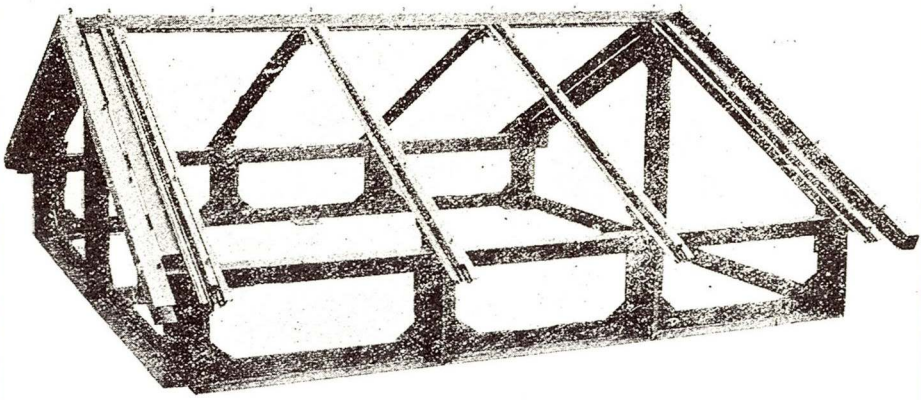
附錄

△巴里市衛生規則……（八頁）

新案特許第三九四三一號

田島式スカイライトバー

（田島式明取窓）



田島式明取窓三菱合資會社假本社御使用

營業

田島式スチールサッシ
田島式スチールシャッター
田島式アスベスト入防火扉
田島式スチールドアー

弊所製作「スカイライト・バー」ハ鋼鐵ヲ強力ナル機械ニ依リテ壓縮屈曲シタルモノナルヲ以テ骨格ノ幅員極メテ狹少ニシテ光線ヲ遮蔽スル事少ナク然シ耐重力ニ富ミ併セテ完全ナル鐵骨ノ要素ヲ具有スル事最モ特色トス。

目科

田島式スカイライトバー
田島式釣戸車
田島式錠前スピンドル
諸建築金物製造

大阪支店

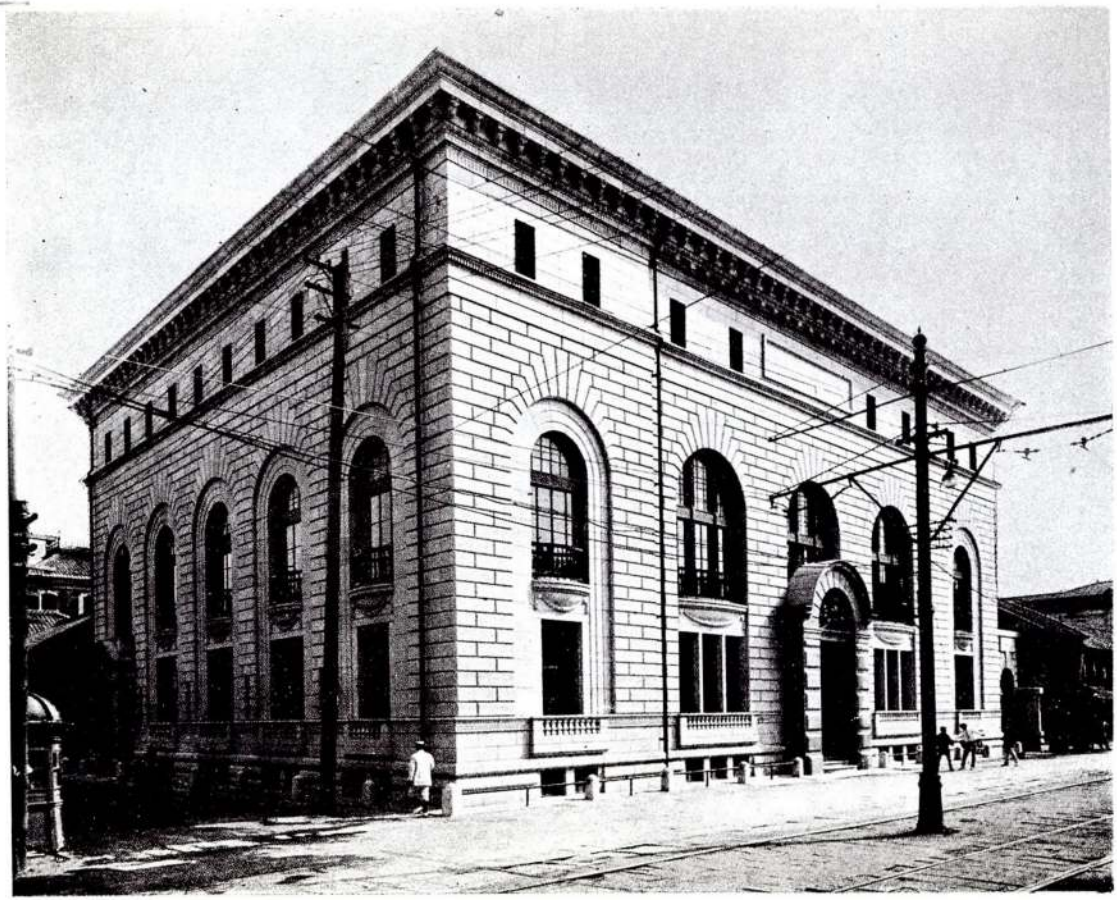
鴨巣製作所

大阪市北區東野田町五丁目

電話東長三五〇八番

本店　東京府北豐島郡鴨巣町（電話小石川長一一三一番）

出張所　福岡市春吉一番丁（電話一八六六番）



神戸市正金銀行支店

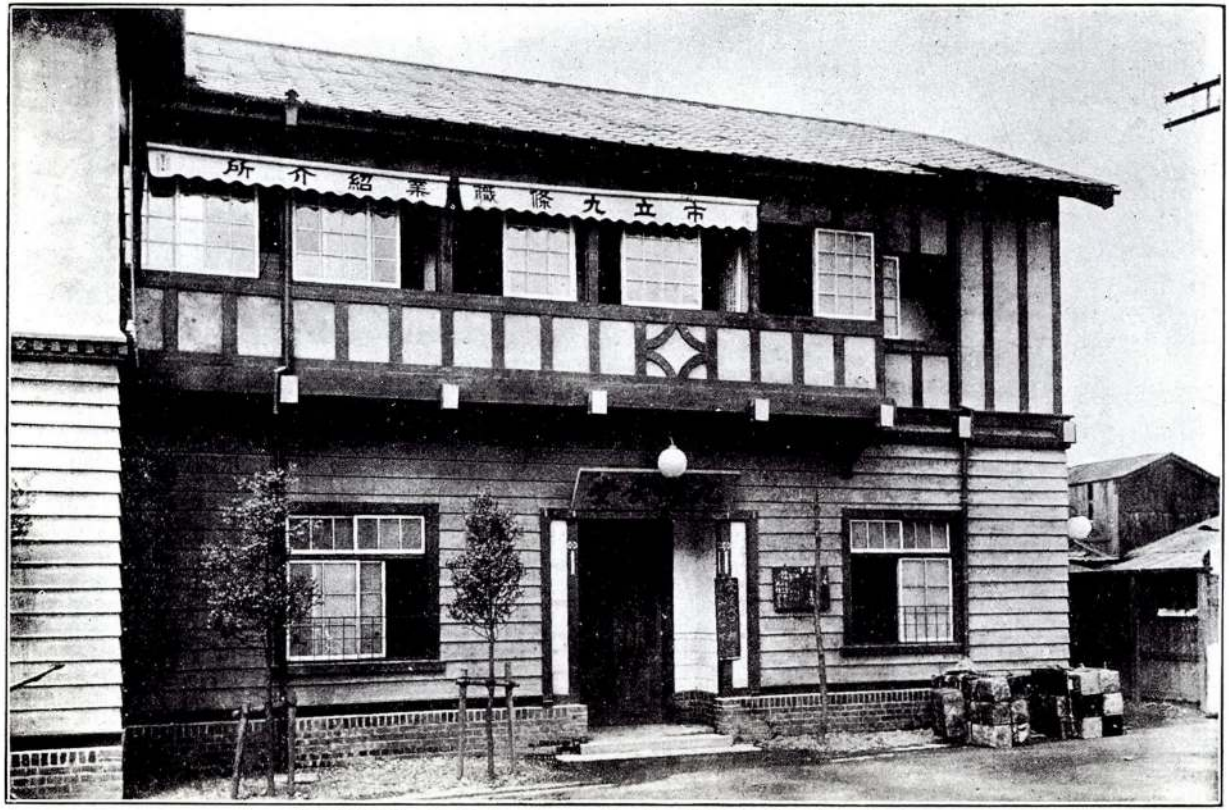
(大阪 栗田製版印刷)



大阪市營森町(天滿)簡易食堂正面 (記事參觀)



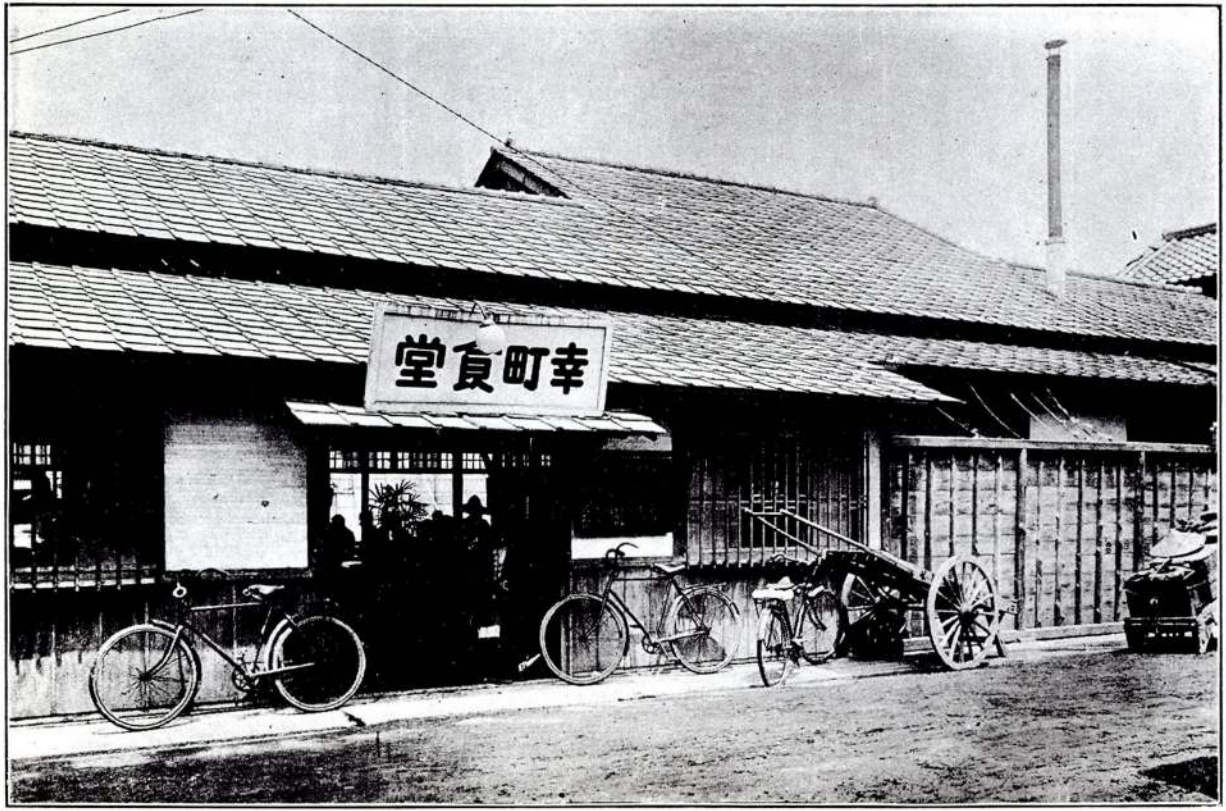
大阪市營森町(天滿)簡易食堂内の一部＝＝正午撮影（參觀記事）



大阪市營九條簡易食堂正面（記事參觀）



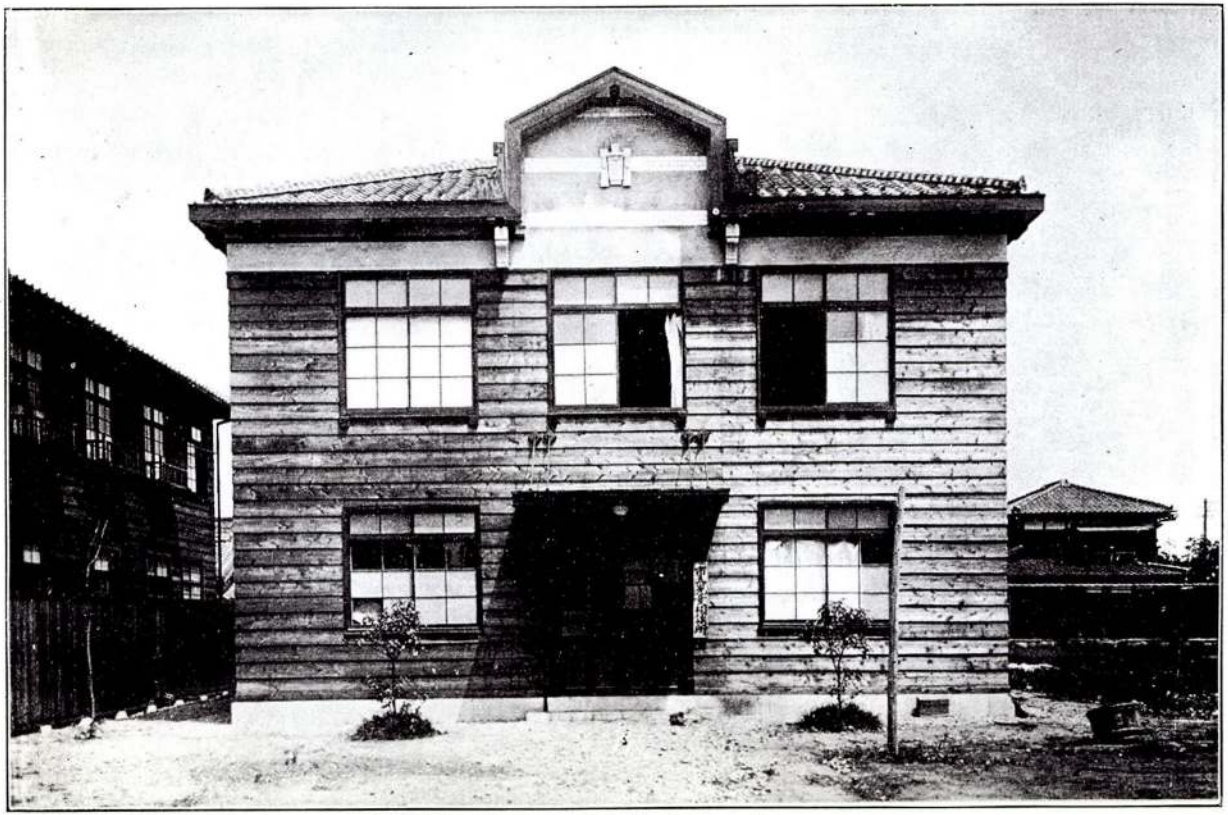
大阪市營九條簡易食堂内賄場の一部午后零時廿分撮影　（記事參觀）



大阪市營幸町簡易食堂正面 （記事參觀）



大阪市營幸町簡易食堂内の一部＝午后零時四十五分撮影　（記事參觀）



市立兒童相談所正面（記事參照）



大阪市立兒童相談所内研究室の一部（記事參觀）

═中央向つて左は主任醫竹村一氏═



經濟界の膨脹と建築の欠乏

大戰勃發以來茲に五星霜今夏の講和成立に至るも我國の經濟界は尙常に不斷の膨脹を重ね來り、通貨は平時の三倍以上に達し、諸般の物價は又一齊に倍額を超ゆ。建築工費の如きも其最も甚しき昂騰をなせるものの一に屬し、戰爭開始以來其建設を見合すもの比々皆然らざるはなかりき。住宅と言はず、店舖と言はず、又諸官廳の事務室に至るまで物價の平定を待ちて其增設をなさんとするは之れ自然の傾向ならずや。然るに講和成立するも物價の奔騰尙ほ已まず、其終熄するの時期果して幾年の後なるやさへも豫想するを得ざるの情態なり。今や建築の欠乏其極に達し、住むに室なく働くに店舖なきの現狀は如何にして之を救濟すべきや之を單に箇人經濟の自由に放任して可なるや否や、吾人は其解決の重大なるを愁へざるを得ず。住宅及事務用建築の新設に對して適當の奬勵と援護の方法を攻究するを急要こせずや。



都市住宅の建設に就て（上）

會員　片岡安

一　都市住宅の缺乏は世界の大勢

都市住宅の缺乏は主として都市の大發展に起因するは言ふまでもなきことにして、吾人が從來數次論議せし如く現代都市發展の徑路より打算するも、亦我國大都市の年々に人口大增加の事實に考ふるも都市に於ける住宅が漸次缺乏せんとする傾向は、蓋し免かるべからざる運命であると言はねばならぬ。之れ住宅建設の如き放資上最も困難にして又最も甚しき固定性を有する事業を自然の儘に放棄しあるが故であつて、其建設が人口增加に伴はざるは說明するを要せぬところである。歐米各國にありては今より十年以前住宅の飢饉は其極に達し、市營又は公許の建築組合によりて都市計畫事業と共に盛んに之を增設しつゝ來りしは、少しく歐米の都市行政を知るものゝ見るところであつた。

英國にありては一八九〇年發布の勞働階級住宅法及一九一〇年發布の都市計畫法及住宅法により

各都市は盛んに市營住宅を建設し來りしと雖も、尙常に住宅缺乏の聲を斷たざりしは著しき事實である。英國の如く鋭意都市住宅公營を敢行しつゝ尙且つ其缺乏の聲殷なりし理由は、其半面に家屋の衛生狀態改善を企畫して其完全なる効果を擧げんとして努力せし爲めにはあらざるかと思はれる故に住宅缺乏の聲殷なると同時に都市の衛生狀態は著しく向上し、田園都市と相待つて一般勞働者の健康增進に與つて力あつたのは事實である。都市住宅公營を敢行せる結果として箇人の住宅經營は漸次其數を減じ、從來主として其供給者たりしものは一變して其經營を鈍らすに至るは又當然の結果である。所謂田園都市の經營又は郊外住宅地經營は其緩和策として又更に一步を進めて向上生活の手段或は公衆衛生向上の最良策として各方面の資本家によりて實行さるゝに至りしは、近代の美擧として稱賛されつゝあれども、之れ亦都市住宅缺乏の大勢を挽回するに足らぬのは事實である。

獨乙又は亞米利加の新進都市は大膽なる都市計畫の案を立て、住宅地區を制定して其建設を容易ならしめ、一方には公衆の衛生を向上し他方には生活上あらゆる便益と安寧を享けしめるべく計畫し、公益團体たる建築組合を奬勵後援して其地區の住宅建設を促した爲めに可なりに適實なる家屋を低廉に貸すことの出來た場合が甚だ多いと言ふことである。然れども住宅經營の事たる唯一時の需要を充たすを以て滿足する譯にはゆかないのであつて、將來永遠に亙り其住居者の健康と安寧を保証し、彼等をして生活の平和と愉快を十分に享有せしめるを要するのである。此意味に於て歐米各國の都市は着々と其効果を擧げつゝ來りしと雖も、焦眉の急を救ふ點に就ては常に多少の遺憾を

感じたのは事實である。然らば我國の現狀は如何にと言ふに、從來都市住宅の建設を以て左程重大の意義あるものとは考へなかつた爲めに、現時の甚しき缺乏はもとより其永遠的畫策に就ては全く無策であつて、殆んど何等の施設らしきものがないのである。近時我大阪市は少數なる應急的小住宅を建設して下級吏員及公傭人夫の一部に之を貸與せるあれども、到底九牛の一毛にも及ばぬような始末である。昨年來內務省內に設置されたる救濟事業調査會に於て本年の初め小住宅公營の急要なるを議了せしよしにて、內相は各大都市に向つて直ちに其意味を敷衍せるは時機に投したる考案として大に稱賛に値するけれども、唯其經營を訓示にて慫慂せる如き冷淡たる態度にては此緊契なる活問題が解決出來るものとは思はれぬのである。最近內務省は低利資金六百萬圓を各大都市に分貸して住宅市營を促かさんとせるは或は多少此問題を眞面目に解決する端緒となり得るかも知れぬ唯現時の我國の市理事者が果して此機會に眞劍なる奮鬪をなすの勇氣あるやを危ましめる。

二　應急策としての住宅經營

都市住宅の缺乏は近代の世界的傾向として我國の都市にも波及し來りたるその現象は近時特に著しき狀態となり、各大都市民を窘迫すること甚だ急なるものある以上、都市政策の根本計畫としての經營よりも更に急速に現時の窮乏を救ふべき應急策の緊要なるを感ずる譯である。若し英國などの如く政會政策の一方策として都市住宅建設を國法にて援護しつゝある場合に、現時の如く急迫せ

る住宅缺乏を憂ふるものとすれば、問題は非常に單純であつて、公債募集によりて直ちに其着手を見得るけれども、我國にありては從來住宅建設の事たる、一種の物數寄者又は金貸業者の仕事に委任され、しかも借家人との間に常に面白からぬ風説の傳はり、寔に紳士らしからざる仕事のように思はれて來たのであるから、現時の如く愈甚しきその缺乏に到着すればとて誰一人率先して直接救濟に努力するものゝないのも當然である。

内務省は都市理事者をしてその解決に努力せしめんとの意向なれども、國法の之を援護するなく市理事者又現在の事務處理に忙殺されて居る狀態であるから、實際に於てはその効果を擧くること甚だ困難なるを思はしめる。而して各都市に於ては未だその都市計畫の大体案さへ出來て居ない時に其住宅地區のみを定むることや、又改良住宅の設計及びその財政案などが此際急速に決定さるゝ道理がないのである。故に市理事者は此際住宅建設に熱中せんにも、何等據るべく規準なく、方針なく、又特殊な後援もなく、つまり市有地の比較的不用地らしき場所に吏員や職工人夫の公舍を少許づゝ建設するより外に方法はないのである。若し餘りに應急策に熱中して、市有地の將來重要地點となるべき現在空地の箇所に細民住宅を建設するようなことがあつては、市將來の爲めに由々敷大事である。さればとて塲末の貧民窟を一掃して、其塲所に適當なる市營長家を建設することも此際は出來得べくもない。要するに内務省は如何に市を督促したとて市理事者として市民の住宅飢饉を適當に癒やすべき適當の方法はないのである。又市民が市理事者の施設にのみ待つて居たとて到底その渇を醫する譯にはゆかないのである。そは吾人か我都市理事者の無能呼ばわりをする人に加擔

して之を唱ふるのではなく、むしろそれ等の人の不明を明かにせんとするのである。

現時の應急策として住宅建設を如何に取計らふべきやの問題は、自然に都市計畫の永遠策と相關連するのである、如何に現時の應急策に熱中すればとて都市の永遠的計畫に妨げとならざる程度に之を運ばねばならぬのである。此點に於て各都市の理事者は甚しき苦痛を感じて居ることであらふと思はれる。市營の住宅は其根本策として市民の健康と其住宅の安寧を期するにあるので、唯一時の缺乏を救ふのみが目的ではなく、又同時に經濟的施設として徹底せねばならぬから、假令低利資金の二百萬圓や三百萬圓を得たからとて直ちに之を以て其實績を遺憾なく擧げ得るものとは理解してはならぬ。

然らば現時の應急策は如何にしてその施設を進むべきやと言ふに、吾人は公益團体としての建築組合を組織し、大都市の近郊の地に於て將來其都市計畫の大体方針を妨げざる地區を撰定し耕地整理法を施行するの權能によりて、數箇の大田園都市を建設するを以て最良策と考ふるものである。都市計畫法第五條は斯かる團体に其計畫事業の一部を實施せしめ得ることを認めて居るから、其精神によりて組合を組織し、以て急速に住宅建設に從事せば、都市社會政策の解決の一助となり、同時に應急策としても有力なる解決法に到着するのである。

三　建築組合の組織とその經營

建築組合の組織は之を株式會社又は財團法人とし、其資金は各都市それぞれ其情況により一樣ならざるも東京市又は大阪市にありては少くとも一千萬圓以上を必要とする。資金は半ば公共義捐の意味に於て各富豪その他の有志より之を蒐め、年利最高四分を程度と定め、建設中は凡て無配當として將來の發展を目的とするの案により其經營を進むる事とする。其經營者には德望高き人物を戴き、熟練にして識見ある技術家の手腕と、都市內外の公的及私的援助とによりて其遂行を期せねばならぬ。固より資金の募集は可なり困難であるかも知れぬ、けれどもその幾分は政府の低利資金を貸與することゝし、公共團体も其幾分を負擔し、其都市の有力者の參加を慫慂すれば其成立は餘り困難とも思へぬのである。吾人は今日社會の生活不安の聲甚しき際にその解決の一方法たる住宅建設の事業に對して各富豪及有志の同情を得ることは決して難事にあらざるべきを信ずるものである。

建築組合の經營にも永遠策と應急法の兩樣あるのは當然にして、其應急手段も矢張り永遠策と相背馳することのなきを期し、宅地分劃と下水、給水及交通等の骨子は苟且に之を取扱ふべきではない。其選定すべき地域は現在の市の郊外にして交通機關の利用によりて市中心地との連絡あることを必要條件とする。若し其地域と現在市內交通機關終點との距離十町以上を存するならば、其區間に交通線路を延長せしむるを要する。而して地勢の關係により一樣に之を論ずることは出來ぬが、一地域は凡そ十萬坪を程度とし、道路遊園地その他公共用地積約三割を除き殘餘の七萬坪を千箇の宅地に分劃する、建築組合に於ては此宅地の種類を甲乙丙の三級に分類し、さし當り丙級の宅地に一箇拾坪內外の小住宅を急速に建設し、少くとも今後一ケ年以內に五百箇の丙級住宅を完成せしめ

それぞれ適當の家賃にて一般に貸與するの順序とする。甲乙兩級の宅地には地上權を貸與して、個人又は借家經營者をして其建設をなさしめ、坪數及家賃の最高價格等を制限し、一定の年月内にそれ等を完成せしめることゝせば、一田園市街の實現は比較的短時日に遂行出來得るのである。

以上は唯一箇の標準單位のものを記述したに止まり、其大小及家屋の程度、都市の狀況及各方面の事情により其加減をなすべきは勿論である。又都市の廣袤大なる場合には其周邊に數箇のものを選定して、其市内外の事情に適合せしめるやう畫策するを要するのである。（未完）

歐洲都市の市區改正

今や歐洲の諸大都會は單に將來の建築に向つて改良制度を講ずる事のみに滿足せず、更に現時の不清潔なる家屋を破壞して廣大なる平地を開き以て在來の人家密集超過を整理せんとしつゝあり。グラスゴー市の如きは既に千八百六十六年に於いて之を實行し、五萬の住宅を有する八十八エーカーの土地を空地となせり。其當初の目的は此處に美しき街路を開設して再び其兩側の宅地を賣拂はんとするに在りしも當市財政不振の爲久しく放擲せられ、漸く千八百八十八年に至り全市の財產に依りて大規模の建築を始めたり。斯る事業に同市が費したる所は實に一千萬弗以上にして、又其が爲に生じたる所得は六百萬弗内外なりき。

―「都市經營論」より―



都市計畫に關する法制 (一)

内務省都市計畫課長 池田宏

(一)都市發達の原因 (Les agglomérations urbaines) 近代歐米の都市が急激なる發展を遂ぐるに至れる主なる原因は之を要約するに蒸氣、電氣及交通三者の力に歸すものと謂はざるべからず、蒸氣及電氣の發明及其の利用の發達は都市商工業の非常なる發展を促し、交通は商工業の發展に伴ふ都市戸口の集積に對し緩和するの手段と爲ると共に其の商工業能率の增進に與て力あり

商工業の都市に於ける勢力は甚大にして從前は宗教又は教育を以て生命とせる都市ありしも其の發展の狀に至りては到底商工業を基礎とするものゝ殷盛なるに比すべくもあらず、都市の發展が商工業の發達を以て必要條件と爲すは夙に歐米諸市の自覺する所にして獨逸諸市は殊に意を深く此の點に注ぎ蒸氣、電氣及交通の三者を合理的に利用するに依りて今日の發展を遂げたり(Howe, The Modern City and its Problems 1915 p. 47)

(二)都市人口集積の弊と都市計畫運動 (Überhandnehmen, Congestion of Population City Planning Movement) 商工業の發達を遂げ都市の發展を期するときは自ら都市戸口の集積を來す、是最近世都市の著しき社會的現象たり、近世都市の包容する人口の增殖率は頗大にして商工業を以て立つ都市の人口は昔日農業人口の占めたる地位に代るに至り人或は前世紀を以て特に大都市發達時代と稱する者あり洵に宜ならずとせず(Gemünd, Boden-

frage u. Bodenpolitik1911 S. 8). 然るに都市の戸口急激に增加し來るや都市は經濟上社會上の窮境に陷ゐり、種々の弊害踵を接して滋生し、商工業亦著しく其の機能を阻害せらるゝに至る即都市の交通、衛生、保安及經濟等の上に於ても將又社會上各般の問題に付ても種々なる難關に逢着し、都市の前途は頗危殆に頻せるを感せしめ、遂に或は都市を以て農民の墓場なりと稱して盛に都市生活を呪咀するの聲起り(Gemiind S. 32)或は農に歸れとの叫を聞くに至る。

都市が一時の社會的現象ならば即止むと雖も苟も永久の生命ある以上は斯の如き各種の弊害を除去し、如何に都市が發達するも復諸般の弊を生ぜしむることなく都市をして永久に健全なる發展を遂げしむるの必要を切實に感せずんばあらず、是即諸國に都市計畫運動の起る所以にして都市の發展に對應するの政策は孰れの國に在りても高唱せられ(一九一〇年ニハ倫敦ノ都市計畫會議開カレ、一九〇九年以來米國には都市計畫の國際會議常置せられ、一九一三年には白國ガン市に於て萬國會議の開催と爲り世界各國より會議に加盟參列せるもの二十二政府五十市の代表者の多きに及び、獨英米の大學に於ては夙に特別の講座迄開設するあり、伯林工科大學セミナールの指導教授の發行する講演集(Städtebauliche Vorträge)及リゾアブール大學の出版するTown Planning Review の如く幾多の研究出版せられ多數の讀者を有するが如き其の一斑を示すに足る)之に關する各種の法制を完備し(英國に在りてはLand Classes consolidation Act 1845, Towns Improvement Classes Act 1847, Public Health Act 1848 を始め勞働階級住宅條例の前驅を爲すTowns Act 1868 に次で"Cross" Act 1875 の制定と爲り地方行政廳に認むるに不健康地に於ける市區の改良事業を促進することとなり、一八九〇年には Housing of the working Classes Act と爲り、一九〇九年には更に統一せるHousing and Town Planning Act 制定せられ、別にRoad Board 特設せられ自動車の交通に應する道路改良事業の助成を圖り、各重要都市に在りては近世社會衛生の要求に應ずる建築條例の發布と爲り相俟ちて都市生活の改善を期し獨逸に在りては纖血宰相のSiassen u. Baufinchtli nen Gesetz(一八七九年)先つ發布せられ、市域の擴張と相携へて交通及建築方面の努力と爲り、有名なるアヂケス法は一九〇二年七月に至り「アヂケス」の十年に垂んとする不斷の努力に依りて成法と爲り相嗣て、「ポーゼン」「ケルン」及「ウイスバーデン」に適用せられ、一九一三年には普國の一般法として施行せらるるに至り、新式の建築條例は諸州諸方に相競ひて制定せらるるに至り(3. B.Bayr. Bauordnung 1901, Sächs. allgem. Bauges. 1900 u. 1904 u. S. w.—Baupolizeiordnung f. die Stadt Düsseldorf v. 8Mai 1907u. a.—Zonenbauordnungen f. dei Stadt. Frankfurt am Main 1891 f. die Stadt Köln v.1 Juni 1901 a. a.) 近くはVerunstaltungsgesetz(一九〇七年)の發布と爲りて都市の美觀維持にも盡す所あり、佛國に在りてはDécret relatif ala Prolongation de la rue de Rivoli

en 18.8 を始め街路系統の構成及其の實施に關する各種の制度相調て發布せられ、殊に L. rel. à l'assainissement des logements insalubres 1850 及「オスマン」の不朽の名と共に傳へらるる Dec. rel aux rues de Paris 1852 は永く佛京の構築完成に貢獻する所あり、建築條例及 L. sur la Protection de la sante publique 1903 等の法令と相俟ちて都市生活の向上に資せしこと少からず、伊國には夙に收用法(Legge 25 giugno 1865 N. 2357 di espropriazione per causa di publica utilita) の人口一萬以上の市區に對し衛生、交通、都市の改良事業の爲地帶收用の制を認むるあり「ナポリ」の衛生保持の爲には一八八五年一月の法律、羅馬には一八九〇年七月、一九〇二年七月及一九〇七年の特別法の外一九〇八年二月には不健康地域改造に關する法律の制定せらるるあり、瑞典に在りては一八三四年の公共法、一八四五年の收用法一八七四年の市區建築及一九〇七年の法律が英國の都市計畫法の母法と爲りたるが如き、白耳義亦夙に完全なる地帶收用に關する制度を認め(一八五八年、一八六七年改正)瑞西亦都市の擴張及計畫に關する統一法を有するが如き(京法誌二三卷二一號拙稿)、近く米國が歐洲の例に倣ひて各洲各市相競て都市經營に關する各種の法制を整備するに意を用ゐて至らざるなきが如き(米國の事例を述ぶるは煩に亘るが故に之を避けむ、Lewis. The planning of the modern City 1916 p. 333-337, Flavl Shurtleff, Carrying out the City Plan 1914 p. 211—307 等に依りて參照すべし)以て其の趨勢を窺知すべし)巨資を投じ技術を擧げて竭さゞるは莫し(Howe, The modern City and the Problems 1915, Raymond Umsin, Town Planning in Practice; Lerisi 前揭、Town Planning Conference London 1910; The Case for Town Planning by Altridge 1915 American City Progress and Law by Mc. Bain 1908; Städte-baul.) 是都市の國家に對する地位の重大なるに考ふるときは當然の事たり

(三)都市發展の趨勢と其の對應策の基礎觀念 都市發展の趨勢を通覽するに何れも都市の行政區域內に於て平面的の發展と立體的の發展とを遂げ其の將さに窮まらむとするに至りて溢れて區域外に膨脹す、都市は蛸の手の如しといふは此の趨勢の形容なり、之を獨墺の都市に見るに中世外敵を防禦する爲に築ける外廓の城砦も其の商工業の未だ發展せざりし時代即都市が人口の自然的增殖に依りてのみ徐々に發展したる時代に在りては都市存在の要件にして社會上經濟上何等の問題を釀さざりき、然るに近世の如く用兵策に變革を來たしたる以上は城砦は既に何等の用をも爲さゞるのみならず都市が今日の如く急激なる發達を遂ぐるに至りては此の都市封鎖は偶以て前述各種の弊を滋生するに至るのみなるに依り維納が其城砦を夷けて循環道路及公園を開設し殘地は之を適當に地割して住居地に供したるが爲め著しく同市が郊外に向て發展するの趨勢を促進助成したるの例に倣ひ商工業の發

展に伴ふ都市の發達に對應するの策を講ぜるは(Patrick Abercrombie, The study of Town Planning in The Town Planning Review Vol. IV No. 2; Lewis p. 97; A. Zeller, Die Auflassung alter Festungswerke in Städteband. Vorträge Id. V Heft 7. 1912)畢竟都市の擴張計畫を圖れるに外ならず

都市發展の勢既に斯の如しとせば市は本家にして其の隣接郊外町村は其の分家たるの關係に在り、市と其の郊外町村とは其の社會現象としての運命と經濟現象としての利害關係を共通するものにして二者相倚り相輔けて永久に都市なる單體の統制ある有機體系を組織するものと謂はざるべからず、而して其の機能を十分に發揮せしむるの目的を以て現在共通して弊に堪へざるものあるを除き將來公利を增進するに必要なる計畫を策進するを以て都市の將來の發展に應ずる對策の基礎觀念とす

(四)都市計畫法と市街地建築物法　都市は前述の如く其の內外に亘りて發展すべきものなるを以て都市內並其の接近町村を一體に看做し之に對して將來の擴張發展に應ずるの計畫を立てざるべからざるは論を俟たず、必要を感ずる儘に秩序なく紊りに擴張發展するに任すが如き其の自暴主義又は個人の自由主義に放任すべきに非らず、此の主義此の思想は素英國に於ける政治經濟上の所生にして個人の極端なる權威と獨立自尊とを主張し市町村又は國家の公權の干涉を排斥せむとするに在り(Walter E. Weyl, The new Democracy Chapt. IV)曾に英國の思想界を征服したるのみならず米國を征服し、我國にも傳播し既に吾人の生活に深く浸潤して確き信念を形成するに至れるの感あり、然るに此の思潮こそは都市の合理的團體生活と相容れざるものなるを以て、都市全體の公同福利の爲都市永遠の計を樹つるに方りては深く考慮を運らさゞるべからず、個人の權利自由は素より尊重すべしと雖も都市存立の必要上團體生活に順應する樣或程度迄は制限に服せしむる亦已むを得ざるなり(Lewis chap. XIV. Shurt, Jeff Chap. V & VI)斯くて都市行政に關する立法をして社會化せしめむとするもの即都市計畫に關する法制の導火線にして又以て其の基礎觀念とす、今回政府が議會の

協賛を經て公布したる都市計畫法及市街地建築物法亦茲に立脚するものなり、以下簡單に其の要領を摘錄せむ

(五)都市計畫法の要項

(1)都市計畫區域の決定　都市發展の狀を見るに孰れの國に在りても都市は二十箇年或は二十五箇年長きも三十箇年にして戶口倍加するに至るものなるが故に都市發展の計を策するに方りては須らく三十年或は五十年後を達觀豫見して之に適應するが如く計畫せざる可らず、我國の如く此の趨勢を無視して何等深く備ふる所なきに於ては都市は今日の如く各種の方面に於て著しく窮狀に陷ゐり、特に住居の過密、家居の過密より空間の過密(Sky-Congestion)と爲り、交通に於ては日常生活の便益に供すべき電車、汽車等の文明機關は却て利用上の苦痛を感じ道路及水路上の交通は其の能率を阻むこと著しく、爲に商工業の受くる損失名狀す可らず、又衛生上に於ては死亡率歐洲文明諸都市の多くは千分の十四、五以下にして千分の十以下に下るもの亦其の例に乏しからざるに我國都市に在りては遙に高く其の都市の能率に影響するもの決して鮮しとせず、其の他各種の方面に於て歐米諸都市に比し非常の遜色あるを免れず、是歐米諸都市の或る者は時運の要求に先んじ、或る者は商工業の急激なる發達に伴ふ都市發展の極めて急速なるが爲に嘗めたる苦き經驗に依り之が對策として都市の發展擴張の計畫を樹立し夙に之が實行に力を用ひたるが爲なり(Hartman, City Planning, Conference 1912 Vol. 2)

Room Congestion, room overcrowding; Soc congestio., land overcrowding

抑都市の發展擴張の計畫を按ずるに二種あり一は即隣接地域の市域編入にして一は市町村の組合の强制なり

Eingemeindung, Annexation and Consolidation

イ、市域の編入　其の最著しき例としてはヂユッセルドルフなり(Raymond Unsin, The Town Extension Plan; Howe, European Cities at Work)我國に在りても往年名古屋が熱田を併せ、橫濱が神奈川を併せ、最近京都が隣接町村の合併を行ひたるが如き事例少からず、乍併此等の合併は果して各都市に於て統制ある都市計畫を自覺するありて將來の發展の

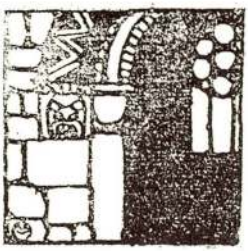
爲萬全の策を講じたる成果なりしや否や、我國に於ける都市問題が然かく未だ甚盛ならざるときに方り町村の併合を斷行したるの一事は都市發展擴張計畫の一端を解決せるものにして素より先見の明を誇るに足ると雖も此の事業は現實に急迫せる問題を單に形式上より解決したるに止まり、固より所謂自覺せる都市計畫として遠大の計畫に出でたるものに非ざるのみならず、合併の目的たる新都市を單一的體系の組織として活動せしむべき施設の充備に至りては未だ意の如く行はれざるものあるは洵に浩歎に堪へず(Gemünd, S. 163 fg insbes. S. 195 參照)

ロ、組合の強制　最近獨逸に在りては任意の編入、合併が種々困難なる事情ありて動もすれば時機を逸して都市の健全なる發展を庶幾する所以に非ざるを想ひ伯林及其の近郊に於ける數多の市町村共同の繁榮發展を期する爲一の大伯林組合を作り(Zweckverband Grosz-Berlin)交通機關、建築計畫の實施及自由空地の保存に關する共通問題を共同整理することゝし以て都市發展策の萬全を期せり、此の組合の目的達成せらるゝに於ては能く現代都市改善の實を擧げ得べけむ(Zweckverbandgesetz v. 1913 Art. I. u. 3 u. a. 引用參照を要す、Gemünd S. 209 fg. Daniel Bellet et Will Daroilte, Ce, que doit etre la cité Moderne chap. XVIII 311)

我都市計畫法は其形式を異にするも實質に於ては獨の强制組合の性質を有するものにして彼の都市計畫區域を定むるに(第二條)交通保安衛生及經濟上等に於て一體系を組織する團體としての利害を共通する都市幷其の郊外町村の地域を以て單一なる有機體として取扱はむとするに在り、其の將來の發展に對し統一的に策するもの即都市計畫にして(第一條)都市生活改善の目的を達成せむとするものなり。(續く)

至善

至善は只至善に由つて達せらるべし、或は最も高きに達せんには是非とも高きに就かざるべからず。(ユーゴー)



都市研究の必要（中）

都市研究會副會頭　内田嘉吉

＝慈善事業又は救濟事業＝

最後に、慈善事業若くは救濟事業であるが、是も新しき文明の進歩に伴つて、歐羅巴や亞米利加の都市に於ては種々計畫されてゐる。又、大阪方面に於ても種々な計畫であるようであるが、就中、林知事は、方面委員といふものを設け、窮民の狀態に就て頗る苦心されてゐるようである。是は寔に結構な事であつて、或は窮民の救助、病院の施設、孤兒院とか感化院とかいふような施設の如きものも、夫れ夫れ計畫せらるゝようであるが、世の中が進むと種々な點に於て窮民を生ずることが多くなるのであつて、文明の發達は一面に富豪を出すが、即ち成金を出すが、之と反對に窮民も亦多くなるのである。即ち、物價の騰貴、殊に生命に必要なる食料品の騰貴の如き事實は、窮民を多く增すことゝ成り、之に對する救濟の方法を講ずるは、寔に必要事であつて、市街地に於て特に其必要を感ずる次第である。

＝其他二三の問題＝

細かに云はゞ、以上列擧した問題以外の他の事項も必ずや包含されて研究すべきものがあらうと想ふ。先づ、第一に、昔には無かつた處の

ものゝで而も今日斯くの如き事が殖へて來るのは已むを得ざる事情が其處に存在しゐるのである昔の都會は、單に物々交換の場所に過ぎなかつた。約り、『市』といふことは、『いち』といふ事で、農民が其作物を持つて來て、自分の必要な品物と交換する場所に過ぎなかつた。夫れが段々發達し、特殊の制度を備へて都會となつたに相違ないと吾々は認めるのである。殊に、工業が發達して來ると、勞力を得る點からも、又は材料の上からも、人の多く集つてゐる都市に於て仕事を爲すことは甚だ便利である。即ち最近に於ける都市の發達は、工業の興隆と共に其必要を生じ來り、隨つて、地方に於て仕事の無き爲困つてゐた者が都會に出て來ると、容易に仕事を見付けることが出來得る故に、田舍の人が段々都會へ移つて來る次第である。英吉利などの例を聞くに、曾つて田舍に住んだ人は總人口の三割乃至三割五歩なりしが、最近田舍に住んでゐる人は僅に總人口の一割位に過ぎないといふことである。又、亞米利加に於ても、都會に住む人の割合が最近非常に多くなつた。三十年程以前は、田舍に住む人が七十人で、都會に住む人が三十人であつた。處が、近來は、稍等分して、都會に住む人と田舍に住む人の差が殆んど無い位になつたといふことである。隨つて、人口の增加と共に、都會に於ては、工業の施設が非常に多くなつたのである。又、都會の人口が多くなつて來ると共に、都會以外に、即ち俗に云ふ處の接續町村に於て工業を起す者が非常に多くなつて來る。隨つて、煙が多いとか或は生活狀態に種々なる障碍を惹起して、之等の工場はずつと遠くへ遷つて了う傾向を生ずる故に自然都會以外に向つて、交通機關＝道路を設くる必要が生じ來て、竟には、接續町村に起つた仕事の爲、其處へ蝟集した人が自然に都會を成し、夫れが元の大きな市に結び付いて、市の範圍は夫れだけ擴張されるといふことになるのである。約り、樹木が生長して行くのに、核眞から段々と皮が出來て、夫れが段々擴つて行つて遂に大樹と成るような具合に、中心を置き夫れ

から伸びて擴つて行くと同じ狀態であり、隨つて、衛生の事とか、其他、昔は單純であつたのが今日では複雜に成つて來たのである。前に列擧した如く、都市計畫に對して、工業地域と商業地域とを分つ必要があり、或は住居地域を區別する必要を生じ、或は道路を設けて交通の便を圖るといふような問題、並に、衛生上の問題抔種々なる事を議題として研究することが必要となつたのであらうと思ふ。

斯く種々なる仕事を奈何に處理すべきか

次いで起る問題は、彼樣な多岐に亘る仕事を處理するの方法奈何といふ事であるが、是には市制或は町村制といふものがあつて、自治體の機關として之等各種の問題を解決すべき任を有つてゐるのである。日本の市制は既に實行されてから三十年を經過してゐるので、相當經驗を積んだようであるが、今日に於ても、常に市政に對して種々な苦情が起り、就中、東京抔では市政の執行上に就て常に議論が起つて、只今の市制以外、高級市制といふものを設け、市長を府の管轄から獨立さして、内務省直轄にしたら奈何であらうかといふような議論が起り、又、特別市制を設けて、他の都市とは全然別箇の方法によりて、市政を執行したいといふ見解も起つてゐる。東京が果してソウいふような必要を認めてゐるとすれば、大阪等に於ても、夫等の研究を致さなければならぬと思ふ。就中、吾々が恒に承知してゐる問題は、市會と市長との關係、若くは、市參事會と市長との關係である。市會は議決の機關であり、市參事會は市長の諮問機關であつて、市參事會市會といふものは、決して執行の機關でないのである。けれども、市長と市參事會との關係は、往々にして市參事會が執行機關であるが如き外觀を生ずる嫌がある。果して然らば、市長の權限は夫れだけ狹め

られることゝなるので、圓滿に市長の職務を執行する上に於て甚しき障碍である。果して右樣の缺陷がありとすれば、是は速に改善を要することゝ考へる。亞米利加邊で、近頃斯の點に就き、市參事會と稱すべきであらうかカウンシルと稱する處の公選した市民の代表者と市長とが所謂上級の決議機關と成り、其議決機關の議決に依つて、シチー・コムミッショナー或はシチー・マネージャー、支配人と云ふか或は會社で云へば專務取締役とでも名付ける人を選んで、さうして、前に列擧した交通機關なり又各種の問題を執行させる機關とする。是は、最近の施設であるが、寔に好結果を奏したので、各地で斯の制度を準用し、其成績は非常に良好であつたといふことである。要するに、是は、議決機關と執行機關とを區別し、議決機關は議決を爲し執行機關をして執行せしむるといふことになつてゐるから、少も衝突せずして仕事をする。而して專務取締役に當る處の市の支配人といふものは、相當なる經驗を有つてゐる人が之に膺るのであるから、市の仕事が十分に行はれて、市民が滿足を得てゐるように承知してゐる。斯ういふことは、我邦に於ても研究すべき問題であらうと思ふ。

═其分掌を奈何にすべき═

次に、市の機關によつて之を執行する場合に什ういふ風に區別するか、例へば、市の電氣局といふものがあつて、電車の事を掌つてゐる。水道課といふものがあつて水道の事務を扱ひ、或は技術課があつて技術上の事務を掌るといふ風に、種々の問題に依つて課を設けてゐるが、之等は、果して其市の仕事を遂行するに適當であるか否かといふことを研究しなければならぬ政府に於ては、官制を設けて各省に仕事を別ち各省の中には局を設け、局の中に課を設けて、秩序整然として仕事をしてゐるが、斯の官制なるものは、時に應じて相當に改善せねば事務の進捗に影響支障を生ずる場合があつて、僅に官

制の改正に依つて大に仕事を進めて行くことが出來るようになるのである故此の局課の配合といふことは最も注意を要する次第で、人を少くして仕事を餘計にすることが出來るようにしなければならぬのである。又、課の仕事を專門家に任せるに就いて、種々便宜な方法もあらうと思ふが、是等は各種の情勢に應じて適當に考へねばならぬと思ふ。

次は仕事を爲す人の研究であるが、今日まで日本の都市に於て相當の經驗家が採用されてゐると思ふも、市の仕事は隨分多くの人を要するので、殊に、最近は頗る複雜になつて來た故に技術の事を素人にさせることの出來ないのは勿論である。又、一面、經驗家技術家を必要とする事務が增加するが、技術上の問題以外に於ても、矢張り之に相當する處の智識を有つてゐる人を採用しなければならぬ。若し情實に依つて老朽の人を使つてゐたならば、今日日進月步の市の事務を取扱ふ上に於て甚だ不便を來すようになるだらうと思ふ。夫れに就ては、學校を設くる必要がある。紐育邊りでは、市の行政に膺るべき人を敎育する處の學校を設けてゐる。其他、紐育に於ける大學に於ては、市政を研究する學科を設けて、其專門家を養成するようになつてゐる。日本では、まだ、市の吏員を敎育すべき施設を爲してゐる處はない。大學に於ても市の行政に就て研究する學科はまだ設けられてゐない。併し乍ら、日本にも澤山な都市が出來て市政を實行してゐる。殊に東京の如きは三千人以上の人を使つてゐる、大阪に於ても、無論澤山な人を使用してゐる、之等の人は相當な敎育なくして果して仕事を爲し行くことが可能であるや否やといふ問題は敢て論ずる迄もない。將來斯の問題に就ては、大阪とか東京とか殊に多數の人を使用する處では相當の施設をしなければならぬと思ふ。（續く）

○秋到る

今朝秋と知らで門掃く男かな　　存義



都市計畫に就て（二）

內務事務官　吉村哲三

□土地收用と市區改正條例□

次に、土地の收用に就ては、前述の通り、市區改正條例に於ては土地收用法よりも甚だ輕便な法律によつて其土地を收用することが出來たのであるが、斯の法律は、一方に於て少しく苛酷に過ぎはしないかと思はるゝ點がある。即ち土地收用法に於ては、收用する土地の買收價格を收容審査會の意見を以て決定することになつてゐるが、從來の市區改正條例は內務大臣一個の裁決に據つたのである。けれども、今日の一般に於ける法律思想によるときは、斯る事に內務大臣只一個の裁定では奈何であらうかといふことに就て、從來に於ても種々議論もありて、此度都市計畫法を制定する際に、斯の點は矢張り土地收用審査會の意見を徵することにしたのである。併し乍ら、收用すべき區域、收用すべき時期等は、總て都市計畫委員會の決定に依り收用審査會の意見を俟たない事になつてゐる。即ち、何處を收容するか、何時收容するかといふことは、都市計畫委員會で決定するから、事業執行の上には差支ないのである。先づ之等の點が都市計畫法と市區改正條例と其內容を異にしてゐる點であつて、他は大体に於て市區改正條例の精神を襲用してゐるのである。

□都市計畫法内容の類別□

次に、都市計畫法は三十三箇條より成るが、大体に之を八つに別けることが出來得ようと思ふ。即ち、

(一)都市計畫とは元來奈何なるものであるか、即ち都市計畫の定義に關する規定

(二)都市計畫事業を議決する議決機關に關する規定。

(三)執行機關に關する規定。

(四)都市計畫の費用に關する規定。

(五)都市計畫事業の執行方法に關する規定。

(六)監督及强制規定。

(七)行政救濟に關する規定。

(八)都市計畫法と市區改正條例との關係に於ける經過を定むる處の經過規定。

以上が大体の内容にして、(一)の都市計畫とは奈何なるものであるかといふ定義に關する規定は都市計畫法の第一條から三條まで規定してある都市計畫法の第一條には、

『本法に於て都市計畫と稱するは交通衛生保安經濟等に關し永久に公共の安寧を保持し又は福利を增進する爲の重要施設にして市の區域内に於て又は區域外に亘り施行すべきものを云ふ』

とあつて、都市計畫の實質的の意義を明にした規定であると思ふ。即ち、都市計畫は、都市の交通、衛生、保安、經濟、其他敎育なり風紀なり種々なる點に關する重要な施設であつて、都市の永久に公共の安寧を維持し福利を增進する施設である。而して、又、市の區域の内外に亘つて執行される處の重要なる施設なりと云ふのである。斯の第一條の規定は、甚だ抽象的な規定であつて、都市計畫は奈何なるものであるかと云ふ具体的の意味を明にしてゐないのである併し乍ら、之に依つて、都市計畫の何であるといふ大約の輪廓丈けは判るので、即ち都市の公安を維持し福利を增進するのが其目的である。其目的を達する方法は、都市の交通なり衛生な

り保安なり經濟上の重要なる施設を執行することである。而して、其事業を執行するのは都市の區域内及區域外に於て執行されるといふことが第一條に明にされてゐるのである。第二條に都市計畫區域は奈何にして定むるかといふ規定であつて、第三條は『都市計畫事業及毎年度執行すべき都市計畫事業は都市計畫委員會の議を經て内務大臣之を決定し内閣の認可を受くべし』とあつて、是は、都市計畫の形式的意義を明にした規定であらうと思ふ。即ち、第一條の重要施設を都市計畫委員會で決め、夫れを内務大臣が決定し、内閣の認可を受け初めて其形が現はれるのである。夫れ故に、其手續を履むだ事業でなければ、夫れは都市計畫ではないのである。

經費は必ず委員會の議決と内務大臣の決定と内閣の認可を要する。斯の三つの要件を備へざれば、本法に依りて都市計畫事業と認めてゐるものではない。何故斯る鄭重な手續を履むかといふに、前述の如く、都市計畫は國の仕事であるといふ精神からして、是は市が決定するものではない、其決定は内務大臣がするのである。只斯の決定の爲には、前述べた委員會の議決を經ねばならぬといふことは一つの要素である尚夫れ以上に斯の仕事は各個人の權利義務と非常な關係を有してゐるからして、更に閣議に附し、閣議の認むる處により、初めて効果を生ずるといふ關係になつてゐる。斯くの如く、都市計畫法では、都市計畫事業といふものを非常に重く見てゐるのであつて、是れ全く今日の都市計畫事業は即ち國の事業である、都市の盛衰は國の盛衰になるのである、都市の政策が宜しきを得ると否とでは、實に、國運の消長に至大な關係があるといふ考より、都市計畫事業は、都市丈けに委せず、又、其地方の府縣にも委せず内務大臣が直接に之を定め、更に内閣の認可を受け、初めて都市計畫事業として成立するのである。夫れ故、次に起る問題は、都市計畫事業を議決する機關、即ち、都市計畫委員會の組織が甚だ重要なる關係になるのである故、第二に

議決機關に關する規定を掲げてゐるのである。

□都市計畫委員會□

市の事業を議決する爲には市會がある、府縣の仕事を議決する爲には府縣會がある、而して都市計畫事業を執行する爲には都市計畫委員會なる一の特別な國家機關を設けたのである。而して、此の委員會は、奈何なる組織によつて、又、奈何なる權限を有つてゐるかといふことは此の法律には規定されてゐない、是は、勅令で定めることになつてゐる。併し乍ら、委員會の組織は奈何なる地方的の分子を含めて可いか、又、國家の利益を代表する分子を奈何にして含めて可いかといふことに就て、餘程重大な關係があるので、只今夫れに取懸つてゐるのであるが、大體に於て其方針を申せば、此委員會は、什うしても二つ拵へなければなるまいと思ふ。第一は、都市計畫を行ふ各市に一の委員會を設ける、即ち地方委員會とでも申すべきであらうか、其地方地方に一の委員會を置くといふことは必要であらう。次に、中央には中央委員會といふやうなものを置く、而して、大體に於ては地方委員會の議決によつて都市計畫委員會の權限に屬する事項を議決させるようにしたら可からうと思ふ。夫れは、都市計畫事業の利害關係は主として其地方に深いのであるが故に、其地方の委員を以て、第一に其都市計畫事業を議決させ、其議決を以て直ちに都市計畫委員會の議決と見ることが至當であらうと思ふ。併し乍ら地方委員會に於ても、其委員は、地方の利益を代表する分子のみを以てしては適當ではないのであつて、地方委員の組織も、一半は都市の利益を代表する者、一半は國の利益を代表する者即ち、市會議員なり府會議員なり其地方の利益を代表してゐる人からも出し、又、地方の官廳にして中央政府の職務を執つてゐる者をも委員の一人とすることは、是亦必要であらう。而して、其上に事業の中でも最も要重であつて、又其利害關係の及ぶ範圍も非常に廣いと認められる

ゝような大計畫や、又、巨費を要する事業や又は困難な事業抔は、地方委員會で一應協議して更に中央に持つて來て之を練り直し、而して兩方の委員會の決議に依り、初めて都市計畫委員會の議決と見ることが穩當であると思ふので、多分斯る組織によつて都市計畫委員會が組織されることと思ふ。斯る鄭重な手續を履むで更に內務大臣が之を審査決定の上、內閣の認可を受け初めて行はれるのである。今後、大阪市に於ても、都市計畫法に基き種々なる事業を計畫さるゝことと想ふが、斯の事業は、斯くの如き鄭重なる手續を履むで實行するものであるといふことを一應御諒解になつて頂き度い。夫れ故、是に對しては種々なる特點もあれば、又、其執行を容易ならしむる特別の法規も規定されるのである。

□執行機關□

第三は、執行機關に關する規定である。是は市區改正條例に於て、其市の市長をして執行させるといふことになつてゐるが、本法に於ては矢張行政廳をして執行させるといふことになつてゐる。奈何なる行政廳をして執行させるかは勅令に讓つてあるが、私の意見を以てすれば、原則としては都市の行政廳即ち市長をして執行せしむることが適當であらうと思ふが、多分ソウ成りましよう。併し乍ら　都市計畫事業は、必ずしも市の區域內とは限らない、市の區域外に於ても執行される事業であつて、主もに其地方丈けの利害關係に止まるものは其事業地の公共團體、即ち町村長をして執行さしても差支へない事業もあらう。又、市の區域外に於て、市と町村を聯絡する大事業の如きは、或は府縣の事業に讓つて然るべきものもあらう。原則としては、市長が之を執行することにならうが、例外として、町村長なり府縣知事が執行する事業が出て來るであらうから、多分ソウいふ風に規定されることと想ふ。（續く）



軍備と文化

（下）

法學博士　渡邊鐵藏

＝拾＝

軍備の問題に就て多少離れた問題の如く感せらるゝも、又、奈何にも陸軍に突き掛る如く見ゆるも、蓋し、已むを得ざる次第なるを以て、此處に少しく土地に就て述ぶることゝせん。陸軍にては、土地を矢鱈に所有し在り、斯の所有の中に、維新の變革に依り偶然の結果として軍隊の占領せる土地を其儘永遠に占領され在ることは、國民の幸福若くは近接自治團體の幸福の爲に決して喜ぶべき事にあらず。自分は、東京に於て偶然其感を深くせるが、其事實は獨り東京に於てのみならず大阪に於て　之を見受け得るなり。例へば、大阪の天保山の如きは、陸軍糧秣支廠？ありて、艸茫々と生へ茂れる處あり其周圍は、非常に繁昌して、煙突林立、多くの職工は忙し氣に立働き居れり、其中に斯る草茫々たる空地に等しき一廓あるは、大阪目貫の築港の眞中へ斯るものを置く必要なかるべし。殊に、築港埋立地數十萬坪の內を陸軍に無償にて讓與せりとのことなり。斯くの如き土地こそ大阪市民の物として即ち大阪市に交附するならば他の築港の土地と等しく奈何樣とも利用し得るなり。國民が生活に困難を感じ、財政上に苦痛を覺ゆる今日に於て、斯る狀態の少からざることは、蓋し、甚だ好ましからざる事と謂ふ可し

斯くの如き財産は、努めて國民總ての利益の爲め、今少しく密接なる利害關係を有する自治團體等に交附するの方針に更められんことを希望す。例へば、宮內省に於ても、不用土地拂下の改正を爲し、而も、昨年度の歲入一千七百萬圓の大部分たる一千萬圓を割き、之を敎育資金として敎育機關擴張の資に下附されたり。即ち、宮內省は、宮中と國民との疎隔を來すが如き事あらん歟、種々の理由に於て不可なりとて、自ら率先し、民福を圖り且つ國民の文化を進めむが爲斯くの如き巨額の內帑を下附されしなり。されば、屢次軍閥の威力を非難され在る日本の陸軍も、土地の整理位は當然の事なるべし。併し乍ら、斯の土地整理問題は、獨り陸軍のみの問題にあらず、一般官有財産の整理は、凡て大藏省に調査會を設けて、今進行中なりとの事なり。されど、自分は、其趣旨が調査のみならず進んで、一日も早く其整理の實現されんことを望む。要するに、自分は、軍國主義的の軍備を排斥して——勿論軍備を廢棄せよといふに非ず——軍國主義的軍備に對する國民の負擔を無益に增加せざること、第二に、軍人は今少しく文化的の色彩を有するか、或は、政治的の最高なる頭腦となること、若くは、一方に於て政治を支配することを成るべき回避されんことを慫慂す、一言以て之を掩はゞ、即ち、『軍國主義より文化主義へ』と云ふなり。

拾壹

然らば、奈何にして文化主義に進むべきや、之を述ぶるに先ち、上述の軍備に就て誤解を避くる爲一言附加し置くべき事あり。卽は、若し軍備を縮小し或は徵兵年限を短縮することゝならば、一朝有事の場合に、日本は國の立場を失ひ、軍人にして戰場に趨く事を忌避するに至らんと憂慮する者あるやも計り難し。されど、有事に處して數億の豫算を議決し、又、進んで戰線に出づることは、恐らく日本國民何人と雖も躊躇せざる處なるを信ずるなり。故に、常備兵

の効果が割合に薄きこと、及び、其時に存在せる軍備の効果割合に少きことは、這回の大戰に於て十分に證據立てられたるを信ず、軍備に就ては斯くの如き考を有するなり。而して、文化に進む第一着手として、軍備を平和的に爲すとも、尙感情の衝突なるものありて、竟に國家間に爭隙を生ずべき場合あるべし。されば、吾々國民は、出來得る限り他の國民と接觸して、其意思の疎通を圖ることに努めざるべからず。徒らに茫漠たる國體論を云爲して、自己と同等若くはより以上の文明國民を輕蔑することは、決して相互の蝕合を得る所以にあらず。勿論爭はざるべからざる場合の存ずべきことあらんも、出來得る限り融和的態度を持して、意思の疎通を圖ることは、軍備問題と等しく、夫れに依りて國家間に於ける無用の衝突を避くるの要訣たるを信ずる也。

═ 拾貳 ═

第三に、國民個々が互に他人を尊重するのみならず、個人が何處へ行くとも恒に尊重を受け又、文化的の敎養を受け、或は自ら斯る注意を爲し、外國人と接觸する場合に、其考へに於て若くは敎育に於て之を認識せしめ、即ち、些細なる禮儀若は進止動作等に於ても、吾々の人格を認めしむるの必要あるを信ず。單に智識或は藝術のみならず、生活の慣習若くは方法等に就ても成るべく不必要なる惡感を催さしめざるべく注意すべきは、其事の小なるが如くにして、其結果は甚だ大なるべし。扨て、國民が文化的に進むことは、國民總體として、又一個の人が道德的に反省するを第一とせん。其他、我邦に居住せる人民が物質的生活に於て幸福なる狀態に在ること、科學、敎育、藝術の發達し又普及し在ること、之等は我邦の文化を計るの標準にして、吾々は、軍備の强大を競ふよりも、寧ろ斯の點に充實を圖るを以て本來の目的ならんと信ず。刻下の問題として、我政府又は國民の據るべき途は、第一に國民生活の改善、第二は文化の促進なり、斯の二箇を標語として進まざる

べからず。彼の政黨の施政標榜若くは大臣の施政方針を讀むに、或は國防、敎育、產業、交通と云ふが如く一般的國家事務の大なる題目を擧げて、之を施政の綱領と爲しあるが、斯くの如き事は實際に於て奈何なる事を爲し在るや知るべからざるを以て、實際的に又具体的に部分的の問題を採り、以て是を自分だけ解決すべき事業として進まざるべからず。這は勿論奈何なる卑近の問題にても可、寧ろ國民の生活に密接の關係ある道路の改良、電車交通の改良、住宅の建設、其他都市一般的の文明の完成、或は社會政策の組織の如き、種々なる問題存ずべし。要するに、今少しく具体的の問題を解決せざるべからず。

═ 拾參 ═

斯の點に於ては、現內閣は餘程今迄とは違つて文化主義に進めるものゝ如し。例へば、敎育機關擴張又は軍人總督の廢止等ありしも、徹底的に文化に向つて進むことを望まざるべからず然るに、昨年なりしか二十億圓の陸軍擴張豫算なるものを提出されしが、自分は是に對して只唖然たる外なかりき。而も、幷は、講和問題の開始されし頃に再び擡頭し來れり。若し斯る巨彩の金額を捻出し得るならば、宜しく、前述の如く國民生活の改善及其文化促進の方面に使用されんことを希望せざるを得ず。即ち、前述の通り、道路、住宅、交通機關等に其財源を振替へ、地方問題の解決に餘裕を與へ、而して、一般國民の幸福を圖り、國民文化的事業の增進の助長を望まざるべからず。國家が直接國民生活の幸福なるものを等閑に附せん歟、竟に種々なる不平を惹起するに到るべし。又、藝術方面若くは敎育の方面に就て注意を怠る結果、國民は極端なる個人主義と成り、或は又社會的の色彩を帶ぶることゝなるべし。要するに、自分は、曖昧なる國體保有論を唱へ、國民文化が新しき方向に進化向上することを妨ぐるが如き結果を惹起するを好まざるなり。斯くの如くして、國民の文化的向上と、國家合理的發達及國民の普遍的幸福を企圖するに仍りて、眞の意味の愛國論、或は徹底的の國體精華發揮論者の欲する結果に到達するを信ずる也。（畢）



我邦現代住宅改良の施工法（二）

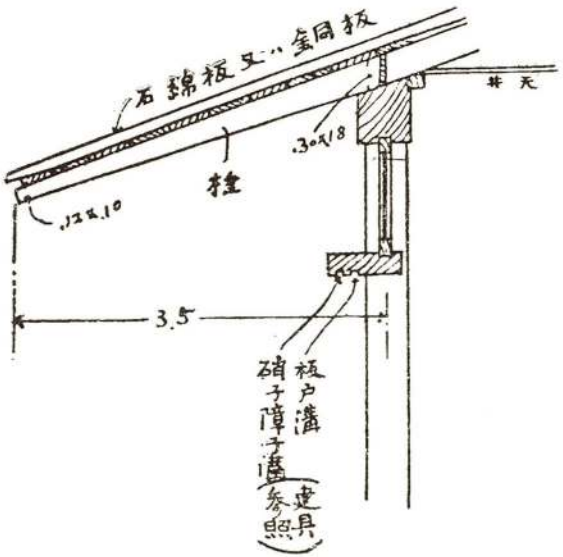
會員　小笠原鈔

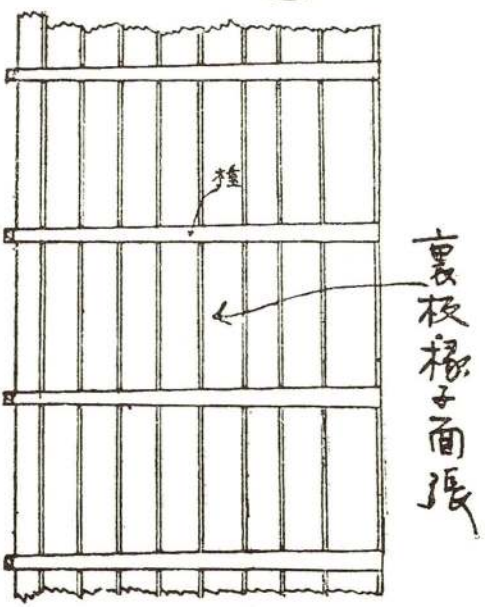
☒小屋組及屋根の改良

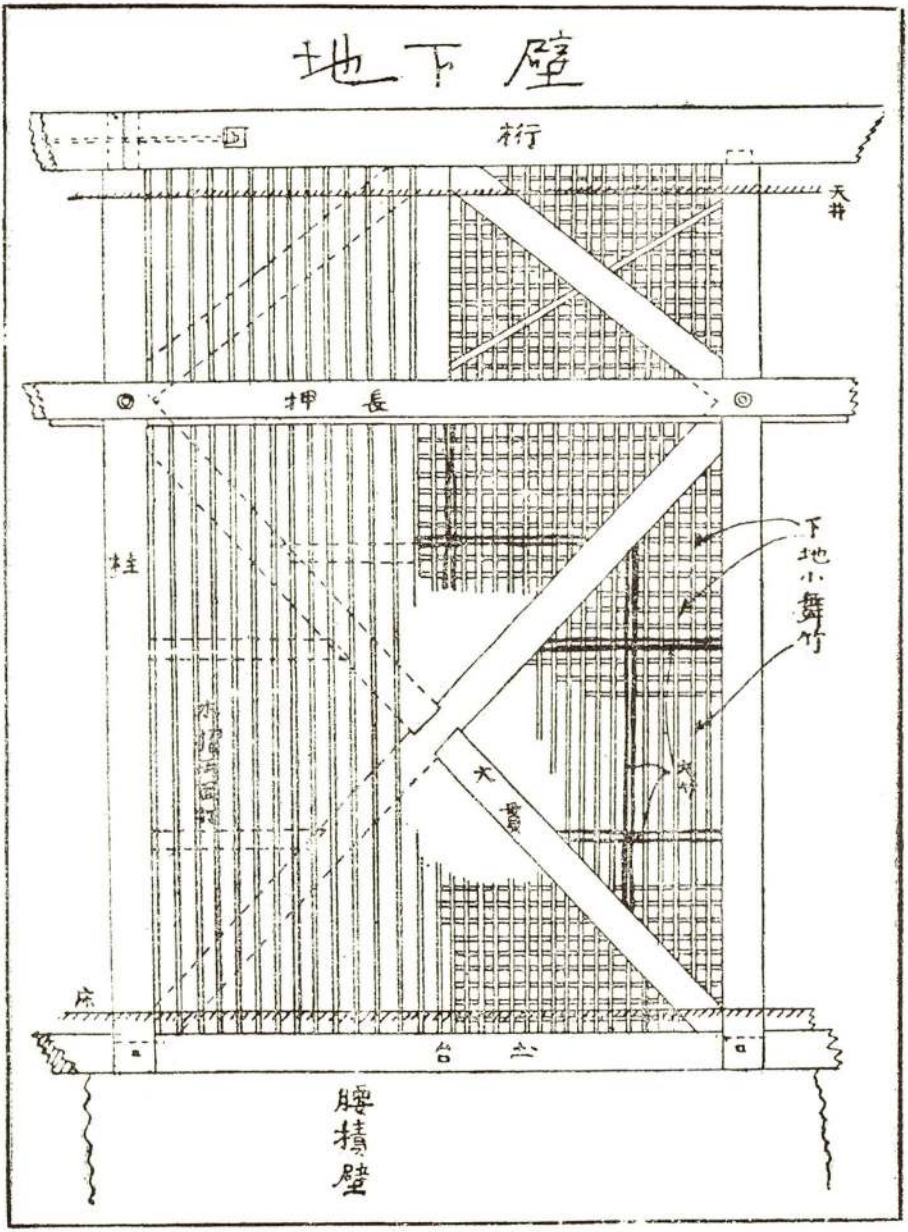
日本屋は、大体に柱數多く、且又一室のスパンも割合に狭き故、小屋構造は在來通り總てビーム式で爲すを可と致します。近來、西洋小屋のトラッスになす事往々あれども、之は主に側柱のみがロードを受くる樣になつて良法はありませぬ。在來よりも一層多く敷桁を各柱上に置渡して短き小屋梁を各方面より架渡し之を成る可く筋違に配置し、敷桁の中心重荷にならざるよう注意すれば、全體の構造上に十分なるカタマリを與へ且耐震的良結果を得られます。

尙又屋根は住宅に於ける外形上の美觀に大なる影響を與ふるが故に、（關西方面にては大分屋根の形に工夫をこらす習慣あるも、關東方面は餘り屋根の形を注意しないようです）或部分に入母屋又は起り破風等を造るか、若くは、ドルマーウィンドー的の形を工夫して變化を生せしむるよう改良致したいと思ひます。而して、在來日本屋の屋根瓦はロードとしても重きに過ぎ形より見ても少しくマッシーブにあらざるかと存じます。殊に、棟積に於て最も其感を深う致します。倉庫等に在りては勿論在來式にて可うムいますけれども、柱細き且オープン多き日本屋には、今少しく屋根瓦を輕く感ずるよう改良致度いと思います。斯の點に於て、スレートに

椽側軒先






地下壁
桁
天井
長押
柱
下地小舞竹
大壁
床
台
腰摺壁

低き棟瓦を用ふるか、或は又瓦ならば總て百枚もの位の小瓦を葺き、且棟瓦も特種の低き製品を用ゆるよう改良すること、特に軒先又は椽庇等は、石綿盤、銅板、亞鉛引鐵板等を最も可と致します。

各軒先裏は、防火的構造から推奨すれば、薄き鐵鋼コンクリート塗か、又はアイヨンニスを用ひて棰共塗出にしたらば可いと存じます。併し、庭先の椽側軒裏は、塗物にては餘りに武骨にして面白からず、之等は當分在來の手法を用ふるの止むを得ないかと存じます。併し、其形に於ては、千遍一律の角或は丸太棰を用ひず少しく西洋趣味に圖の如き棰を用ひ、裏板を椽子面張等に爲すも可と信じます。

⊠壁、床及天井構造の改良

(A) 在來の日本屋はオープン多きに過ぎ、壁少きに失するの嫌があります。壁は建物全體の構造上大に強力を助け、且又屋内家具の配置上に必要なるが故に、成るべく多く造るが可いと思ひます。けれども、其壁體の構造は、在來の手法では餘り完全でなく、耐震構造より推奨しますれば、圖の如く杉大貫材を以て筋違に壁下地を造り、之に両面より木摺を竪打に取付け、漆喰塗にするか、或は大貫の如き木材を用ひず鐵網を桁柱土臺へステープル止にして張合せ、以て鐵網コンクリート塗にするか、又は、アイヨン・ラスを以て鐵網同樣周圍釘打にしてモルタル塗にするか、斯の三手法を最も理想的なものと致します、けれども、孰れも在來の土壁より二三倍の高價であります。

故に、斯の手法に據れざる場合には、前記大貫の筋違下地の中眞に在來通りの竹小舞を掻き土壁を塗り、大貫との繋ぎに布張を十分にし、漆喰伏をして仕上ぐることを可と致します。

在來日本屋の壁の仕上は多く色土又は砂でありますが、極めて毀損し易く、且又其塗替に非常な手數が掛り、殊に室内の壁塗替は、其裝飾及家具疊等を取外さゝれば塗替出來兼ぬるので

あります。斯の點に於て大に其改良の必要を感じます。即ち、壁塗は總て之を中塗までとし、仕上は紙張又は布張にせば、非常に面白からうと存じます。無論模様なり無地なり隨意の色彩を得る許りでなく、其張替容易にして、時々之を目新しく爲し得るの利益があります。

殊に、在來の土壁は、塲合に依りては其室に冷かな感を起すことがありますけれども、紙又は布張と致しましたならば斯る感觸を除却し得ると存じます。

其張方も、下地中塗壁でありますから、相當の下張は無論必要でありますけれども、大体の工費に於ては、在來の土壁仕上に比して多大な增額を要せまいと思はれます。

殊に、木摺壁は龜裂し易き故、下地を本案の如く筋違大貫と爲す場合の如きは、別して紙又は布張仕上に成すが可いと存じます。

本改良案に於ては、大体在來の壁貫を使用せざるが故に、柱建方に於て在來の方法よりも多少困難ではありますけれども、是は一種の習慣性のものでありますから、本案の塲合には、假設的に貫打又は相當支持工をなせば、堅固即ち土臺の建前嵌及桁の取付きに依り大体の柱建を爲すことが出來得ます。更に、大筋違を要所要所に配置致しまして、全體の歪直しを整理し、柱緊結金物の本締を爲したる上造作材を取付くるように致しましたならば、何等建方に差支を生じませぬ。

(B) 床構造は、梁根太共成可く丈夫に組合せまして、室内の陳列物に震動を與へざるよう注意を要します。

而して、疊數の處は、在來の手法に據りましても、椅子式の處はリノリユーム又は絨氈敷と致し、廊下椽側、臺所等從來多く拭板張なりし處は全部リノリユーム敷に改良致しますれば、其拭板の品質撰擇又は板矧合せの間隙に對する苦心もなく、只掃除に非常なる手數を省き、尙又一般暖房的に良結果と成ります。

(C) 天井は、在來の竿緣天井は暖房的に最も不工合。且又失火の塲合に其炎上を最も便にする

ものでありますから、成るべく防火的に改良を要します。

斯の點に於て、椅子式の室には、無論木摺漆喰塗天井又は之に紙張をなすか、夫れ以上防火的の下地壁と同樣鐵網コンクリート、メタルシーリング、又はアイヨンラスに改良致し度いのであります。

疊式の室でありましても、實用上斯の手法に依りまして仕上けの張紙を工夫しますれば、在來天井の如き調和を見出し得られます。

假令在來通り板天井と爲します場合でありましても、其裏に一層の防火的下地を造り置くことが必要であります。

紙張仕上の天井は、周圍張壁と相俟ちまして時々目新しき取替を容易ならしめますから、大に好都合では厶いますまいか。（つゞく）

〔都市の土地政策〕

都市が一定の計畫を立て土地政策住居改善を行はんとするに依りては、即ち此に個人の利益と抵觸を生じ、都市は終に社會一般の公共的利益の爲に私人の利益を犧牲にして計畫を斷行せざるべからざるに至るは、寔に已むを得ざる處にして、公共團體としての都市の公權力の認めらるゝ限りは、都市に之を行ふだけの權能あるや理の當然なり。即ち土地收用法の如きは曾に之れ都市のみに關する法規にあらざれども、都市も亦之に依りて其土地政策を實行し斷行せざる可からざることは、其理頗る了解し易き所に屬す。即ち現時の經濟政策殊に社會政策は頗る以て公共的利益を高調し夫れが爲に多少私權を侵し之を制限し私人の利益を犧牲に供するを顧みざるなり。――〔土地經濟論〕より――



住宅問題と田園都市 (B)

都市事情研究會員 三宅勘一

住宅問題（其二）

寧ろ洋服細民が問題

以上の如く、住宅の需要のみ増加して、其の供給が寧ろ減少の傾向があつて見れば茲に土地の賣買價格や賃貸料は著しく騰貴し、借家賃も亦恐ろしく暴騰するは、蓋し自然の數である。則ち大正六年度に於ける東京市の土地賣買價格は、坪當り十五圓を最低とし、中には坪當り六十七圓五十錢の地價を有する地が、五百圓を以て賣買された例もあれば、坪當り四百圓の評定價格を有する地が一箇月一圓九十錢を以て賃貸された例もあるのである。殊に家賃の如きは、大正三年度に比し大約二倍半乃至三倍の暴騰で、而も此の法外に高き家賃を以てしてすら、尚借るに家なきの有様であつて見れば、其處にも此處にも『吾に家を與へよ』の哀聲が起るのは、素より當然の事といはなければならぬ。

いふまでもなく、生活に餘裕ある者にとつては、住宅の不足も家賃の暴騰も、殆ど痛痒を感ぜぬであらう。然し乍ら、一日の勤勞によつて辛じて其の日の口を糊しつゝある者にとつては現今の住宅狀態は全く致命的脅威である。殺人的威嚇である。殊に、收入寡くして而も相當の體面を保持しなければならぬ薄給者階級は、此の一大脅威の前に、今や畏怖戰慄して、殆ど爲す處を知らざる有様である。げに、勞働者の生活難もさる事ながら、實際上、現在に於て勞働

者より以上に生活難に苦みつゝある者は、薄給者階級である、所謂洋服細民である。

試みに勞働者の賃銀と物價との比較を見よ。明治三十三年を一〇〇とする大正三年の賃銀指數は二〇二・九なりしもの、大正七年六月には二八四・〇となり、物價は同じ期間に於て一二六・三より二八三・四に增率してゐる。素より後者の騰貴率は前者のそれに比して、增加率が高いけれども、指數に於ては依然として賃銀の方が物價の上に在るではないか。また實際上の賃銀に就いていふも、同じ期間に、平均一圓五錢二厘より一圓六錢八厘に騰貴し、平均一箇月四拾四圓餘の收入がある割合となる譯で、是れに家庭の內職より得る賃銀を加算すれば、恐らく一箇月六拾圓を下らないのみならず、中には一日五圓乃至十圓を得る勞働者も寡くないのであるから、勿論、彼等の生活は悲慘の程度を超越得ないにしろ、兎も角、堪え得られない程度のものではない事だけは想像される。

先づ小學教員の生活に觀よ

是れに比較すると、所謂洋服細民なるものゝ生活は、もつとみぢめであり、もつと悲慘である。我東京市には大正五年度調に於て、三千八百二十七名の小學教員があるが、彼等の俸給は平均二十五圓九十錢七厘に過ぎない。今其の內容を細別して見ると左の如くである。

教員別	男	女	平均
尋常本科正教員	三〇、九四〇人	二四、五九四人	二七円七六七
同 專科正教員	二九、四一九	二三、一〇七	二五・七六三
同 准教員	三三、五〇〇	二一、〇〇〇	二二・二五〇
同 代用教員	一九、六八九	一八、〇一四	一八・〇八五
高等本科正教員	三八、三二七	二七、一九〇	三二・七五二
同 專科正教員	三三、二〇九	二三、〇四五	二三・一二七
同 代用教員	一九、六〇〇	二〇、〇〇〇	一九・八〇〇
總平均	二六、三八三	二二、二七八	二四・三三〇

則ち男教員の平均俸給は二十六圓三十八錢三厘、女子のそれは二十二圓二十七錢八厘に過ぎないのである。是れに手當を加へ、恩給又は加俸を加算するも、其の平均收入は一箇月四十圓を超えず、勞働者の收入には、及ばざる遙かに遠いのである。斯くの如き薄給を以てして、止まるなき物價と家賃の騰貴とに對抗し、一面、

教育者としての體面を保ち、第二の國民の敎養者としての修養を積むでゆかなければならないのであるから、其の生活の悲慘なる、全く言語に絶するものがある。從つて、斯の問題の解決せられざる限り、師範學校の入學志願者が、其の定員に滿たず、敎員の素質が日に低下するはまた餘儀なき事で、かくの如きは國民敎育上、寔に由々しき問題であるといはなければならぬ。

なほ外に、我東京市には、三千五百九十餘名の中等學校敎員があるが、俸給に於ては多少の差違こそあれ、其の生活難の程度に到つては、小學敎員と殆ど同じで。是れが爲めに、彼等はともすれば敎鞭を捨てゝ、他の方面に生活の途を求めむとしつゝあるのである。

慘めなる薄給者の群

また東京市役所には、大正六年度末に二千三百九十二名の職員があるが、其の一人平均の俸給年額は三百六十六圓足らず、則ち一箇月三十圓五十錢の割合である。更に區役所には、書記以下水道檢査員に到るまで千三百四十五名の職員がある。而して其の一人平均俸給は、

職名	一人平均年額	一人平均月額
書記	四六八圓	三九・〇圓
書記補	二八三	二三・五
雇	二二四	一八・六
臨時雇	一七三	一四・四
水道査檢員	二三四	一九・五
平均	二七六・四	二三・〇

則ち一箇月二十三圓平均である、從つて是れに多少の手當を加ふるも、勞働者の賃銀には、遙かに及ばないのである。また東京市には警視以下警察書記に到るまで、四千三百六十五名の警察職員があるが、其の月俸も矢張三十圓內外である。其の他諸官廳に於ける職員の俸給も亦ほゞ是れと同樣と見て大差なかるべく、是れに同程度の收入に生活しつゝある會社銀行員等を加算する時は、東京市には、實に夥多しき薄給者が、日に迫る生活難に喘ぎつゝ、問題の解決を待つてゐるのである。

然らば彼等薄給者階級のかくの如き生活難は果して何處より來るかといふに、いふ迄もなく

増俸率が物價及び家賃の騰貴率と相並行しない結果である。現に大正二年一月末を一〇〇とする東京の物價指數は、八年三月には二〇一・六則ち二倍以上の暴騰を示してゐるが、同じ期間に月給が倍加した官公吏あるを聞かず、敎員あるを聞かず、彼等の眼窩日に深うして彼等の頰の日に落つる、蓋し當然の事ではないか。從つて若し彼等の生活難を救ひ、或は尠くとも是れを緩和せむとするには、彼等の收入增加の途を講ずるか、或は日用品を安價に供給し、住宅を廉價に提供するのが、最も手近な解決策でもあり、また爛額焦眉の急務でもあるのである。而して余が田園都市の建設を提唱し、案を樹てゝ其の實現を主張する、また意は實に茲に在るに外ならないのである。

田園都市（其二）

都市の膨脹には一定の系統あり

既に述べたるが如く、東京市は今や極端なる過集の狀態に陷り、其の結果あらゆる罪惡と慘害との樞府と化してゐるが、是れが對應策として、市は當然、上に伸びるかそれとも郊外に膨脹するかしなければならぬ。然るに我國は有名なる地震國なるが故に、上に伸びて家屋を無制限に高くする譯にゆかぬ。そこでいきほひ溢れたる居住者は、漸次郊外に移動し、茲に都市の膨脹を見るに到るのであるが、而も其の膨脹に當つては無闇に東西南北に擴大するものではなく、一定の膨脹系統のある事を忘れてはならぬ。

都市は動脈以外に膨脹せず

これは世人の動もすれば閑却しやすい事であるが、市が膨脹するに當つては、辿るべき一定の動脈があつて、それ以外の靜脈地には決して發展しないものである。而して動脈となるべき地には、乘換なく、而も一時間二十哩以上の快速度を以て、一時間以內に、都會の中心地に到達し得べき交通機關が完備してゐなくてはならないのである斯の條件に基いて、東京附近の動脈を調べて見ると、明かに三種の動脈がある。則ち萬世橋を

中心として、品川、大森、川崎乃至横濱方面を連繫するは其の一、萬世橋より日暮里、王子を經て赤羽方面に延びるものは其の二、萬世橋より新宿、淀橋、中野を經て吉祥寺方面に到るものは則ち其の三である。

然らば此の三種の動脈中、何れが最も發展すべき前途を有するかといふに、第一の京濱間を連繫する動脈は、水質極めて不良なる上に、地價また高きのみならず、一體に工業地たるが故に、住宅地には適せず、今後の發展は到底期し得られない。それでは第二の赤羽方面に向ふ動脈はどうかといふに、神田上野間の交通機關が不備なるが故に、これまた當分發達すべき見込がない。殘る處は唯淀橋、中野方面の一動脈あるのみであるが、此の方面は地質水質共に申分なく、加ふるに高速力を有する中央線の電車が一時間以内に東京市の中心地に直通するのみならず、土地極めて平坦にて、何等發展を遮るべき事情なく、住宅地としては最適の地であるが故に、今後の膨脹は必ず此の方面なるべく、また此の方面をおいて他に發展すべき處はないのである。論より證據、此の動脈地に於ける人口の增加率を見やう。

町村名	明治三十九年	大正四年	增加率
大久保町	四、四七九人	一五、六五二人	三・四七
淀橋町	一二、七一四	二八、八一二	二・二六
野方村	四、二〇二	四、八九九	一・一六
中野町	七、三七四	一二、五七七	一・七〇

といふ風に他の郊外地よりも、增加率が高いのみならず、また此の方面に於ける諸停車場の乘客增加率を見ても、

驛名	大正元年	大正五年	增加率
新宿驛	一、八七二、四三	二、一四七、九三七	一・一四
大久保驛	五五八、二一	六五四、四六九	一・一七
東中野驛	二七六、四八〇	四八七、八〇六	一・七六

といふ有樣で、發展のあとが著しく、今後の東京は、必ず此の方面に伸ぶべき運命に在る事を斷言して憚らないのである。

森村翁は曾て『以前紐育を訪れた時、其の郊外に中央公園と呼ぶ公園があつたので市外に中央公園とはいかにもおかしいと思つてゐた處が

市の膨脹に伴ひ、幾何もなくして、果してそれが市の中心地となつたので、米人の先見の明あるに驚いた』と語つた事があるが、既述の如く都會の膨脹には一定の系統があつて見れば、我東京市の郊外に於ても、其の動脈地に當つては森村翁の言を再現しないとも限らないと同時に住宅の建設を企つる者の如きは、先づ此の動脈に意を潜めて置かなければならないのである。

所謂田園都市の意義

然らば余の提唱する田園都市とは果して如何なるもので、また是れを建設して如何なる方法により、彼等洋服細民を救濟するか、是れ當然來るべき疑問である。

元來、田園都市なるものは、郊外地に廣大なる庭園耕地等を有する市街地を作り、都會の密集生活より來る不衛生の狀態より住民を救ひ、田園趣味を鼓吹すると同時に、あらゆる文明的機關と施設とを完備して、都會地の利便を加味し、健實にして清新和樂なる家庭を作らしむる事を目的とするもので、歐米諸國に於ては、二十年の昔より、既に各地に設けられてゐる。中にも、英國のレッチウオース田園都市の如き、ボート・サンライト田園都市の如き、或はバルンビール田園都市の如き、或はまた米國のブルマン會社の田園都市の如き、瑞西のセリエール田園都市の如き、特に有名である。而して其の設計を見るに、狹きは二十八萬坪、廣きは四百六十萬坪の地に、公園を中心として、住宅、店舗工場、學校、幼稚園、教會、病院、劇場、音樂堂、博物館、倶樂部等を設け、各住宅には菜園を附屬せしめ、別に分貸園を設けて廉價に農耕地を貸與して、田園趣味を鼓吹すると同時に、瓦斯電氣水道等文明的な施設を完備して、都市同樣な利便を圖り、全く一種の理想鄉を現出せしめてゐるのである。そして中には四十箇年賦償還の形式により、土地を讓渡してゐる處もあれば、同じ形式により住宅を提供してゐる處もある。從つて住民は全く都市の弊害を知らず、極めて愉快にまた極めて安穩に、田園生活を樂むでゐる内に、土地や住宅が自己の所有となる

上に、消費組合等の設備も整つてゐるので、日用品は極めて廉價に購買されるのみならず、附屬の土地より得る野菜、花卉、果物等の剩餘は他に賣り出すので、居住者の生活は、極めて裕福であり平和である。

現世の極樂鄉ともいふべき田園都市

かゝる平和な別天地は、いきほひ居住者の健康に幸せずばやまない。英國の地方に於て調査した處によると、田園都市と其他の都市との死亡率の比較は左の如くである。

都市	千人に對する死亡率	同小兒死亡率
レッチウオース（田園都市）	四・八	三八・四
バルンヒール（同）	七・五	八〇・二
ボート・サンライト（同）	八・〇	六五・四
二十六大都市平均	一五・九	一四五・〇

則ち田園都市の死亡率は、他の諸大都市の二分一乃至三分一に過ぎず、小兒の死亡率も亦ほゞ同樣である。以て如何に田園都市が居住者の健康を助けつゝあるかを知るに足るべく、此の數字を見て、なほ我國に田園都市の必要なるを否み得る者が有ろうか。

勿論、我が國にも田園都市に類するものがないではない。殊に大阪の郊外には變則ながら小規模のものが數種あり、また神戸、名古屋兩市の如きは、目下市が是れを計畫してゐるとの事である。然るに我國の帝都にして而も人口密集の最も甚しき我東京に於ては、是れに關する施設も計畫も殆ど皆無であるといふに到つては、實に我帝都の恥辱ではないか。元來、東京市の近郊が、大阪のそれに比して、兎角、發展率の遲々たるは、勿論種々の理由もあろうが、市民を郊外に誘引すべき何等の施設と手段とを講ぜず、且つまた其の動脈たると靜脈たるとを究めず、無秩序無成算に膨脹するに任せておく事が大なる原因を爲してゐる事を見免してはならないのである。從つて此の際、東京の郊外にも、其の動脈の上に、文明的施設の完備せる田園都市を作り、都會の煙塵裡より其の住民を救ふ事は、急務中の急務に屬してゐるのである（續く）



樣式の上にあれ！（結論）

會員　野村藤吾

四、無目的なる現代建築樣式の煩悶と其の解決

（本項は建築評論六月號紙上に發表したのを補訂したものである）

目的の上に眞理を認める古い思想の裡に建築樣式の本然が潜むか過程の上に眞理を認めゝ新らしい思想に建築樣式の如是相が存ずるか。即ち建築樣式は目的を有するものか有せぬものか若し有するものとせば、之れを倫理に約して、果して如何の價値を有するものか、此の疑問は往古より築海の底に横はつて、今に至るも尙解けざる不可解の謎である。

建築樣式に目的がありとするの、目的なしとするに勝つて眞なるか、目的なしとするの、目的ありとするよりも眞なるか、之れを端的に決定することは不可能なることである。何となれば、樣式が時代文化精神の複雜なる諸要素を背景として居る限りに於て、要するにそは其の時代の傾向に從ふより仕方がないからである。現代に於て此の二種の傾向を有する人々が併存して各々其の壘に據ると同じく、異世に於ても亦此の傾向が相抗して、一張一弛一進一退して居たのであつた。時代の傾向が時として過程の上に眞理を認めんとするの多きこともあれば、又時として目的の上に眞理を認めんとするの多きこともある。人類の文化生活は目的が過程と云へ

る一主調を以て之れを貫くことが出來ると同じく、建築樣式に關する一切の思想史は又此の前提を以て分類綜合することが出來る。

さらば、現代は目的に眞理を認めんとするの時代か、過程に眞理を認めんとするの時代かと云へば大觀して之れを後者なりと斷言せざるを得ない。もとより、現代と雖も、之れに反する思想は儼として存じて居る、けれども十六七世紀に「ガリレー」や「ベーコン」や「デカルト」に現はれたる「ルネッサンス」の精神が近世科學文明を起して人類の文化現象の上に常に新らしい事實を寄與して以來、此の新らしい事實から新らしい思想を產みつゝあるに於ては、現代の傾向は、明かに目的よりも過程の上に眞理を認めんとしつゝあるを看取せざるを得ない。新らしい思想が先に生れて而して後新らしい事實が生ずるならば、過程よりも目的が力强い影響を建築現象の上に寄與するであろうが、それと全く反對な順序を以て、新らしい思想が生ずるとせば的目に眞理を認めるよりも寧ろ過程に眞理を認めるのが自然ではあるまいか。例へば吾人が近世初期に於ける產業狀態につきて學ぶが如く、未だ科學精神の勃興せざる時代に於ては一つの「ギルド」に於ける弟子達は年期奉公として其の間詳に彼等が主人達の手法を忠實に會得する以外に彼等がやがて來ん主人としての地位を辱しめざる方策を知らなかつた。此の場合に於て、弟子達に絕對に必要であつたものは主人の思想であつた。彼等が永い年期奉公中に於ける慘憺たる苦心は如何にして主人の全思想の精神を會得するかと云ふ事に費されたとつても過言ではなかつた。かくて承繼したる彼等の思想は「トラヂション」の領域を脫することが出來なかつたのである。從つてかゝる思想に育くまれた新らしい事實は彼等が或る目的に接近せんとするより高き階級であつたのである。而して、かゝる時代に於ける建築樣式が戰爭や巡禮や交貿等に依る異邦人の藝術思想に觸れる場合がない限り到底一つの規範より超脫すること能はずして彼等の美的及び構造的に、即ち一般建築樣式に

對する觀念が常に前代文化の踏襲であつて一つの順當な「トラヂショナルステップ」を一段一段踏みしめて行つたとは當然の成行であつたと云はねばならない。所謂獨創などゝ云ふとや建築的革命などゝ云ふとは近代科學が眞に其の價値と「アビリチー」とを顯はすに至る迄では到底望まれないことであつたのである。故に時代の仰望は天才の出現であつた。時代は天才の出現によつて驚異と改革とを喚び起すに至る迄一般民衆や一般建築家の腦裡には、深く傳統的執著心が強固な美意識を構成して居たのは蓋し當然の事實であると云ふ可きである。此の場合「時」と「力」とは建築が有機的に人生に當する爲めには なくてならない必須の條件であつたのである。「クラシック」も、「ゴシック」も其の他一切の決定せる過去の建築樣式が一つの「スタイル」となるに至る迄では天才達によつて覺醒させられた廣大な民衆の力と永い時の助力と目的の上に眞理を認めたい古い時代には必要であつたのである。

然るに建築が近代文化の潮流に掉して以來、其の構造及び材料の進歩と共に吾等が已に前節に於て述べし如く美的觀念の上に一大改革を起したることは當然なる出來事と云はなければならない。

眞に近代人の如何なる藝術も科學の助けなければ完成することが出來ない。從而、吾人は如何なる藝術も思想も科學の助力に依つて自由に發表することが出來哲學に據つて之れを批判することが出來る樣になつたのである。

故に吾人は、吾人の自由の爲めには敢へて必らずしも前代の手法や樣式に據ることの必要が少なくなつたことは、今日所謂「新しい」と云ふ言葉が建築の意匠に關して一般青年建築家の中にかなり強い根定を有する當然の傾向を伺ふことに據るも明なる事實である。今日一般に學校教育に於て「メーソンリー」とか「カーペントリー」と云ふ如き其の多くが半ば傳修に依る學課が輕視せられ計畫とか計算と云ふ如き基本學課が重要視せらるることを聯想する時に、吾等は現

代建築界の主潮を知るに難くない。

而して、今日の文化意識が、將來に於ても亦變化せざるものとせば、此の傾向が尙將來に向つて進展する狀態を考ふる時に、今日一般に論ぜられて居るところの主義とか意義とかに關する議論のうちに大なる誤りを發見するものである。

今日に於ける一般の樣式論者は過去に於てかくありしが故に將來も亦斯くあるべしと云ひ、彼等の議論は總て過去の事實の上に根定を置いて將來を論じ、又は之れを推斷せん して居るのである。然るに吾人が再三論じたる如く近代人の頭のうちに培はれたる科學と共に發達せる自由精神の爲めに吾人の直感は古來の殼を破つて無限活動の範圍を擴めたのである、即ち消極的に一定の規範に蠢々して居た吾人の感覺や印象が積極的に活動することが出來る樣になつたのである「クロイツチエ」の所謂「直覺の積極的加工」が出來る樣になつたのである。かくて眞理は過程のうちに存する樣になつたのである。

從而吾人はかゝる思想や研究方法を以てしては、到底眞の解釋を得ることは出來ないのであつて、つまり彼等は目的のうらに眞理を求める古い時代の聯想以外に一歩も出て居ないのである。

苟も近代の文化運動の梗概だけでも知るものに取つては、かゝる議論は一種不可解なる立場にあるものと云はなければならない。過去は總て吾等の一切が將來に合体してこそ、又、將來は總て吾等の一切が將來に合体してこそ、眞實の批判がなし得らるゝのであつて、異なれる時代に於ける吾等の批判は、決して眞實なるものとはならずして、吾等が眞に批判することを得又批判し得る「アビクチー」を有するものは只現實のみに限らるゝのである。

吾等の樣式は最早過去の事實のうちに見出し得べきものでなくして、吾等自身のうちにある處の、近代文化の惠澤が資格づける思想と、能力のうちに潛在して、之れが將來吾々の生涯に於ける建築的手段のうちに自由に表はるゝもの

である。かくて我等が求めんとする現實の樣式は、個性に自由なる、而して大膽なる發表以外にはあるまい。後段述ぶる如く、念々殺却にこそ樣式の創造があらう。謂ひ換ふれば創造は刹那であらねばならない。斯く考へ來れば、吾等は現代に於ける建築行爲の上に何等の目的をも認むることが出來ない。吾等の念々刹那の行爲は即ち轉成にして、此の轉成の上に吾等の知力の全幅を擧げて物の本質に對する窮極と交涉し樣とするのである。

切論すれば現代建築樣式の傾向は何等の目的をも有せぬを以て主要なる性格とする、此の點より觀察してベルグソンが創造的進化を論じて『進化と云ふものはある特別の道を指示するのではなくて終局を狙ふと云ふよりも寧ろ方向を取つて、しかも其の適應に於てさへも創造的なのである』と云つて居るのはよく現代建築樣式の性向と一致して居ると思ふのである。

吾等の解する處に依れば、ベルグソンが謂ふ處の創造的進化には何等の目的がない。一切の轉變合成は果して何れを目的として進化すべきものか、如何なるか轉變合成の窮極か、如何なるが創造的進化の落處かを知るに苦しむものである。素より窮極する轉成落處ある進化がある可き筈なければ、一度窮極と落處とに行きつけば、こゝに轉成と變化とは全くなくなるのである。強いて謂ふ可くんば轉成は轉成が目的であり變化は變化が目的であらねばならぬ。念々刹那が眞でもあれば目的でもある刹那の轉成と變化とを撥無して、終に何等の目的をも捻出することは出來ない。吾等が現代建築樣式に對する煩悶は實に此處に胚胎するのである。而して、目的のない轉成と刹那の變化からは、永遠に亘に倫理、久遠に存する神を認むることは出來ない。轉成の目的には涅槃もなければ、神もない唯純粹の時却あるのみである。

如斯論じ來れば、現代に於ける建築樣式と及び之れに關聯する吾等の思想からは、當然の經路として、宗教と倫理的意義を生ずることは出來ない。若し、ベルグソンの哲學を以て、現代

思想の無目的なる傾向から生じたものとすれば現代建築樣式は類推して宗教と倫理的意義を附することは出來ない。つまり久遠なる建築藝術の意義は、刹那うちに流れ去らなければならない吾人が前項數節に亘つて研究したる議論は殆んど此の無目的なる建築樣式の窮盡に費されたと言つてもよい。多くの人間の血と肉とを下積みとして、只一人の資本家は微笑み、冷酷なる科學者は己が計算に誤りなしと誇つて居る、かの「マナハッタン」の奇觀こそ將に煩悶せる現代建築樣式の産める邪道である。

現代建築樣式の煩悶は如何にして此の無目的なる傾向を宗教と倫理とに約して其の商を見出さんかと云ふに存する。換言すれば如何にして前程の眞を目的の眞に調和せしめんかと云ふにある。之れが爲めには即ち科學をヒユウマナイズする以外に吾等に殘されたる何等の方法もないと信ずるものである。蓋し私が前數項に亘つて論じたるが如く、建築行爲の一切を擧げて科學に據依し、而して近代文明の傾向が科學に眞の根據を有する以上、此の志向が今後尙變じないものとすれば、科學の本性として當然樣式は無常であらねばならないと云つた。而し私は今日に於ける科學の陷れる邪道に迄で信據せんとする程寬容ではなかつた積りである。

トルストイなども云つて居る樣に總ての意味に於て從來の科學は多くの破綻を生じた、而してこは現歐洲戰場に於て救ふ可からざる欠陷を曝露し慘禍の原因として科學に對する呪咀が今日多くの識者に依つて高潮されるに至つたのである。つまり現代建築樣式の邪道に陷りし原因は將に破綻せる科學に對する無批判なる全信賴に存ずるのである。されば吾等は如何にして科學を「ヒユウマナイズ」するかは自から別途の問題であるが、兎に角私は前述せし如く「ダヴインチ」や「ガリレー」に依つて体驗せられたる「ルチツサンス」の科學精神を研究高潮することは此の問題に對する斷案と信ずるものである。これに依つて一貫せる久遠の眞理に建築樣式が眞實の生命を得、吾々人類が之れに據つて「ヒ

ユウマンウオース」や「ヒユウマンシグニフイカンス」を知ることが出來るのである。其の時こそ個人主義は人道主義と一致し、過程の眞は目的と合体し、目的の眞は過程と契合するのである。之れ私が本論文に對する諸論である。若し世界の文化が一つになる時が來なければならないことが本來の志向であるとすれば、その時こそ建築樣式は一切の事象に共鳴し、一切の差別を打ち貫いて、そこに大なる歡喜が妙なる施律に打ちふるうであらう。「ヘレニズム」の上に「ヘブライ」の黑い法衣をまとへる「ジユリアン」が神達の進軍の先頭につゝ立つて黑旗を卷き下す（メレジオウスキ譯「神々の死」松本雲州譯）「マンバワー」の虛僞が取り除けられるであらう、總ては普遍我に歸一するであらう。一切の經濟一切の交通、一切の思想……それは總て一切の科學が世界に歸一する時にこそ、世界的理想の空中樓閣に、適確なる基礎を作り、國家主義的國粹論者に四海同胞の眞實の裝飾が施されるであらう。

吾等は、こうした人類と、神の世界の建築とを產まんか爲め、——それは遠い將來であらうが——現實の世界から將來を仰望しよう、總て現實を歡喜し、現實の純眞性の上に人の譽を打鼓らそうぞ。

それは國人の義務である、國家の責任であり世界人類共通の仰望であらねばならぬ、吾等はやがて世界が只一つの樣式を產まんが爲めに、そしてそれが一切の差別を打ち貫かんが爲めに吾等は一切の交通、一切の經濟、一切の政治、一切の藝術總て一切の科學と哲學とを見なければならない、即ち吾等は文化の先驅者であらねばならぬ。（八、八、十四）

動くとも見へぬ田螺のあゆみ哉　鐙屋
薄見つ萩やなからん此邊は　蕪村



女流の住宅觀

□何處かに溫か味のあつて柔い感じのある家を好みます

島成園女史談

家といふ物に就いて、泌み〳〵考へる程、私の生活ははゆるやかではありません。そんな事に身をいれて考へるやうな、餘裕のある生活は何時になつたら廻つて來るでせう、物質上にも精神的にも。……それは十年先きのことやら、二十年年先きのことやら、或は一生さうした餘裕なしに過すかも知れません。

他家樣へ參りまして、壯麗なお邸などを拜見しますと、『ほんとうに立派なお家だ』と思つて感嘆して見ることはあります。洋館でしたら、最新式かと思はれる珍らしい建物で、お部室の裝飾も、きらびやかな品が澤山置いてあるし、いろいろな設備が何から何まで調つて居るのなぞを見ますと、好い氣持ちでございます。日本風の、大きい床の間があつて、床には立派な軸がかかつてあり、置物も高價な物、違ひ棚にも珍品があり、廣い庭には築山があり池があり大木が澤山植ゑてあると云つたやうなお邸は、感心して見ることは見ますが、さて自分が住んで見度いと思ふことは、めつたにありません。さうした、一寸見て非常な手數と多くのお金をかけたと思はれるお邸は、御馳走と同じことで、偶に見る方がようございます。私は立派な奥樣方に可愛がつて頂くおかげで、時々そういふ申

分のないお邸に泊めて頂くことの厶いますが私の住んで居る家から見ますと、天と地と程の相違で厶います、そんな贅澤なお邸で、贅澤な物を目に致し、贅澤なものを頂いて居りましても心から満足をし、安らかな氣分になることは少なうございます。そうした人工を加へる程、どこかに重苦しい氣分が生じて、一增不快を感じることさへあります。丁度お能の面のやうに、偶から偶まで整つて、埃一本なく掃除が行届き床にもきちんと花が活けられ、置物の位置、掛軸など、一分の隙もなく片付いた部室にはいりますと、一寸もくつろげません。前に敵でも控へて居るやうな氣がして、とても堪へられません。いくらきちんと片付いて居ても、どこかに温みのある、柔かい感じのする家を私は好みます。西洋館も好きでございます。日本風の家も好きでございます。どちらにしても、自由な、安らかな分になれるやうな、温みのある部室がようございます。

私は、一体、きまりきつたことは好きません自然の儘にして置くことを好みます。お花を活けるにしても、枝を切つたり曲げたりして、無理に作つた活け方よりは、投げ挿にした方が多く興味を呼びまする。ですから、私の部室はいつもより散してあります。其時の氣分次第で、出した物をいつ迄も片付けずに置くこともあります。奇麗な部室に、美しい物を亂雜に散らして置くのは、ほんとうによい氣持ちでございます。其中に美しい人が坐つて、あれかこれかと品の選り好みをするところは、私の最も好きな一つでございます。さうかと云つて、床の置き物、部室の装飾品抔、けばけばしい物は、深みがなくて嫌いです。何から何まで新しづくめの装飾をした部室は、活動寫眞の看板でも見るやうな息苦しさを感じます。贅澤を云へば置物は古い物、殊に支那燒きの古い物には、云ひ知れぬなつかしみを感じます。艶と云ひ、格恰と云ひ、いくら見ても見飽きません。床の間や違ひ棚には、さうした澁味のあるものが欲しうございます。それと反對に、電燈とか、部室の一寸

した處に、非常にハイカラな新しい物を見付けた時には、輕快な心好さを感じます。つまりこれは、人間の性質として、變化を求めるのであらうと思ひます。食物や衣類が變るやうに、部室にあつて目にふれるものにも、變化を要するのでありませう。氣候の變り目の部室の裝飾代などでも其一つですが、これが誠に氣持ちのよいものです。自分の部室を氣の向くままに飾り付けそこでのんびりともの想ひにふけつたなら私としては此上の望みはありません。自分の好きな家に住み度いといふ慾望は、隨分強く持つては居りますが、なかなか實現は出來さうにもありません。私にとりましては、アトリエーは大切な大事なところですから、せめてアトリエー丈でも作り度いと思つて居ります。廣さにも建築にも、大した慾はありません。日本風でしたら、茶室めいた、狹うて割合に便利で、そうして落着いた部室が欲しいと思ひます。庭丈は草花の澤山あるのがいいと思ひます。西洋館でしたら、あつさりして居て、深みのある家を欲しいと思ひます。よく思ふことですが、お部室にはいつた時に、心がゆつたりとして、何とはなく親しみを感じる時と、急に心が堅くなつてお話をして居ても、感興も起らず、落ち着かない氣分になる時とがあります。こんな事は、光線の工合や、部室の裝飾などに依るのではないでせうか。私共は、此氣分といふ事を重んじますので、餘計に感じが鋭敏なのかも知れませんの善惡など申す資格は、私にはありませんので、唯、感じたまま、思ふたままを申し上げます。

奥の細道

柳こそふりたれど、松島は扶桑第一の好風にして、凡洞庭西湖に恥ぢず。東南より海を入て、江の中三里、浙江の潮をたゝふ。島々の數をつくして、欹つものは、天を指し、ふすものは波に匍匐ふ。あるは二重にかさなり、三重にたゝみて、左にわかれ、右につらなる。負へるあり抱けるあり、兒孫を愛するが如し。松の緑こまやかに、枝葉汐風に吹きたわめて、屈曲おのづから、ためたるがごとし。其氣色窅然として、美人の顏を粧ふ。ちはやふる神のむかし、大山づみのなせるわざにや、造化の天工、いづれの人か筆をふるひ、詞を盡さん。

□子供と主婦の部室と臺所の科學的な設備

竹原莊次郎氏夫人　竹原みどり子夫人談

私は、斯うして先代(友三郎氏)の作つてくれました家に住んで、何自由なく暮して居るのでございますから、家の事に就いてかれこれ申すのは、寔に勝手がましい事ではありますが、只私が、平素感じて居ることがありますので、其感じて居りまする事丈をお話いたします。

御覽の通り私共の家は、純粹の大阪船場式の家でございます。私が大阪へ參りまして、初めて此船場式の家へ參り、小さい入口を見ました時には、『マアどうしてはいるのか』と不思議に思ひました。暫くの間は出入の度毎に、小さい格子戸から出入致しますのが、何とも云はれぬ苦痛でありました。それぱかりではありません。家の中はどこもかしこも疊を敷いて有つて、椽側や廊下といふものは、ほんの少部分丈なのも不思議の一つでありました。そして、表から見ますと、狹さうですが、奥へはいると奥行が深くてなかなか廣いのでございます。入口から裏口までずつと通り土間になつて居て、誰でも表から出入することも一寸珍しいと思ひました。田舍の廊下續きの廣い家に育つた私にとりましては、凡てが不思議に思はれました。が、住んで見まして、成程と思ふ點を發見いたしました部室から部室へと襖一重の仕切で、其間に廊下のないといふ事は、お掃除にどんなに手數を省くか知れません。長い廊下の雜布がけなどは、非常に時間と勞力とを費やすもので、其爲めに餘分な召使も置かなければなりません。

それを、どこもかしこも疊を敷いて置きますと部室としても使はれるのですから、つまり一擧兩得な譯であります。部室の掃除を致しますにも、土間を掃き出すやうに出來てありますから大變勝手が宜しうございます。其土間は全部三和土になつて居て、ザアと水を流せばよいといふやうに、人の手を省くやうに出來て居りますお勝手も大變に狹い割には、立ち働きをするのに便利がよく、そして、一つの用事が濟んだら其仕末を直ぐするやうに出來てあるのも、いい事だと思ひます。かういふお勝手元では、お勝手一杯にとり散して用事をするといふことは出來ません。いつもきちんきちんと片付けて行かなければなりませんから、一寸見には不便なやうで、其實便利がよいのでございます。茶の間と主婦の居間とを兼ねたやうな部室の直ぐ次ぎに女中達の居る處がありますから、主婦は坐つて居て女中達の監督が出來、御用聞きに來る人や、物賣などにも、直接に接することが出來ます。又庭園と申しますと、田舍のやうに、山もあり池もありといふのとは違つて、狹い處に旨い工合に木をとりいれてあります。庭の手入と申しましても、一年中休みなしに職人を要するといふことはありません。年に二三度も手入をすればよいやうに出來てあります。斯樣に、何から何まで、實用一點張りに出來て居りますから、家の普請も、持ちのよいやうに、よい木材を使つて、念入りにしてあります。住み馴らして磨けば磨く程光と澁味とが出て來るやう出來て居ります。これは、大阪の町方の商人の實直な手堅い氣風を表はしたものではないかと思ひます。ジミに忠實にといふことを主としてある點は、確にさういふ意味から出たものと思はれます。

何代となく、斯う云ふ家に住み馴らして來たのでしたら、家と云ふものは斯樣云ふものと云ふ一種の習慣性に從つて、これで滿足をして行かれませうが、私のやうに田舍に生れ、東京に住んで、多少は新らしい家屋を見、住宅の改良などといふ事に注意をしたり、子供の敎育上な

どの事を考へたりして見ますと、大した不満は感じない迄も、斯うし度い彼様にして見度いといふ慾望は出て参ります。さういふ慾望のうちでも、痛切に感じますことは、子供の爲めといふことでございます。今のやうな家屋の構造ですと、子供の部室といふものは全然ありませんから、子供はどこで遊んだり勉強をしたりしてよいのか判りません、なるべく人の邪魔にならぬやうな處を選んで遊んで居りましても、來客が有つたりしますと、彼方へお出でと云つて追はれます。別な方へ行つて遊べば、そんな處に散してはいけないと叱られます。さうかと云つて外へ出て遊ぶやうな場處もありません。外へ出れば、それ自動車が來た、車が來たと云つてキョロ〳〵して歩かなければなりませんから、なかなか遊ぶどころではありません。仕方がないから、商ひをして居る家ですと、店の小僧さん達を相手にして遊ぶとか、女中や親の傍で遊ぶより外に仕様がありません。さうして大人を相手にして居りますと、どうしても、子供らしい無邪氣さが欠けて参ります。子供といふものはある限の聲を出し、ある限の力を出して、伸ひ〳〵と手足を伸し、思ふ存分にふるまはなければ承知の出來ないものでございます。その自由が出來ない爲めに、持つて生れた天分を、充分に發揮することが出來ないで、尊い才能を途中から枯らすやうなことにならないとも限りません。斯ういふことは、人間一個の爲めにも惜しいことでありますし、廣く云へば人類の幸福の爲めにも惜しいことだと思ひます。斯ういふ意味から大人の都合といふことよりも、もつと未來のある前途有爲なる子供等の爲め、せめて氣兼なしに手足を伸して遊ぶ部室と、も一つ、多く家に居て、一家の爲めに、細大となく働く主婦の爲めに、主婦の趣味に適した、主婦の部室を一つ欲しいと思ひます。それと一家の人々の爲めに、最も大切な食物を調理する臺處には時勢に適合する處の科學を應用した設備を致してみたいものでございます。今迄のやうに從來有り來りの儘なるのを何の工夫も加へずに過す

といふ事は、時勢に適しない事でありませう。凡ての方面はどしどし進歩發達して居るのに、獨り大阪の目抜きの場處と云はれる船場の家丈が、依然として古い習慣から脫しないといふ事は、調和のとれない事のやうに思はれます。それも、寸分も改良の餘地がないといふなら兎に角、船場式の家には、前申すやうに、充分改良の餘地があるのですから、時勢に應じた家を作ることは必要でせうと思ひます。と申しましても今迄の家は全然取捨てて更に新らしい家を建てるといふのではありません、實用一點張の今迄の家でもそれは結構でありますから、其れに工夫を加へて、子供の敎育上にもよく、又家族の趣味といふことも考へて、多少の改良をしましたなら、今より、より以上の住み心地のよい實用的な家が出來ると思ひます。物事といふものは調和よくするといふ事が必要であります。殊に古い物と新らしい物とを旨く調和して行く事などは、今の時代には最も必要な事でありませう。

斯ういふことは、それ〳〵研究も要し經驗も積まなければならないことですから、多くの方々の御考へも伺ひ、實際も見てとりかかりましたなら、必らずや、理想と實際とを、よく合致した家が出來ることと存じます。さういふお考への方がありましたなら、共に御相談を致し度いと、常々私は考へて居るのでございます。

箱舘紀行（俳文）

千々里が濱は、勝景いふべくもあらず。大小の怪巖龍の如く、虹のごとく、伏虎の如く、蛸手のごとく、鷄爪のごとく、鵬翮のごとくなり。靈芝の如くひらけたるかたちをなし、あるはそむき、あるはならひ、近くは、うちかくる浪をかぶりて、隱れ、顯れ、遠きは、其間を波の行めぐり、あたり合ふて激し、また行とまりて白き玉のくだけたるやうに、さら〳〵と音してかへる聲、巖は波により、浪は巖によりて、奇をなすといふべし。まりの面白さに、斧の柄朽るとも、此所をはなれじ、と名殘をしまるれど、旅の上には、さま〴〵あとさきの、こゝろいそがれて、あとしさりながら、赤河の濱むらへ出ぬ。



街道樹論（二）

特別賛助員 農學士 大屋靈城

一、總說
二、樹種の選擇
三、並木の管理
四、並木の保護
五、大阪市の並木

（二）樹種の撰擇

都市に並木の必要な事は曩に述べた通りであるが然らばどんな樹木でもこれに適當であるかと云ふに決してそうではない。市内の道路は其道幅に制限があり、貨物の運輸が頻繁であり、電信線、電話線其他の障碍物が多いと云ふ樣な關係上非常な大木とか極小さい苗木とか云ふたちのものは勿論いけない。從つて若し市内の並木が一定の年限を經て老木に成つた場合には大低のところで見切をつけて取り換ゆる事が必要であり又柔弱な若苗を植ゆると大低は折れたり挫けたりして滿足に育たぬと云ふ事を覺悟しなければならぬ。

又木の種類から云つても並木としての條件を滿足し得るような性質を持つたものを選ばなければならぬ。然らば市街の道路樹としては如何

なる性質のものが適當であるかと云ふに、大凡次の七つの特性を具備したものが最も適當であると思ふ。

一、蔭の多い事

並木は日蔭を作ると云ふ事が主目的で植ゑられるものであるから成るべく葉が多くて樹蔭を廣く作るような木でなくてはならぬ。然し餘り枝振が密過ぎると風通が悪くなり虫が付き易い患ひがあり餘りに粗に過ぎても面白くない。又葉が小さいと落葉が地面にくつついて離れにくいから掃除に面倒である。又秋に成つて葉が少しつゝ毎日落ちるような木は道路の面を常に不潔にする。例へば柳のような木は前者（葉の小さい）の例であり櫻のような木は後者（落葉期の永い）の例である。葉が大きくて、さら〳〵して一時に落葉するような性質の木は並木に最も適當である。かのカシワのような年中枯葉が枝にからまつて風にひら〳〵してるような死にざまの良くない木は並木としては喜ばれない。

二、落葉性である事

カシやシヒと云ふ樣な常綠濶葉樹やマツ、スギ、ヒノキ、マキと云ふ樣な針葉樹は市街の並木としては喜ばれぬ、神社や佛閣の參道には多く松や杉の類を並木として見るが市街にこんな常綠樹を植ゑると路面が乾かないのと光線が透さない爲に秋から冬にかけて濕潤であり且陰鬱である。又葉の色に變化が常に同じであるから景色に變化がない、從て特に町を壯嚴に見せると云ふ樣な特殊の場合でなくては常綠樹を用ゐる事は稀である。靑桐や公孫樹の如く「一葉落ちて天下の秋を知る」低の落葉樹は、春は芽つぼの色合美しく夏は新綠濃かに秋は黃色に櫨色に、冬は又枯淡な冬枯の樣を表はし四季の眺めに變化の多いのみならず冬期陰濕の感を與へぬから並木には適當である。

又木が一度裸かに成ると云ふ事は病虫害の驅除にも最も都合のよい事である。

三、性質が強健である事

市街地は郊外と異つて植物にとつても不健康地である。時には雜草も繁茂し得ないような地

味である事もあり。又煤煙や塵埃の爲に眞黒である事もある。其他狹い範圍内に培はれ色んな工事の爲に根が切斷されたり邪魔されたりする事が多く又熱も烈しく乾燥も速やい。こんな植物にとつて不健康の地に育つて而も青々として元氣の良い色を見せねばならぬから餘程丈夫な性質の木でなくてはならぬ。殊に苗から育てゝ定植する迄には數回の植換をせねばならぬから移植の容易なものでなくてはならぬ。又風や雪の爲めに枝が折れたり裂けたりするものは面白くない。

四、同じ格構に育つ事

樹には各特殊な格構があるもので譬へ放任して置いてもポプラは細長い棍棒の樣な形に橘は半球形に、ヒマラヤセダア(印度杉)は圓錐形と云ふ具合に成長するものであるが然し其の固有の形と云ふものが判然と定まつて居らぬものもある、クヌギやムク・エノキ・モミヂ等の樣に不規則な形に成長するものは必ずしも一定の形をなさない。並木としては同じ格構に育つ性質の木が好ましい。尤も手入をすれば思つた形に出來ない事はないがそれでは厄介である。殊に洋風の建物の多い街の並木としては幹が眞直で四方に同じ枝張りを保つて整形に育つプラタヌス(篠懸木)とかチユリップ・ツリイ(百合の木)とかトチノキ(七葉樹)等は望ましい。青桐やアカシヤの如きも少し手入をすれば同じ形にする事が出來る。枝垂柳の如きは自然に放任して置いても必ず枝を垂れて固有の形に成る。街道に立ち列んで居る並木がひとつひとつ異なる形をして居つては都市の美觀を損する事が夥しい、從て色々な種類の樹木を混植して並木を作ると云ふ事は忌むべき事である。「柳櫻をこきまぜて」と云ふ歌はあるが、市街の並木には此の種な植方は格構論から云つても排斥すべきである。

五、病虫害に侵されにくい事

どんな植物でも絶對に病害又は虫害を蒙らぬと云ふものはないが比較的少い樹又は多くても耐へ得る樹の種類を選ばなければならぬ。病氣や虫の爲斃されたり枝の折れたりする木がある

と並木全体が不揃となる爲に美觀を損ずる事尠くない、のみならず虫がたかつて居ると云ふ事は大變不潔であり其の下を通る人は不愉快な感じを與ふる。かの「アブラムシ」「綿吹虫」「毛虫」等のたかる木は見るも嫌である。此等の病虫害に強い木を選ぶと云ふ事は最も大切の事である斯のプラタクスと云ふ木の如きは、他の點に於ては理想的の並木であるが「鐵砲虫」の害を受ける爲に折れ易い欠點がある。又ポプラの如きも「尺取虫」や「毛虫」のたかる傾がある。エノキの如きは媒病に罹り易く、サクラ・ハゼの類はミノムシに嗜まれる。總てこんな害虫のたかる樹木は並木として植付けても不愉快である。同じポプラの中にも虫に侵され易いものと否とがある。葉の厚くて大いたちのポプラは割合に侵されにくい。吾人はこんな風に成るべく病虫病に免疫性のものを選ばなければならぬ。

六、年中綺麗な姿を保つ事

都市の美觀と云ふ點から考ゆると四季折々の變化が眺められ花も咲き綺麗な實もなり、樹皮にも立派な模樣を顯はす樣な樹木が相應しい。

といつても櫻や桃と云ふ風な花木は花の期間は美麗であつても謝花後には全く風情を失ふものであるから餘りに喜ばれない。殊に華麗に過ぎる爲に市街の落付きを見せない、却てイテフヽ青桐、ニレ・アカシ・アヂム・サイカチと云が如き花の少くて割合に綺麗なものが迎へられる、尤も家屋の少い處や坂路に成つて居るところでは花木も面白い、東京の三宅阪や九段赤阪の如きはこの例である。

リンゴやザクロの樣な實のなるものも用ゐられぬ事はないがムクロジやイテフの樣な果肉でつゝまれた實は落果を踏む時辷るから危險であり、プラタヌスの如きとげのある實は婦人の髪の毛等に懸かると云ふ心配もあるが、要するに四時に變つた飽かぬ望め丸見せる樣な樹種を選ぶ事は大切であらう。

七、壽命が短くない事

大低市内の並木は八九尺以上の高さに成つたものを植込むのであるからそれ迄に既に四年乃

至六年は經つて居るこれを植込んで二三年目からやつと見られる樣に成るから成るべく壽命の永い樹が適當である。十年か十五年目に取り換ねばならぬ樣なものは大變に厄介であつて絕えまなしに苗を仕立てゝ用意せねばならぬと云ふ手數が要る。苗木の時分にも割合に成長が早くて次第に其の速度を減じ少くとも二三十年は元氣であると云ふ風な成長の仕方を採る樹種は最も適當である。然しそれも程度問題で成長の餘りに速かなものは必ず折れ易く壽命も短い。例へばポプラの如きは成長が速か過る爲に質が軟かく早熟して短期間の後に老衰して脆くなる患ひがある。

從つて速成的の並木には都合がよいが決して永遠の策とは云へない。以上述べた七つの條件は孰も都市の街道樹として必要なものであるがさて此等の條件を滿足する樣な樹木が果してあるかと云ふと却々無いものである。必ず何か缺點のないものはない。從て我々は比較的これに近い樹種を選定するより外に道はない。殊に各地方の風土によつて其の地に成育すべき樹の種類は大いに制限されるものであるから、尙更適當な樹種を見出す事が困難となる。

今試みに我國に於て街道樹として最も適當と見做さるゝ樹種を擧げて見れば大凡次のようである。

アヲギリ　ニセアカシア　プラタヌス
シダレヤナギ　エンジュ　チムノキ
ポプラ　イテフ　ユリノキ
トチノキ　ハクウンボク　タウカヘデ
ミツバカヘデ　ホウノキ　カツラ
シナノキ　ニレ　チヤキ
サクラ

以上の中で幅の狹い町にはポプラやアヲギリやケヤキの如き細長き物を日本造の多い町にはニレ・チムノキ・ニセアカシアの如き不規則な格構のものを道幅も廣く洋風建築の建ち並んだ主要道路にはプラタヌス・イテフ・ユリノキ・シダレヤナギ等の如きを配したらば必ず趣き多い事であらう。（續く）



朝鮮營林廠所管の森林一班（一）

會員　谷　民　藏

△營林廠沿革概要
△所管の面積
△管內主要樹種
△伐木及造材
△運材及流筏
△貯木
△造材規定

＝緒言＝

我國の現代は森林國にあらずして樹木亂費國なりと近頃頗る痛快なる議論を爲す者あるが、實に一面の眞理である。近時植林と伐木との地積を比較するに植林の伐木地積に及ばざること遙かに遠く更に時局發生以來所謂大資本家なるもの巨資を投じて山林經營を爲すもの多しと雖も之れ等は森林百年の長計を慮るにあらずして戰時的氣分の普及より生ずる俗稱山師的一攫千金を夢見る徒の事業多ければ山林經營とは單なる伐木事業を意味するものである。而かも千古

不伐の伐山幽谷にも方今科學の應用益々旺盛となり伐木運材の能率に一大革命を起し從來原始的森林と激賞されし鬱蒼たる美林も今後數年を出ずして或は裸原禿峯とならん乎、予は此の憂慮心より一應我國植民地に於ける森林狀勢を探究せんと思ひ更に朝鮮總督府營林廠所管の山林並に吉林省を抱擁する黑龍、圖洲、松花各江及び西伯利亞鐵道沿線の森林等をも併而此處に略述せんとす。

抑も滿鮮北部の森林は土地廣汎にして人跡稀薄である、加ふるに植林並に造林の制度なく只々自然の繁殖に依り淺山河江の流域には土民の徒に濫伐或は盜伐に放任し林野の別なく殆ど荒廢に歸しつゝありと、然れ共又深山にして山嶽重疊の地には所謂原始的森林を備へ而かも其地積の尨大なること世界の森林國としての我舊日本の森林地と殆ど同樣に達し其樹木に於ては左記列擧せる如く其蓄積九十三億餘萬石を算し實に本邦蓄樹の遙かに及ばざる所なり。吾人は之れを官廳に或は民間個人に就て其概況を調査せんとす。

今之れが順序として鴨綠江材より記載すべし即ち鴨綠江は明治四十三年日韓合併と同時に我帝國の版圖に移り、茲に朝鮮總督府官制の發布と共に同所の管理に移り爾來僅かに八星霜の歲月を經過したる今日已に整然秩序ある調査機關を設け着々研鑽努力せらるゝ處ありて乎、一般木材寸法其他の標準を附し簡明なる電文或は公示せる材名を呼稱せば寸法は勿論、品質迄で確乎たる材料を安心して求め、商取引の簡明と迅速なるとは寔に敬服するの外はない、東京、大阪の如き都市は古き歷史を有し、事物の良否をも舊習慣に囚はれ一朝一夕に之れを打破することは容易の業ではない、而し乍已に文明を誇謳する大都市に於て、舊幕の遺風をして何等改善する處なく、寧ろ多々益々改惡に競進しつゝある樣子を、都人等は只唯拱手望觀してゐるのは聊か無責任なる譏りあることを免れない、予は明治四十二年の初春親しく該地方を踏査せし事あり、更に本年一月中旬予の最も信ずべき專業

者より該地方に於ける專門的の調査報告を得、尙ほ同年五月某技師の該地方を踏査せしもの等に依りて大に自信する處あり、茲に本木材の一般を摘錄する所以である。

═營林廠沿革概要═

鴨綠、豆滿の兩江流域の森林は東洋有數にして千古斧伐の大森林である、彼の日露戰後當時軍用木材廠なる官制を布かれ、順次調査の歩調を進められ居りし處、其後淸國側には鴨綠江木材公司（政府補助の下に半官的の所謂日支合辨）を創立し、時の支那道臺を總理に推戴し、我政府よりは陸軍將官を理事長官に任命せられ、部下多數の日淸官民を使役して、伐採事業を開始したるものなりと、然れども當時の支那道臺は專横を極め木材の「マーケット」は支那寸法に則り、販路は概ね北京乃至南淸方面に移出したるものなりと云ふ、斯くて時代は推移し政府補助經營も終に空しくなりしとか聞く。然れども我政府は明治四十年遂に韓國總督府の官制の下に營林廠及西北營林廠の官制發布となり、同四十三年日韓兩國の併合成るに及んで朝鮮總督府營林廠官制發布せられ以て今日に及べるなり。

□所管林の面積

當所管の林野は咸鏡南北の兩道及平安北道の三道に跨り、其內要存豫定林野の面積は約二百二十萬町歩に達する見込にて恰も內地國有林野全面積の半に上り、其の成林地全面積は二百萬町歩を超ゆ秋田、靑森、木曾、の三大森林を併せたものに比し尙ほ遙かに廣大なり、今兩流域に屬する成林地及未立木地の面積を大要左に記載せんとす。

所管林野面積

流域別	成林地面積	未立木地面積	計	全面積に對する成林地歩合
鴨綠江	一、六三〇、〇〇〇町	一一〇、〇〇〇町	一、七四〇、〇〇〇町	九三
豆滿江	四一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	九一
合計	二、〇四〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	二、一九〇、〇〇〇	九三

即ち全林野の九割三分は太古よりの大森林にして未立木地は僅かに七分に過ぎず、之れを以て見れば本管内の森林が如何に鬱茂しあるかを想察し得べし。更に

樹種別占領面積を比較せば左の如し

樹種別	鴨綠江流域		豆滿江流域		合計	
	面積	歩合	面積	歩合	面積	歩合
	町					
針葉樹 紅松	二三〇、〇〇〇	一三	一〇、〇〇〇	三	二三〇、〇〇〇	一一
針葉樹 杉松	六四〇、〇〇〇	四〇	一〇〇、〇〇〇	二四	七五〇、〇〇〇	三七
針葉樹 落葉松	二九〇、〇〇〇	一八	二〇〇、〇〇〇	四九	四九〇、〇〇〇	二四
針葉樹計	一、一六〇、〇〇〇	七一	三一〇、〇〇〇	七六	一、四七〇、〇〇〇	七三
濶葉樹	四七〇、〇〇〇	二九	一〇〇、〇〇〇	二四	五七〇、〇〇〇	二八
合計	一、六三〇、〇〇〇	一〇〇	四一〇、〇〇〇	一〇〇	二、〇四〇、〇〇〇	一〇〇

即ち針葉樹及び濶葉樹の占領歩合は兩流域とも針葉樹多くして其の三分の二以上を占め、特に豆滿江流域に於ては針葉樹最も多くして、濶葉樹は僅かに二割四分を占むるに過ぎず、亦鴨綠江流域の針葉樹は杉松即ちタウヒモミ屬の占領面積が最も多く針葉樹は全占領面積の過半を占む、豆滿江の流域の針葉樹は之に反して落葉松三分の二を占め、之に次ぐものは杉松（サアスン）にて紅松（ホンスン）は極めて稀なるべし。

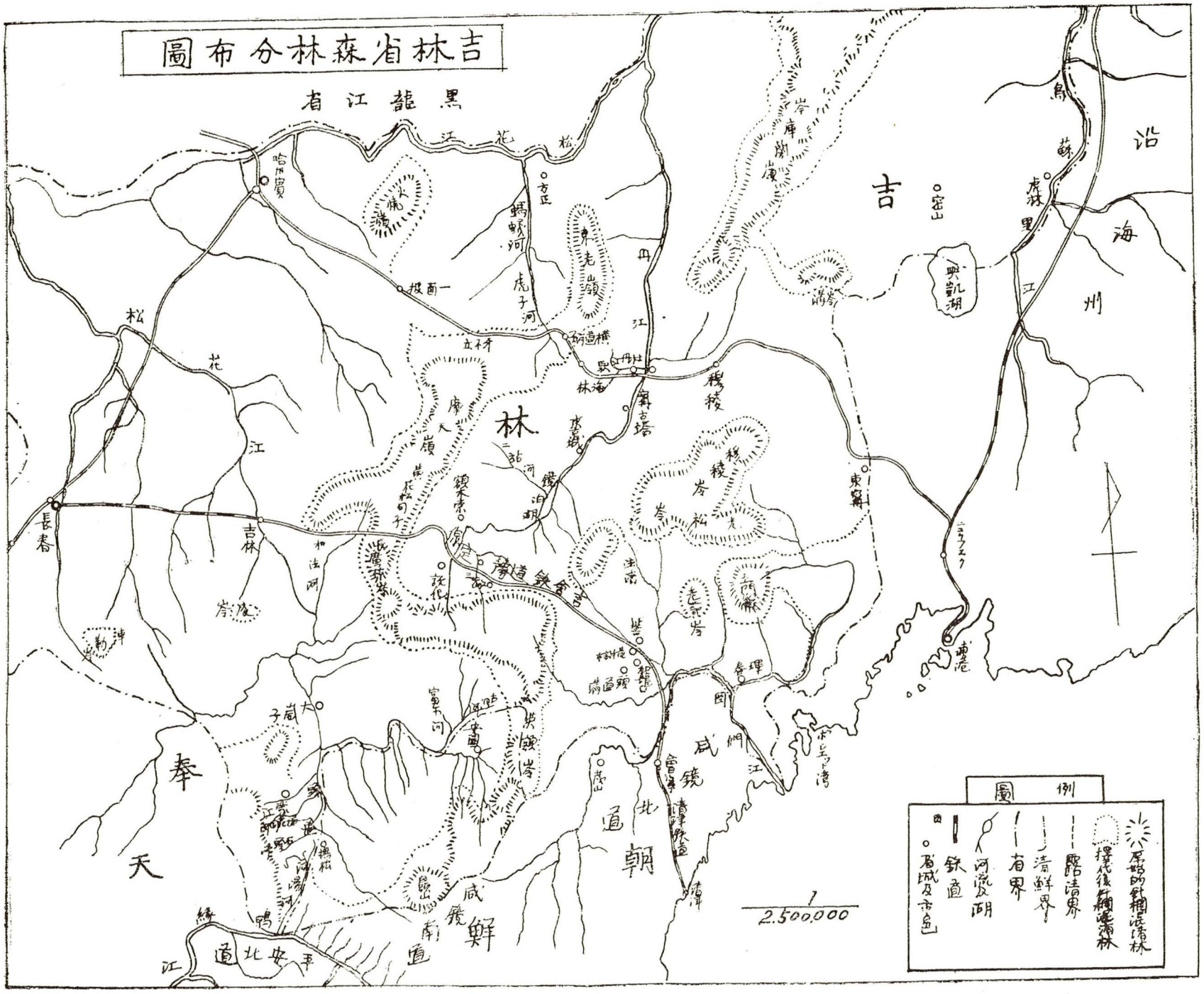
更に主要樹種の各立木材積は目下調査中に屬すと雖現今利用し得る立木の概調査材積を擧ぐれば左の如し。

樹種別利用材積比較表

樹種別	鴨綠江流域		豆滿江流域		計	
	總材積	歩合	總材積	歩合	總材積	歩合
	毎町材積		毎町材積		毎町材積	
針葉樹 紅松	尺貫 七、九八三	二四	尺貫 三六五	一	尺貫 八、〇三二	一八
針葉樹 杉松	一四、一九〇	四三	二、一六	五九	一六、二五六	三六
針葉樹 落葉松	七、三九一	二三	二、二六	六一	九、六五七	二一
針葉樹計	二九、五六四	八八	二五四	六九	三〇、八一八	六八
濶葉樹	四、一七六	一二	一〇、〇三三	三一	一四、二〇九	三二
合計	三三、七四〇	一〇〇	三六八	一〇〇	四五、〇二七	一〇〇

針葉樹は概して占有面積に對して材積歩合多きを以て針濶材積の對比は占有面積の歩合よりも一層其の差大なり、針葉樹は八割七分を占め濶葉樹は僅に一割三分に過ぎず

將來製紙原料材として最有望な杉松は、鴨綠江


吉林省森林分布圖
黑龍江省
吉林
沿海州
圖例
1/2,500,000

流域に於ける利用材積のみにても控目の計算にて一億四千二百萬尺締の蓄積あり、假に百二十年を以て輪伐するものとせば、年伐材積百二十萬尺締の巨量なるを知るべく、又鴨綠、豆滿兩江流域の針葉樹利用材積は約四億五千萬尺締なるを以て假に百二十年を以てせば永久毎年三百三十萬尺締を伐採し得る筈である。

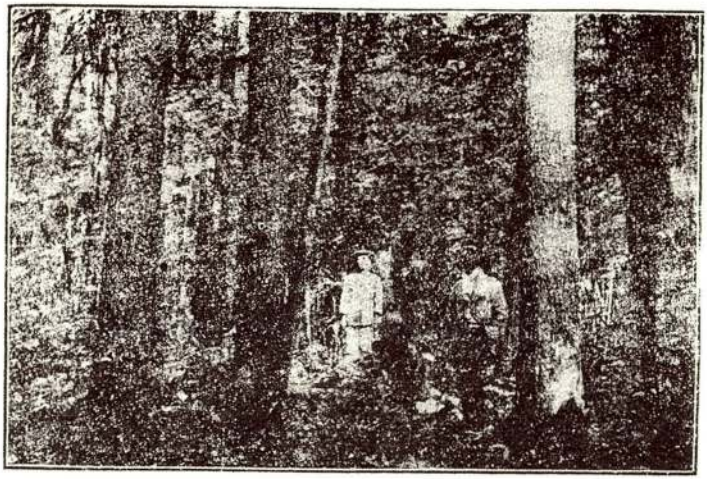
＝管内主要樹種＝

管内二百餘萬町歩に産出する木材の種類は數十種にして、之れを更に詳細區分せば實に七十餘種あり之等は孰れも寒帶地方に屬するを以て自然寒帶の樹種を主範とし、大体の林相に於ても針葉樹約七割、濶葉樹約三割を占有するので今利用上重要なる樹種即ち最夥多なる樹木の大要を記述せば左の如し

(A)、**杉松**（モミ）、タウヒ、タウシラベ、ハリモミを合併したる俗稱にして北海道のエゾマツ、トドマツと略ぼ類似するも木理は不思議にも螺旋狀の



トウヒ（杉松ノ一種）ノ大森林



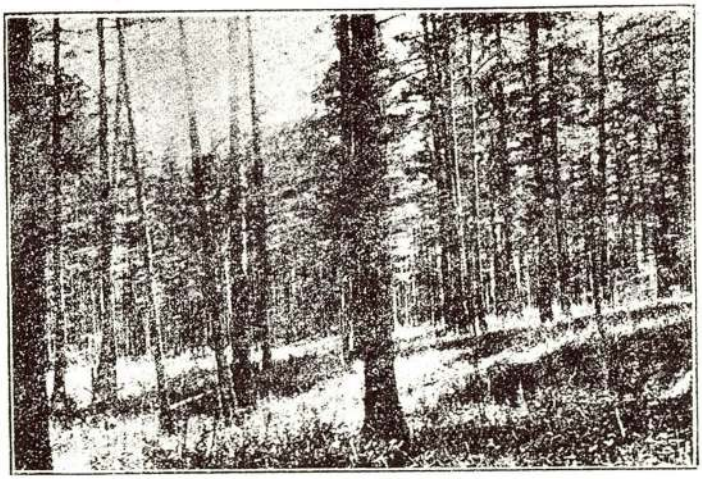
テフセンマツ（紅松）ノ大森林

もの多し、材質は紅松に比し稍々劣等なるも價格至廉にして、工作容易なるが故に廣く建築用材、函材、包裝用經木原料等に賞用せらるゝものなり。

但し本木材は粘着力無く乾燥する時は其收縮量は一割以上を豫期せざるべからず、要するに價格低廉なるを以て內地縱代用品として歡迎せらるゝものである。

(B)**紅松**、テウセンマツ(朝鮮五葉松)の俗稱にして直徑三尺以上の大材尠からず、其の材質は內地產檜材と赤松との中性を有し木理通直色澤佳良にして反張伸縮の割合は杉松に比し少量なり加ふるに工作を容易ならしめ日本住宅の內部雜作材とし或は其他各種の需用に對し本江唯一の賞讃辭を博するものなり。但し內地普通の檜材に比し遙に劣等なり。

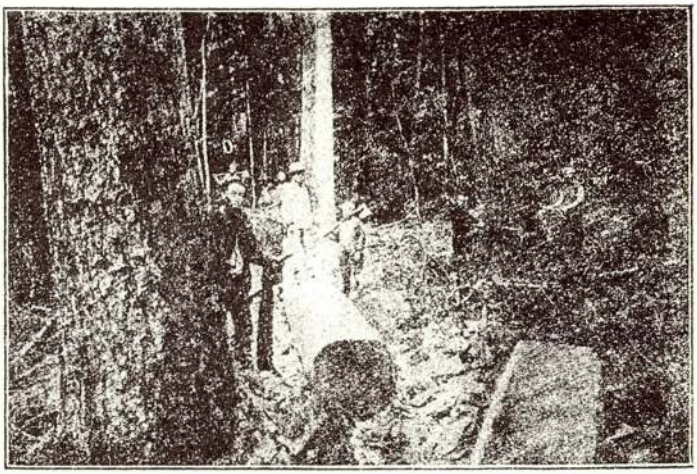
(C)**落葉松**(ホンホワンスン)(黃花松)(シコタンマツ)　本木材は朝鮮唐松の俗稱あり又一つに樺太松と類似するものである。直徑一尺內外の大材尠なからず、年輪緻密にして水濕を加へず伐木の儘乾燥する時は實に石の如く



「テフセンカラマツ」(落葉松)ノ大森林

鑿及も及ざるものあり、從て强靱且つ耐久性に富むを以て橋梁、船艦其他我內地日向松の代用品と爲し頗る重要材の一なり、之れが繁茂する地形は我北海道北見方面の如く平坦數里に及び即ち咸鏡北道の茂山三長面に於て見るが如く伸延率の高調なる事實に三四十尺材にては元未の直徑一二寸の差なり。只此木材にして特に注意を要すべきは、散水或は吸水なり之が製材中樹脂の分泌多くして挽割困難なる時鋸面に注水せば直に剝脫して容易となり、又之れを雨露に曝露する時は茶褐色の液体渾々として流出す、室內雜作に使用して濡雜布にて拭ひ後之れを見るに樹脂剝落して淡白色に變ず、尙ほ數回の吸水を爲す時は木理は箇々に分離して遂には箒の如くなり、殆ど何等の用を爲さゝるのみならず、外面針狀脫離して手法なきものである。

(D)**赤柏松**(チーハイパン)、イチキ、又はアラヽギの俗稱あり材質は優美にして古來針葉樹中覇王と稱せらる、主として茶棚、机、箱類、茶器、箸等の小細工用として賞讃するものなり、建築用としては日



伐木及造材ノ光景

本住宅建築の天井板、床柱其他床廻り用材として頗る雅致あるものにして我内地に於ては容易に得難き貴重材なり。

以上の外、濶葉樹は其種類甚だ多しと雖も材積に於ては特筆する價値なき爲め本項には之れを省略する事とす。（つゞく）

落柿舍の記

嵯峨に一つの古家侍る。そのほとりに柿の木四十本あり。五年六とせ經ぬれど、このみも持ち來らず。代かゆるわざも聞かれば、若し雨風に落されなば、王祥が志にも恥ぢよ。若し鳥にとられなば天の帝のめぐみ時にも漏れなむと、屋敷守る人を、當はいどみのゝしりけり。ことし八月の末、かしこにいたりぬ。折ふし都より、商人來り、立木にかひ求めむと、一貫文さし出し、悦びかへりぬ。予は猶其處にとゞまりけるに、ころ〳〵と屋根走る音、ひし〳〵し庭につぶるゝ聲、夜すがら落ちもやまず。明くれば商人の見舞來たり、梢つく〳〵と打詠め、我むかふ髪の頃より、白髪生ふるまで、此事業とし待れど、かくばかり落ちぬる柿を見ず。きのふの價ひ返しくれたびてむやと侘ぶ、いと便なければ、許しやりぬ。此者のかへりに、友どちの許へ消息遣るとて、みづから落柿舍の去來と書きはじめけり。

柿ぬしや木ずゑは近きあらし山



都市と社會施設

北米合衆國に於ける住居社團法人

ロメーン州バス市第五十九號地にての計畫

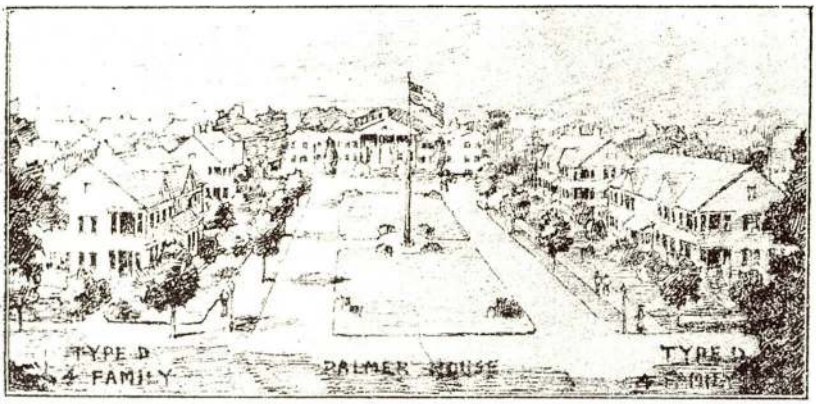
（アーキテクチユラル・レコード所載）

會員　M　T　生

合衆國政府の造船方針が事實に活氣を帶びて來る樣になつてから、メーン州のバス市に於ては、造船職工の住居が必要になつて、合衆國住居社團法人は時局を緩和するために實行に取り掛つた。此問題は住居も出來る丈造るより外に解決の途がないといふ結論から實務を擧げてボストン市在住の左の人々に托せられた、建築家ではバーカトーマス及ライスの三氏、都市計畫家のロアリング氏及土木家のウエストン氏及サンブソン氏等である。

其敷地は廣境約二十四エーカー許であるが、有名な「バルマー農園」に選定された。今度の計畫は丁度其半分に實施するのであるが新街路は今の配置と無關係に新設するとの事であり、他の半分は公園と遊戲場に使用するさうである。

此度の擴張計畫の面白い點は舊時のバルマー住宅を其儘に利用することである、建築家諸氏は寔に巧妙に立案し、舊建物と新しい小住宅とを取合はして、夫々一群の新型を工夫した所に面白味がある。舊建物に面し矩形の小庭園を設



長屋住宅配景圖

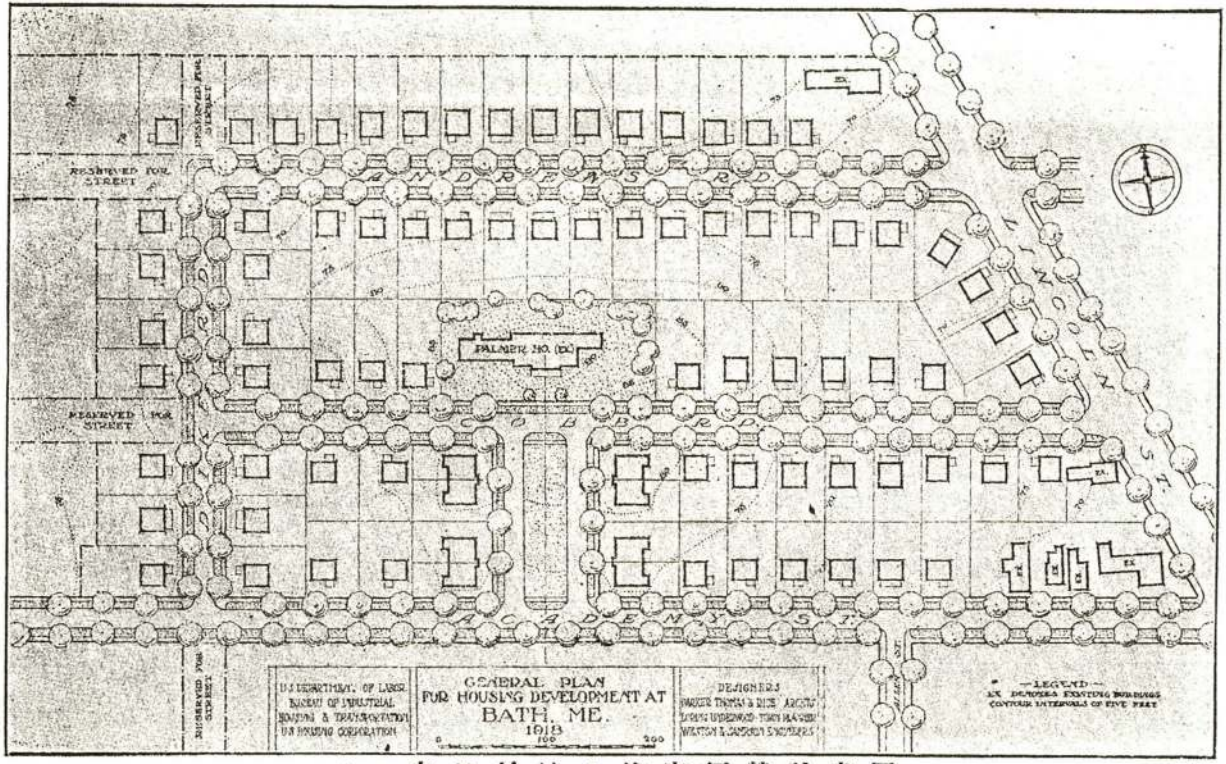
けて此度の大戰にバス市から出征した連中の第一番に戰死をした若者の名を記念して「フラバチー公園」と命名した。此の公園から新道路は舊道路に連絡して波止場に達してゐる。

此等の小住宅は大小數種あつて巾四十尺から四十七尺長八十尺から百尺の間に變化して居る。各戸は約十六尺以上の間隔を保たしめ前後は六十尺の餘裕を措いて庭園の敷地としてゐる。

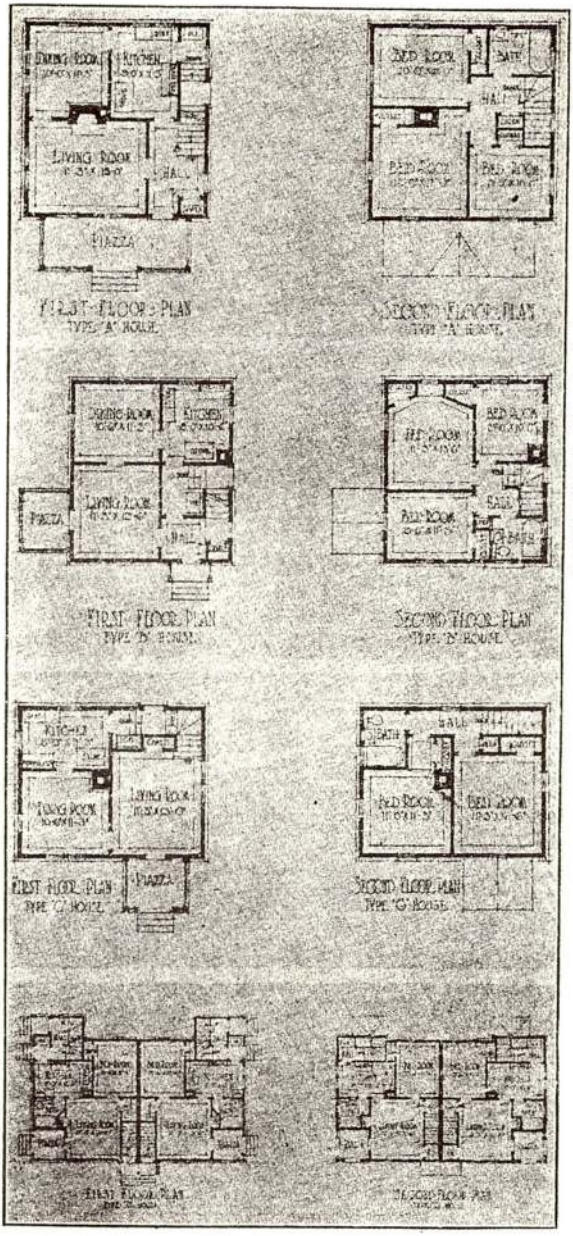


獨立住宅配景圖

バス市の狀勢から構造には木造を採用し、大体四種の型を保たしめたが玄關



バス市に於ける住宅經營計畫圖



バス市に於ける住宅平面詳細圖

の配置其他の小部分に於て變化をとり單調に陷らぬ樣にし全体の調和を考へ且特に米國風の外觀にした、總体二階家で間取り簡單に屋根は谷を設けず外壁は下見張にペンキを塗り屋根はマルソイド葺である。床は二重にして天井を設け二階床板はオークロー各戸に全体の地中室を設けてある。階下に居間と食堂と臺所、階上には戸棚付三箇の寢室浴室及本戸棚を設けてある。

或者は居間に煉瓦の暖爐を備へ階段は衣裝室のある廣間から昇る樣にし、主な室は兩面に窓を有し（D號の分丈は四軒長屋であるから別として）臺所には石炭用竈、瓦斯暖爐、洗場を備へ、暖房は温水裝置であり、電燈其他の設備はいはずもがなである。

斯う說明してくるとニウイングランド風の小ぢんまりしたなつかしい小住宅となるではないか。構造は徹頭徹尾實用的に出來上つたのであるから各借家人の滿足を得るのみならず政府の利益を度外視して居る際である故に最も歡迎されるに相違あるまい。

休戰と光榮ある勝利は眼前に迫つてゐる際、バス市の住居缺乏は戰後と雖ども變化はあるまい今後世界改造後の商戰に對しても益實行を促すことであろう。

□田園都市リツチウオールス

實地に就て之を見るに、市街區、工場區、及び農村區の三區劃に區別せしは勿論、市街區に於ても、家屋の數は一エークルに對し、十二戸以上を建築することが出來ぬようになつて居り、又其市街區の體裁も、後ろには畠地あり、前には、庭園ともいふべきものあり、更に、往來の兩側には何れも植樹をしてゐる。其植樹の種類も亦幾百に及んでゐる。斯る有樣で、夏季三伏の候の尙ほ清涼人を襲ふの觀がある。又之れと稍接近したる處、邸宅地とも稱すべき區劃がある。之れは日本でいふ昔の士族屋敷ともいふが如き場所で、相當の生活を營む商賣人、其他實業家の住宅であるも一人五エークル以上の借地を爲されず、此處に居住する者は奈何なる富豪と雖も土地の專有を許さゞる規定である。

□大阪市營簡易食堂及市立兒童相談所

（卷頭の寫眞參照されたし）

江村郊邨

わたくしは、本誌前號に於て、大阪市の社會的施設の一般を紹介すべく、先づ市營住宅及共同宿泊所に就き其概要を掲げて、わたくしの卑見を附け加へて措いた、而して今茲に市營簡易食堂及市立兒童相談所を紹介するに方り、端なくわたくしの感想を衝いた事は、歐米等に於ける斯の種又は類似の施設が、既に其事業自体の極めて大規模に進化を遂げ、其基礎觀念に於ても、憐愍觀念に基く處の所謂救恤主義より一轉して、學者の所謂公共的理想即ち一般の福祉を增進する主義觀念に基く施設となつたこと、隨つて、宗教倫理等の觀念に由りて爲されたる篤志者の斯る施設は兎も角として、市公共團體等に於ける右の如き施設は、寧ろ公益增進主義に由る行政行爲の一種にして、實に市民の權利たり市法人の義務たりと謂ふべく、斯のときに方り、我邦に於ける處の斯くの如き施設が先づ我大阪市に於て先鞭を附せられたることは之を多とすべきも、其規模の頗る狹小にして、而も、夫れ等の施行が救恤主義の觀念に出發せる如き傾向を感せらるゝは、我邦に於ける斯の種事業として未だ初期に屬せると、凡ての方面に於て否な尠くとも斯の種事業に於て歐米の夫れより約五十年の後方に在りとの評が、必ずしも誣謂にあらざることを幾多の證左より懷へば、蓋し餘儀なき道程なりとは云へ、今少しく大規模に施行して、實際其施設が市民の幸福を增進する上に痛要なる影響あるよう經營され度きもので

ある。是と同時に斯る事業の所在都市に起ることを望まざるを得ない一事である。只斯る事業に對し單に興味中心に仍りて之を迎るが如き一般の傾向では、未だ我邦に於ける社會施設が眞に覺醒的要求に出づるとは前途遠しの感莫きを得ないされど機運は益々斯る施設を促して息まざる此の秋に方り、大阪市が之等都市社會施設の基調たり單位たる處の斯る事業に向つて營々其懷抱を遣ることは、兎にも角にも之を稱へざるを得ない。而して、其既設のものとしては、曩に紹介せる住宅及共同宿泊所と、今茲に記述する處の兩施設の外、職業紹介所託兒所浴場等あり、市は進んで、更に比較的大規模なる住宅殊にアパートメントの如き我邦としては新しき住宅施設の試みをも爲さむとするものゝ如く聞けり。其他、職業紹介所の增設は、現に畧其工を竣れるものがある。けれども、都市社會的施設は其都市民公同の福利を增進する方法として思惟し得べき限りの事項は勿論悉く夫れならざるはない。故に、我大阪市としても其爲すべき社會的施設は素より是に止まらずして、例へば世界の都市中で、都市社會主義を最も旺に實行しつゝありと稱せらるゝ處の、彼の獨逸デユッセルドルフ市の如き、或は抵當銀行を營み、勞働者家屋建築資金を最も低利に而も頗る簡便に貸出して、夫れ等小住宅の供給を助長し、或は市立の貯金機關、市營の質屋、冬季の失職者に市自ら仕事を供與し、孤兒の如きは、市の『養ひ兒』なる名稱を以て、專門の保姆又は小兒科醫の監督の下に愛育さるゝ組織の如き、或は、單に建築費のみに約三百五十萬圓を投じて遺憾なき設備の下に約一千人の患者を收容し得るゲヂラル病院を中心として、市內到る處に市立の病院又は療養所を設け、或は法律顧問所を置き其他、食料品の檢査所、公設の大浴場、細民の娛樂に便する市立の劇場及音樂場並に安價なる料理店の如き、之等の內英米等に於ても等しく經營さるゝものがある。要するに、我都市社會政策上の問題は、是より頻々として相起り又施設さるべきである。甚だ蛇足を添へたようである

が、わたくしは是より市營簡易食堂と市立兒童相談所に就ての概觀を誌すことゝする。

△簡易食堂

斯の制度に似通へるものは、サクソニー國ケムニツツ市の公立會食場にして此處には來食者一箇年四十餘萬人に達するの盛況を示し、之に亞げるものは佛蘭西のクレノブル市にして、頗る著名である。殊に獨逸の都市は斯の種施設最も殷盛にして、前記索遜の如きは主として工業地方に斯る制度を設けてゐる。併し乍ら之等の制度は、獨逸市政學者の所謂『生活資料保護制度』と名くる營養保給行政の一種にして、市民の粗惡なる處の攝食に基く保健上の障害を除かんが爲公費を以て營養を供給するの事業なるが故に我大阪市の簡易食堂とは稍其主目的を異にし、其施設を稍等ふするのと謂ふべきである。

▲計　畫　本誌前號に於て大阪市營住宅及共同宿泊所を紹介するすに方り、大阪市の社會事業は實に、客年米價の暴騰に因る人心の險惡なる動搖に會し、市は大阪救濟事業後援發起人なる圖體に據りて其計畫を始められたることを述べたが、斯の簡易食堂及兒童相談所は素より其計畫の第一期に屬するものである。殊に、簡易食堂の如きは、折柄人心の危險なる傾向を有せる食料問題と至緊の關係に在ることゝて、一日も早く開設の必要に逼られ、下記幸町及南森町（天滿）食堂の如きは、起工より僅に前者は二十日間後者は實に二週日餘の短期間を以て工を竣へたのであつた、以て、斯の施設の折柄なる人心の險調を融和せんことに多少の寄與を爲したることを懷ふべきである。

▲其所在　現在に於ける其簡易食堂は六箇所にして、左の地點に設置されてある。

□幸　町　食　堂　西區幸町通一丁目
□南森町天滿食堂　北區天神橋筋三丁目
□九　條　食　堂　西區九條南通一丁目
□西　野　田　食　堂　西野田共同宿泊所に附設
□今　宮　食　堂　今宮共同宿泊所に附設
□築　港　食　堂　築港共同宿泊所に附設

而して、其最も早く開設されたるは幸町食堂に

して、其開始は客年九月一日であつた。以來、九月五日の天滿食堂、十二月二十九日の九條食堂といふ順序であつて、共同宿泊所附設のものは漸く七月初旬を以て開設されたのである。

▲經營方法　器具調度は勿論諸般の設備其他電燈及水道の無料使用なる條件の下に、食費一回一人分十錢（飯は六錢菜四錢）を以て供給すべく指定請負制度に依り經營されて在る。而して、其請負者經營に就て、市は供給食品の監督、殊に食品の分配即ち献立、從事員に對する健康診斷、保健方面は勿論、接客の狀況等に就ても恒に周到な監督を爲しつゝありとのことである。今、參考までに、市と營業者との間に於ける請負契約ともいふべき許可條件なるものを左に揭ぐることゝしよう。

簡易食堂食事供給請負ニ關スル許可條件

第一條　請負人ハ豫メ食事供給ニ關シ必要ナル準備ヲ整ヘ來客ノ請求ニ應ズベシ

食事ノ請求ニ對シテハ正當ノ理由アルニアラザレバ拒絕スルコトヲ得ズ

第二條　食事供給ニ關スル必要ナル經費ハ總テ請負人ノ負擔トス食堂設備、同備品、電氣及上水道ニ要スル經費ハ本市之ヲ負擔シ無償使用セシム

第三條　請負人ノ來客ヨリ收受スベキ代價ハ一食十錢トシ相當ノ献立ニ依リ供給スベシ但シ本市ニ於テ必要ト認ムルトキハ代價又ハ献立ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

請負人正當ノ理由アルトキハ本市ノ許可ヲ得テ代價又ハ献立ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第四條　食數及献立ハ別ニ指示シタル樣式ニ依リ前日分ヲ翌日午前中ニ本市ニ報告スベシ但シ必要ト認ムルトキハ献立ハ翌日分ヲ前日中ニ報告セシムルコトアルベシ

第五條　食料品ハ新鮮ナルモノヲ用ヒ腐敗又ハ腐敗シ易キモノヲ使用又ハ供給スベカラズ

傳染病流行時ニ在リテ本市ニ於テ必要ト認ムルトキハ食料品ノ使用又ハ供給ヲ制限スルコトアルベシ

第六條　請負人ハ常ニ相當數ノ使用人ヲ置クベシ但シ傳染性疾患アル者ヲ使用スルコトヲ得ズ

本市ニ於テ必要ト認ムルトキハ使用人ノ增加又ハ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第七條　請負人又ハ其使用人ハ常ニ服裝ヲ清潔ニシ來客ニ接スル場合ハ言語動作ヲ謹ミ懇切叮嚀ヲ旨トスベシ

第八條　食堂內外ハ常ニ其清潔ヲ保持シ食用器具使用後必ラズ煮沸其他ノ方法ニ依リ適當ナル消毒ヲ行フベシ

第九條　本市ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時タリトモ食料品ノ檢查、從事員ノ健康診斷其他ノ爲吏員ヲ臨檢セシムルコト

アルベシ

第十條　食堂設備同備品其他本市貸與ノ物品ハ總テ其ノ取扱テ丁寧ニシ許可期間滿了シタルトキ又ハ許可テ取消サレタルトキハ遲滯ナク原狀回復ノ上之テ返納スベシ若シ請負人ノ責ニ歸スベキ理由ニ依リ滅失毀損シタルトキハ其損害ヲ賠償スベシ

第十一條　前各條ニ定ムル外食事供給ニ關シ必要ナル事項テ命ジタルトキハ直ニ之テ履行スベシ

第十二條　請負人本條件ニ違背シタルトキハ許可テ取消スコトアルベシ

第十三條　許可期間ハ大正八年　月　日ヨリ大正年　月末日迄トス　但シ期間內ト雖本市ニ於テ必要ト認ムルトキハ七日以前ニ豫告シテ之テ取消スコトアルベシ

▲食料　食堂計畫當時に於ては今日の如く殆んど幾倍を呼ぶが如き迄には物價の暴騰を來さゞりしとは云へ、既に人心の一大動搖を惹起せる物價昂騰となりしとて、僅に十錢なる範圍に於て相當カロリーを攝取し得べき配合は、當局者の最も考慮を惱ませるものゝ如きであつた併し乍ら、斯る安價且つ淸潔にして而も簡便に營養量を供給することが勿論斯施設の生命なるが故に、斯の點は最も苦心を拂つたことゝ想ふ而して、市は、當初奈何なる標準に據りて其營養量を求め、又、現に之が監査を爲しつゝあるや、隨つて、供給されつゝある獻立が果して理想に庶幾や之を識り得ないが、之を中流以下の普通食の標準に觀れば、寧ろ相當以上なることを認めざるを得ない、先づ、左の獻立表に觀よ。

		幸町食堂		天滿食堂		九條食堂	
		朝	夕	朝	夕	朝	夕
八月一日		味噌汁 白菜したし	赤飯 鰯佃煮 茄子	味噌汁 煮豆 香の物	蝦 千切 香の物	味噌汁 雜魚飴煮 香の物	煮魚 茄子 香の物	胡瓜 雜魚酢の物 香の物
二日		味噌汁 茄子 淺漬	燒煮 ジャガ芋 香の物	南瓜 茄子 香の物	蝦 牛蒡 香の物	味噌汁 胡瓜雜魚 香の物	鮭 あんかけ 香の物	十八サヽギしたし物 香の物
		味噌汁 茄子 淺漬	燒煮 ジャガ芋 香の物	南瓜 茄子 香の物	蝦 牛蒡 香の物	味噌汁 雜魚飴煮 香の物	煮魚 茄子 香の物	胡瓜 雜魚酢の物 香の物
		味噌汁 茄子 淺漬	燒煮 ジャガ芋 香の物	南瓜 茄子 香の物	蝦 牛蒡 香の物	味噌汁 雜魚飴煮 香の物	煮魚 茄子 香の物	胡瓜 雜魚酢の物 香の物
		味噌汁 茄子 淺漬	燒煮 ジャガ芋 香の物	南瓜 茄子 香の物	蝦 牛蒡 香の物	味噌汁 雜魚飴煮 香の物	煮魚 茄子 香の物	胡瓜 雜魚酢の物 香の物

八月一日	二日	三日	四日			六日	五日	四日	三日	
味噌汁 豆腐 香の物	味噌汁 豆腐 香の物	味噌汁 豆腐 香の物	味噌汁 豆腐 香の物	朝	西野田食堂	味噌汁 茄子淺漬 香の物	味噌汁 鹽昆布 香の物	味噌汁 鹽昆布 香の物	味噌汁 千切二杯酢 香の物	
蛸 香の物	煮魚 玉ねぎ 香の物	鹽魚 あんかけ 香の物	茄子 味噌あへ 香の物	晝		昆布巻 玉ねぎ 香の物	丸方鯛 青昆布 香の物	十八サヽギ 南瓜 香の物	魚あんかけ 貝割菜 香の物	
牛肉 玉ねぎ 馬鈴薯 漬物	鰊 茄子 香の物	蔓翁 牛蒡 香の物	蝉 千切 香の物	夕		鯨佃煮 大根切干 香の物	白雑魚 胡瓜もみ 香の物	天麩羅 茄子 香の物	茄子 貝割菜 香の物	
豆腐 味噌汁 鹽鯖 香の物	味噌汁 葛 香の物	味噌汁 福神漬 香の物	味噌汁 鮭 香の物	朝	今宮食堂	味噌汁 豆腐 香の物	味噌汁 黒豆 香の物	味噌汁 大豆 香の物	味噌汁 豆腐 香の物	
煮魚 胡瓜 香の物	鹽鯖 香の物	太刀煮付 豆、鮭 香の物	煮魚 菜 香の物	晝		鯖 あんかけ 香の物	煮魚 馬鈴薯 香の物	天麩羅 千切 香の物	鹽魚 あんかけ 香の物	
鹽鯖 油揚 胡瓜 香の物	鮭鹽鯖 葛 香の物	鮭 サヽギ 香の物	若布、菜 煮魚 香の物	夕		牛蒡 豆腐白あへ 香の物	南瓜 焼豆腐 香の物	菜 油揚げ 香の物	牛蒡 蔓翁 香の物	
味噌汁 雑魚 漬物	味噌汁 漬物	味噌汁 漬物	味噌汁 漬物	朝	築港食堂	味噌汁 雑魚 香の物	味噌汁 雑魚 香の物	味噌汁 雑魚 香の物	味噌汁 昆布雑魚 香の物	
煮魚 胡瓜 漬物	十八サヽギ 竹輪 漬物	太刀魚 豆腐 漬物	煮魚 干瓢 漬物	晝		鯖さしみ おろし 香の物	煮魚 香の物	太刀魚 サヽギ 香の物	太刀魚 頭芋 香の物	
煮魚 胡瓜もみ 漬物	鮭 漬物	豆腐 昆布 漬物	干瓢 漬物	夕		頭芋 香の物	鯖 茄子 香の物	大和豆 干瓢 香の物	豌豆 頭芋 香の物	

五日	味噌汁 福神漬 香の物	煮魚 切干 香の物	揚け 干瓢 香の物	味噌汁 香の物	天麩羅 煮魚 香の物	南瓜 天麩羅 茄子煮付 香の物	味噌汁 漬物	天麩羅 干瓢 漬物	天麩羅 干瓢 漬物
六日	味噌汁 香の物	南瓜 ササギ 香の物	餡かけ 香の物	味噌汁 鯨煮付 香の物	皮鯨 茄子 香の物	鮭 あんかけ 香の物	味噌汁 漬物	豌豆 漬物	南瓜 漬物

▲利用の成績　食堂開設以來、即ち、大正七年九月より本年六月に到る十箇月間に於ける客數は、當時、共同宿泊所附設食堂未開始のときとて、只幸町、天滿、九條の三食堂、而も其各食堂が開始日時を異にせるに於てすら、實に百二十三萬二千八十四人を算し、其各食堂を通じて一日平均四千二百六人といふ多數に上つてゐる更に之を最近七月中に於ける食堂別及食時別にすると左の通りである。

簡易食堂成績表ノ一　（大正八年七月分）

日次	晴雨	週曜	幸町食堂 朝食	幸町食堂 晝食	幸町食堂 夕食	幸町食堂 辨計	天滿食堂 朝食	天滿食堂 晝食	天滿食堂 夕食	天滿食堂 辨計	九條食堂 朝食	九條食堂 晝食	九條食堂 夕食	九條食堂 辨計	通計
一日	雨	火	二一七	三三一	一一六	一〇	六七四	三一〇	五七一	三八二	—	一、二六四	四四七	五八四	四三四	二三	一、四八七	三、四二五
二日	同	水	一六五	三〇〇	一九二	二九	六八六	三一八	三三一	四四〇	一一七	一、一九六	四三二	五五〇	五九四	七九	一、六四五	五、五二七
三日	同	木	一九二	四一五	二一〇	二一	八四八	三六〇	四二三	三五一	一一六	一、二四九	四九四	六〇四	六二三	五九	一、七七九	三、八六六
四日	同	金	一九二	三九四	一八一	二三	七九〇	三六六	三二八	三一五	一二〇	一、二九	五一七	四七四	五四八	五五	一、五九一	三、五一〇
五日	同	土	一五八	三一八	二〇〇	一七	六九三	三二四	三〇四	三八三	一一〇	一、一一一	四一六	五三一	五七七	六四	一、五八八	三、三九三
六日	晴	日	一九九	五一〇	二四〇	二九	九八八	三六〇	四五四	四〇七	—	一、三二一	五三三	七五六	七〇五	五四	二、〇四七	四、二五六
七日	曇	月	二三八	五五九	一九八	二三	一、〇一八	四〇〇	四七二	七七七	一一六	一、二〇五	五八六	七二九	五五八	六六	一、九三九	四、二六二
八日	同	火	一九五	五三六	二四一	二〇	九二九	三八一	四七七	四二一	一一八	一、三八七	五七四	七六八	七一三	九一	二、一四五	四、五二四
九日	晴	水	二三二	五八一	二六二	一六	一、〇九一	四一一	五〇〇	三九四	一一八	一、四二三	五九七	七四四	七三八	七六	二、一三六	四、六五〇

| | | |

簡易食堂成績表ノ二

（大正八年七月分）

日次	晴雨	週曜	西野田食堂 朝食	畫食	夕食	辨計	今宮食堂 朝食	畫食	夕食	辨計	築港食堂 朝食	畫食	夕食	辨計	通計
一日	雨	火	一七六	一二三	一	二八八	一四三	一五七	一九三	五四二	五	三九	一	八三	八七四
二日	同	水	八四	一一六	一四四	三七七	一一六	一七四	二三三	五四二	三三	四六	一	九一	一、〇一〇
三日	同	木	九七	一三三	一九	四二八	一三六	一四九	二六四	五六九	二一	五一	一五	一三〇	一、一二七
四日	同	金	一二九	一一三	一二七	四九八	一七五	一六六	三一七	六七八	三三	五九	一四	一四〇	一、三二六
五日	同	土	一二六	一三五	一三六	五一九	一九六	二一九	三三九	七四四	三三	五六	一八	九六	一、三九
六日	晴	日	一四六	一九六	二〇一	五五四	一七五	一九四	三一一	七一〇	三三	七五	一四六	一五四	一、四一八
七日	暴	月	一七一	二一一	一九八	五九九	一九一	一九六	三〇九	七三〇	三三	七三	一四六	一四八	一、四七七
八日	同	火	一三四	一九五	二三一	六七七	二一四	一九七	三一七	七五八	二四	八〇	一三七	一六四	一、五九九
九日	晴	水	二一	二〇四	二〇六	六四一	二一三	一九〇	三一三	七二五	二七	四七	三八	一一七	一、五一四
十日	同	木	二一七	二三四	一三	六七八	二五八	二一八	三五一	八三七	三一	四八	四一	一二〇	一、六三五
十一日	同	金	二四四	一七五	一六	六四四	二六七	二六二	三一九	八五八	三八	五〇	六三	一五一	一、六五三
十二日	同	土	二五〇	一九五	一六	六九四	二四一	二三〇	三三五	八四六	四三	四二	四一	一二九	一、六五九
十三日	同	日	二三三	二一八	二〇九	六六一	二三六	一九九	三二四	七九九	三四	五八	四二	一四〇	一、五七〇
十四日	同	月	二六二	一九七	二四二	七二一	二三六	二〇六	三三一	七九四	四四	四〇	六四	一五六	一、六七一
十五日	同	火	二三一	一五三	二四一	六三〇	二五七	二一八	三〇四	八〇九	四六	四二	三九	一三五	一、五七四
十六日	同	水	二七九	二六八	二五二	八一八	一五三	二三三	三〇七	七三三	四九	六六	七三	二〇〇	一、七四〇
十七日	同	木	二八一	二〇〇	二七〇	七六八	二四八	二三〇	三四六	八四四	八七	五五	一〇一	二五五	一、八七七
十八日	同	金	二四五	二一〇	二四一	七二一	二四九	二六九	三七五	九一三	一〇一	五〇	一二四	二九九	一、九四三
十九日	同	土	二七一	一九八	二七三	七八二	二五三	二七八	三三四	九〇四	一二六	四七	一〇一	二五九	二、九八五
二十日	同	日	二五六	二一九	二三三	六三三	二六六	二四七	三六四	一〇七	一二九	五八	一二三	三三一	一、八七三

廿一日	同	月	二七五	一九〇	二六二	四〇	七六五	二七一	二三〇	三三五	—	八四六	一〇五	三一	一二八	三五	二八九	一、九〇九															
廿二日	同	火	二一一	一九二	二九〇	三三	八二六	二八二	二六六	二九九	三〇	九七七	一三一	二六	一九二	二五	二七四	二、一七七															
廿三日	同	水	二一六	二三一	三一〇	四三	八九〇	二九四	一三一	三〇六	—	七三二	一三〇	五三	一三〇	四八	三四一	一、九六三															
廿四日	同	木	二三一	二五七	二一一	四一	九四〇	二四八	二〇七	三五〇	四〇	八四五	一四八	六三	一四三	四五	三九九	二、一八四															
廿五日	晴雨	金	三〇四	二三〇	二七三	四六	八五九	二五一	二三九	三二七	五〇	八七七	一一七	三四	一〇六	五二	三〇九	二、〇四五															
廿　日	同	土	三一五	二三九	二九六	二七	八七七	二五七	二三六	三五〇	五〇	八九三	一三〇	五六	一三三	四二	三六一	二、一三一															
廿七日	同	日	三三二	二〇九	三一七	二三	八八一	二一六	二三八	四五	八七五	一二五	六八	二九	四五	三六七	二、一二五																
廿八日	同	月	三二一	一五〇	二六三	三九	七七三	二三三	二七四	三九一	—	九八八	一二六	八三	一一四	二八	三五一	二、一二三															
廿九日	晴	火	三三三	二一三	二八一	四〇	八五七	二四四	二三四	三七一	四〇	八八九	一一一	五九	一四二	四二	三五四	二、一〇〇															
三十日	雨	水	三四七	二四一	三一四	三八	九三九	二五九	二三五	三六六	四〇	九〇〇	一一五	六四	一三〇	四三	三五〇	二、一八九															
卅一日	晴	木	三三九	二一七	二八九	四七	八九二	二九八	二四八	三一三	—	八五九	一一六	五六	一三四	四二	三四八	二、〇九九															
總計			七、四六一	六、〇二八	七、四二六	八〇二	二、七一七	七、二三二	六、七五〇	一〇、一四六	七八五	一四、九〇三	二、一八二	一、六二一	二、六五八	六二一	七、一九二	五三、七一三															
一日平均			二四八	一九四	二三九	二五	七〇〇	二三二	二一七	三二六	二五	八〇三	七三	五二	八五	二〇	二三八	一、七三二															

右表に示すが如く、七月中に於て十八萬四千百二十二人、一日平均六千百三十七人といふ數に達する。

▲客の種別　市當局者の說明に據れば、簡易食堂設置の目的は、近時侈奢廢頽の風社會の上下に瀰漫せんとするに方り、僅に白銅二箇を以てして尙且つ斯の如く頗る營養分に富める食料を攝り得るの範を示し、以て矯風の一助たらしむるに在るが故に、所謂下層社會の人々に仍りて之を利用されざることは必しも遺憾にあらずと云へり、果して然るにや、又、之等の社會事業なるものは主として、經濟的不均衡より生ずる缺陷を補ふに在るを懷はゞ、斯の說明必ずしも肯綮を得たりと謂ふべからざるも、其『事實』てふ衡器は、果して其孰れの分度を示せるや、左表に據りて推定し得ん歟。

各食堂來食者階級調査表

（百分比）

名稱	種別	朝%	晝%	夕%	平均%
九條食堂	普通商人其他	一〇	二〇	一五	一五
	勞働者	六〇	三〇	五〇	四七
	通勤者其他	二七	四〇	三〇	三二
	婦人小兒其他	三	一〇	五	六
幸町食堂	普通商人其他	八	一三	九	一〇
	勞働者	五六	五九	五三	五六
	通勤者其他	三五	二六	三五	三二
	婦人小兒其他	一	二	三	二
天滿食堂	普通商人其他	三二	三一	三〇	三一
	勞働者	二四	三〇	三〇	二八
	通勤者其他	三七	三〇	三〇	三二
	婦人小兒其他	七	九	一〇	九
西野田食堂	普通商人其他	一〇	二〇	一〇	一三
	勞働者	八〇	五〇	七〇	六七
	通勤者其他	〇	一〇	一〇	七
	婦人小兒其他	一〇	二〇	一〇	一三
今宮食堂	普通商人其他	〇	〇	〇	〇
	勞働者	九五	九〇	九〇	九二
	通勤者其他	〇	五	五	三
	婦人小兒其他	五	五	五	五
築港食堂	普通商人其他	〇	〇	〇	〇
	勞働者	九〇	七〇	九〇	八三
	通勤者其他	〇	〇	〇	〇
	婦人小兒其他	一〇	三〇	一〇	一七

右表は、去る八月十日より五日間に亘りて市當局者の調査したるものに係り、主もに着衣、携帶品、風姿等に藉りて推定せりとのことである是に據りて先づ色彩別に示せること、

(一)食堂所在地に由る客種の區別である。即ち、西野田、今宮、築港三食堂は、共同宿泊所に附設され在る當然の結果として勞働者多きも、他三食堂中、平均パーセントに於て勞働者の多きは、倉庫及鐵道驛を控へたる處の幸町食堂を最とし、九條食堂は之と殆んど伯仲の間に在る、而して、天滿食堂即ち天神橋筋に當る同食堂は道に小商人と通勤者によりて其大部を占め、勞働者としては僅に幸町食堂の半數に該るに過ぎない。

(二)一般に、朝食及夕食者の多くして、中食者比較的少く、殊に、勞働者としては、九條、幸町

兩食堂に於て朝、夕兩食に畧ぼ平均數を有せることで、是は奈何なる原因なるや今遽に之を識り得ないが、確に研究すべき一事項である。三客中婦人の極めて寥々の感あるは、必じしも其要求の薄きにあらずして、或は其設備の關係に由りて、自然利用し得ざるの傾向ではあるまいかと想ふ、故に理想としては、婦人食堂を區別するの要はあるまいか。

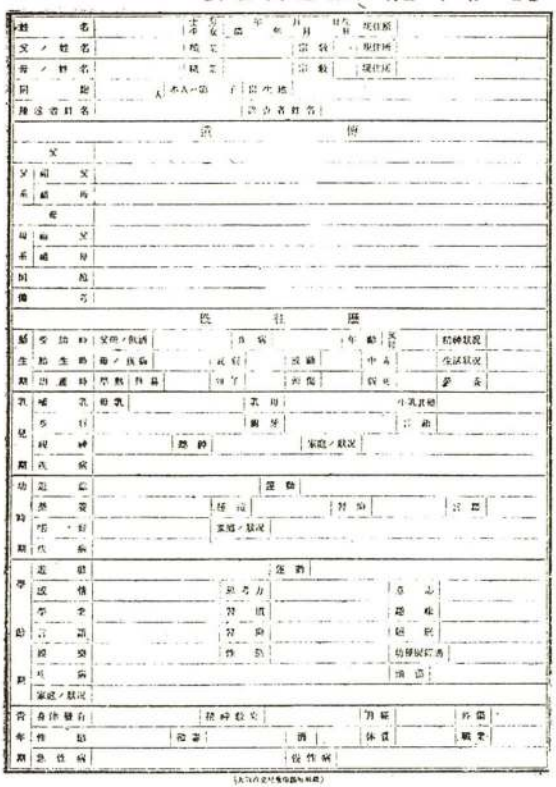
更に之等の食堂に就て、前述の市當局者の說明せる如く斯る目的に在りとせば、市は何等かの方法の下に、或は時々相當地位者の召待會を催して其範を示し、時に或は食堂デーともいふべき催をなして、矯弊的觀念を吹き込むのも一策ではあるまいか。而して、之等食堂も今少し大規模に數多く設置して、生活費調節の上に多少の影響を及ぼすべくあり度いものである。

△市立兒童相談所

斯の施設も、前述の如く市營住宅及共同宿泊所等と共に市の第一期社會事業に屬し、今宮共同宿泊所に接して設置されてゐるが、勿論獨立の組織と特殊の事業目的を有しゐるのである。是より其組織等に就て誌すに方り、先づ之を歐米等に於ける斯の種事業に徵すれば、わたくしの淺識寡聞なる故か是は我邦に於て最先の事業たると同時に我市特殊の組織であると想ふ。只強いて之に似通へるものを求むれば、前記デュッセルドルフ市に於ける兒童保護制度であるまいか。要するに兒童に關する生理的敎養的又は社會的凡ゆる事項に就て綜合的の組織と專ら諮問機關たるとに於て特殊な施設と思料される。デュッセルドルフ市の如きは、先づ兒童の健康に就て不斷周密な注意を拂ふべく各種の施設がある。其一例として兒童の就學時に校醫は其父兄の前面で周到な體格及體質檢査を施行し、之に仍り或は兒童の營養や育成方法抔に關して最も親切に注意を與へる。或は心身劣等兒又は低能兒に對する特別な施設を爲し、冬季には貧兒に溫な朝食を與へ、虛弱者には牛乳を給し又塩湯浴を爲さしむる等頗る到れりとのことである

之等は、勿論、市が直接に其作用を爲すのであるが、我市立兒童相談所の事業と其目的に於て範圍を等ふしてゐるといふて可い。

▲事業の組織　當所の事業は、前述の如く主として兒童の生理的、敎養的、社會的諸般の諮問機關たり指導者なるが、其內容はざつと左の通りである。



（甲）　兒童の敎養

‖A‖、兒童敎養に關する相談

（一）醫學的（診査）

（い）正常に發育せりや否やの診査

（ろ）特殊兒童の身體方面の診査

（は）凡ての相談に關して醫學的診査

（二）敎育的（調査）

（に）職業選擇に就ての調査

（ほ）特殊兒童の精神的方面の調査

（三）家事的（實査）

（へ）運動遊戲の調査

（と）食物に關する實査

（ち）衣服に關する實査

（り）住居に關する實査

（ぬ）娛樂に關する實査

‖B‖、兒童敎養に關する研究調査

（乙）　母親の敎養

No.

個性調査票(乙)

大正　年　月　日調

姓名		七男 年 月 日生	出生地		
		卒業 退学 月 日	現住所		
父ノ姓名		職業	宗教	現住所	
母ノ姓名		職業	宗教	現住所	
同胞	人	本人ハ第 子	現状		学校長 住所
記入者氏名			調査者姓名		
点数	父系				
	母系				
家庭ニ於ケル特殊人物			病的遺伝		
備考	教任		現在		

過去ノ生活状態（身体的 精神的）

胎児期	
乳児期	
学齢前	
其後	

主訴

主訴ニ關シテノ陳述

保証者

家族ノ陳述

性質	
習癖	
長所	
好嫌	
趣味	
創作	
特記	

学校ノ回答

性質	
習癖	
長所	
好嫌	
趣味	
創作	
特記	

備考

（大阪市立児童相談所用紙）

智力検査

年齢	

学業調査

担任所見書	学校ノ回答
担任年齢	学業程度

備考

感覚及経過

月日		

＝C＝、母としての教育

(四)母としての教育

(ろ)兒童に關する講習會、講演會、研究會の開催

(を)女子教育機關及婦人會との連絡

(五)妊婦の攝養

(わ)攝養法に關する口述又は書籍の選定紹介

(か)育兒法　同

(六)乳兒の養護

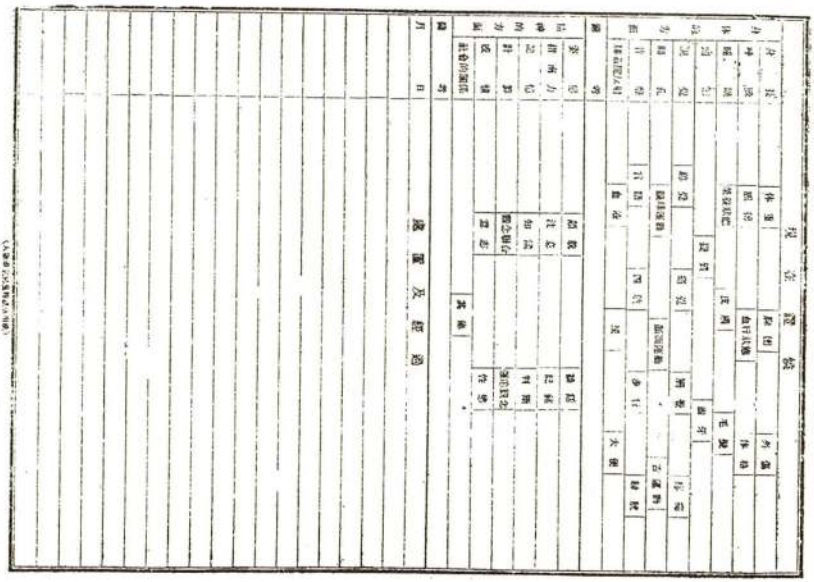
(よ)取扱法

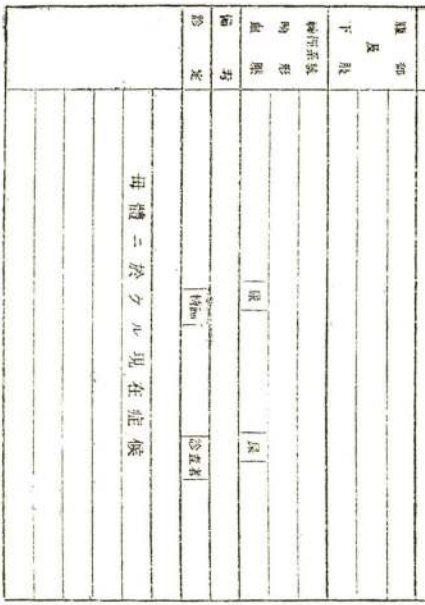
(た)榮養法＝授乳法＝稀釋法

(七)母親の教養に關する研究調査

以上は事業組織の概要であるが、之等の組織に就て觀ると、斯の機關の利用は、勿論必ずしも下層階級の經濟的教育的又は生理的杯の原因に基く異常兒の救濟機關にあらずして、階級を超越したる處の一般的な兒童育成上の後見機關と謂ふべきである。

都市に於ける兒童殊に乳兒の弱質又は死亡率

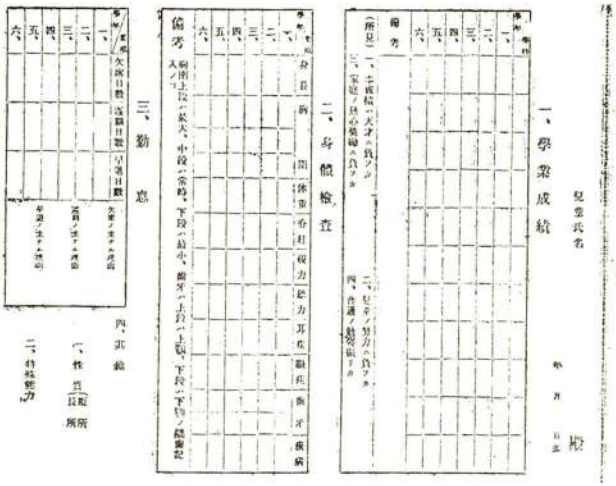



乳兒診査表　大正　年　月　日診

No.

| | | |

序になつてゐるに反し、大阪府は(一)消化器病(二)呼吸器病(三)腦膜炎(四)其他といふ順序になつて居り殊に大阪市及び接續町村は



夫れ以上の實相を示してゐる。

更に、乳兒の死亡數を見ると大正五年度に於て大阪市の乳兒全數六千三百三十三人中、其死亡は千分比にして、百九十四人即ち一千二百廿九の死亡となつてゐる。之を市の接續町村に就て見ると一層其率を昂めてゐる。即ち、同年度に於て、乳兒總數二千二百三十三人中、五百



五十四人の死亡即ち千分中二百四十八人の死亡を生ずることになる。

次に、其死因のパーセントを示さば、ざつと左の通りである。

▲大阪市（%）

先天性弱質	五二
消化器病	三九
呼吸器病	三五
脚氣	三〇
腦膜炎	一四
其他	二一

▲接續町村（%）

	六〇
	五九
	二八
	二〇
	四八
	三〇

以上の實績に據つて見ると、先天性弱質が最多で、其次は消化器病である。而して前者は、其原因を要約すれば、乳兒——兩親——祖先——社會的、斯ういふ關係に迄遡らなければ即ち人種改良とまで行かねば問題は解決し得ない。けれども、其次位たる消化器の疾患に到りては、食物と保育との二つに在るので、是は、要するに、其養育者殊に母親の智無識に基くことが主もなる原因であると認め得る。

次に、不良兒に就ては、わたくしは云ふ事の多くを有してゐるが、最早紙面も豫定以上を割いたから、左表を掲げて參照とする。

（家庭訪問錄）

家庭			こども								
父	母	場所	姓名	年齡	營養及現狀						
主業及副業											
住居											

健康票

大阪市南區今宮宮津町
大阪市立兒童相談所

住所
姓名

年月日生 殿

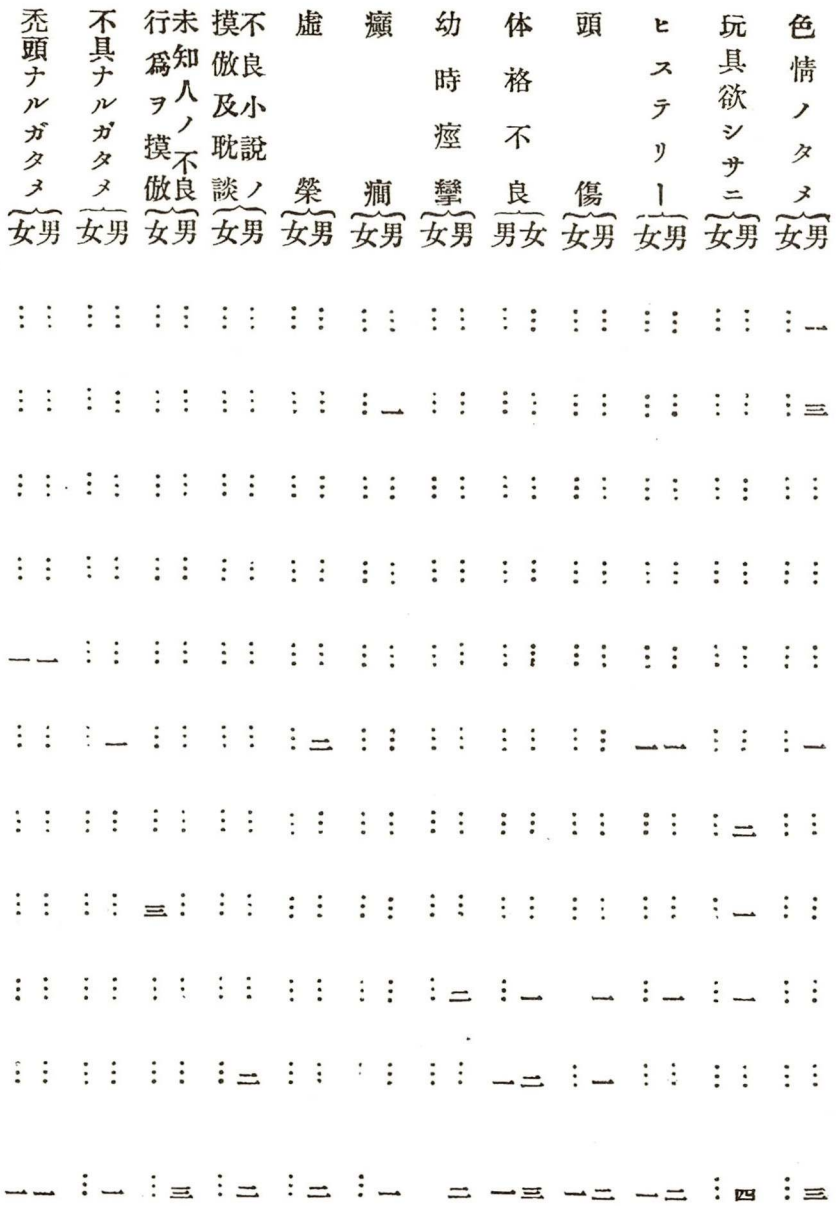
毎月　日午　に御越しなさい但日曜か祭日の時は其翌日に御出なさい

大正　年　月　日

検査	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
年齢					
身長	尺 寸 分				
體重	貫 匁				
胸囲	尺 寸 分				
頭囲	尺 寸 分				
疾病					
備考					

▲個人より見たる不良の起因

起因		明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	
買食シタサニ	男	三三	二六	二	一六	一九	一四	二八	八	一〇	三	二八
	女				六	三	四	五	三	二	一	二
怠惰	男	二四	三	一七	一八	二三	三三	一七	一		二	一四六
	女			五	三	三	五	一				六
我儘	男	三	七	五	二	六	三	四	二		二	四三
	女					三						三
興業物見タサニ	男	七	二	一	一〇	一五	三四	一六	九	二二	一六	九〇
	女					一		一	一	二	二	二
低能	男	一	七	一	七	六	七二	八一	三	五	五三	五〇
	女											七
無教育	男							三	一	四一	五二	三
	女											
學科嫌	男	六		一	二	一		二				三
	女											
腦障礙	男				一				三	三一	四一	一二
	女											
胎生時ノ不良感動	男									四	四三	八三
	女											
賭博好キ	男	二	二	一		一		一		二	一	二
	女											


色情ノタメ 男 女
玩具欲シサニ 男 女
ヒステリー 男 女
頭傷 男 女
体格不良 女 男
幼時痙攣 男 女
癲癇 男 女
虚榮 男 女
不良小説ノ摸倣及耽談 男 女
未知人ノ不良行爲ヲ摸倣 男 女
不具ナルガタメ 男 女
禿頭ナルガタメ 男 女

| | | |

ある。終りに、同所は、醫員、助手、事務員、雜設夫各二名づゝを以て組織し、大阪市技師ドクトル三田谷氏の下に、大阪市醫竹村一氏が其主任として執掌されてゐる。わたくしは以上を今少し詳細に、又尙ほ他に誌すことの多くを有つてゐる、けれども、最早此の上の紙幅を許さない纔に片影を捉へ其輪廓を畫きたるに過ぎないが是で筆を擱くことゝする。

(乙)教育的相談　二三　所内＝二一（男　一九／女　二）　所外＝二（男　／女　二〇）

(丙)家事的相談　二　所内＝二（男　一／男　一）

以上總計二六四人として、家庭訪問四五一戸で

□英國の救療事業□

英國に於ける救療事業は之を二つに區別される。一は救貧法による救療事業にして、他は私立病院に於けるものである。英國は獨佛其他の外國と趣きを異にして、公立病院なるものは一も存在しない。總て病院は私設にして、而も皆慈惠的のものである。英國に於ける病院の數は約七百にして、其中、倫敦其他重なる都市九ヶ所の病院に於ける寢牀の數一萬五千餘、又救貧法に依て救療すべき前九市に於ける養育院病舍の寢牀は二萬七千牀を有してゐる。無論此の中には傳染病に對する避病院を包含して居らぬ。



華城街樹私見

大阪市天王寺公園主任　衣笠滋三

本誌前號より、大屋靈城氏の『街道樹論』を掲ぐるあり、今亦衣笠滋三氏の本編を寄せらるあり、兩々相照觀せば、都市街衢の植樹と都市經營の關係に於て其得る處鮮からざるべきを信ず、豈に必ずしも滋育に次ぐに豊腴を以てするの嫌ありと云はんや、若し其所見の異る處あらば、幷は寧ろ採つて讀者の研琢の資と做すに足らん、敢て本誌に併載する所以也。

—一記者—

△都門の街道に
森林美を現出して

△先づ其美觀に

寄與することは、我大阪市の如き紅塵萬丈の大都市では殊に其要を感ずる事一層痛切である

凡て、建築物は、天然美と渾一融和し、茲に初めて美觀を呈するのである。されば、天然美は專ら植物が代表してゐると謂つても、蓋し、溢美ではあるまい。換言すれば、建築物と植物とは甚だ密接な關係を有するのである。奈何に結構善美を竭くせる建築物も、天然美と融和せられなかつたならば、建築の眞髓たる建築美は到底望まれない。之と反對に、建築物其ものは結構善美ならずとも、植物との按配調和が整つてゐるならば、其建築美は實質以上遙に發揮せらるゝこと、何人も之を認めて異論を挟まないであらう。

彼の歐米都市の美觀が、建築法の進歩と建築

夫れ自体の整頓とに由ることは勿論であるけれども、一つは、都市總体が、行道樹や、公園や遊園等に彩られ、斯くて、天然美が能く完整せらるゝからである。之に比して、我大阪市は、人家稠密、見渡す限り電柱や煙突抔が鼻を突く許に林立し、且つは、建築物の不整、道路の狭隘、空地の皆無、電話や電燈抔の架空線低き等種々なる障碍物があつて、此儘では植樹の如き到底思ひも及ばぬ情ない狀態に在る實狀である今日漸く電車道路の一部に並木らしきものゝ出來上りたるも、這麼事では迚も滿足とは云へない、即ち、全市が綠樹に包擁さるゝまでに到らずむば止まない決心を以て進まなければならぬ尤も、是は、市の現在の狀態として或は無理な注文かも知れぬが、近く實施の市區改正事業と相俟ち、漸を追ふて完成の域に達せしめむことを望むのである。脚一度び北米ワシントン市に踏み入れたる者は、宏壯なる建築物の整然たるに先づ一驚を喫するよりも、寧ろ、其蓊鬱たる行道樹の雄大壯美にして、全市一大公園の如き觀を呈するに、何人も驚歎せざるは莫しといふではないか。

△行道樹は裝飾許てなく
都市の美觀たると同時に
△衞生上非常に有効

なものである。大阪市の如き夏季炎熱嚴い處では、日中、鐵をも溶かすような直射光線が地上や甍から強烈に反射し、屋内は宛然甑中に壓するような感じのする所では、之が爲に諸種の疾病の因を醸し、殊に、小兒死亡率の大なる統計上、不幸にも他都市に冠たるといふに至つては、寔に寒心の極みで、輕々に看過出來得ない問題である。樹木は廣い葉面より絶へず水蒸氣を發散して暑熱を柔げ、又庇蔭を作り行人に涼味と快感とを覺わしめ、且つ空氣の新陳代謝を促進するのみならず、煤煙、有害瓦斯及び塵埃の襲來を防止する等、其効果絶大で、都市衞生上行道樹の完成は焦眉の急務である。素より公園增設も重要事に相違なけれど、市民衞生上最簡便にして、其目的の一端を達し得るは、先づ

行道樹を措て他に求むることが出來得ないと思ふ。況してや住民をして愛市心を喚起せしむるといふに於てをや。記錄に據れば、我大阪市は維新前後に於て諸處に行道樹として稱見るべきものありし由なるも、近年商工業の勃興に伴ひ諸種なる工場商廛や大厦續々として建設せられ折角の行道樹も、地形の變更と共に空しく濫伐の厄に遇ひ、今は只數箇所に漸く其痕跡を遺すのみにて、復昔日の面影を留めないのを遺憾とする。而して、

△行道樹の統一と理想的なる樹性は

△次て起る問題

である。仍ち、市當局に於ては、行道樹の價値を十分認識して、十數年前より栽植に着手し近年尙一層銳意之が施設に悉しつゝあるが、最近の調査に據ると、其樹數約六千に達し、補植を要するもの約一萬本で漸次植付けつゝあるも奈何せん經費僅少にして早急に滿足な期待は出來ぬが、茲兩三年の內には全く面目を一新するに至ることと信じてゐる。全世界にて行道樹の模範とせられ、其最も發達せる巴里市は、數年前の調査なるも、拾六萬圓を、ワシントン市は八萬圓を各行道樹の經費として年々支出し、絶へず之が改善に腐心しつゝありといふに至つては、寔に大都市の大都市たる所以を懷はしむる素と、大阪市に於ける行道樹は、町內有志の栽植に係るもの多く、爲に、樹種樹形の如き少しも統一されず、試みに市電に搭じて一過すれば恰も行道樹の標本を羅列したるが如き感に打たるゝのである。行道樹の眞價は、整然たる樹形と其規則正しく植付けられたる統一美に存するので、雜然たる混植は價値全く零である。

市にては、次第に之等の整理を行ひ、且つ今や市の管理に係る空地を利用し、市自ら苗木を養成して、枯損木に對する缺を補ふの備へを爲しつゝある。東京市が郊外數箇所に計約貳萬坪の苗圃を設けて、其養成に努めつゝあるのは、畢竟、其統一の爲である。

△近代迄の行道樹は
主として松杉檜を採りしも
△其理想的なものは

左の條件の大部分を具有してゐるものでなくてはならぬ。即ち、

▲強健にして、氣候、土性を好悪せざるもの
▲煤烟、病虫傷害に抵抗力強きもの、
▲落葉樹にして葉形大なるもの、
▲萠芽早く落葉期遲く且落葉一齊なるもの、
▲樹枝樹葉に強臭なく又刺針を有せざるもの
▲枝葉開張性で樹幹は眞直に伸長するもの、
▲移植に堪へ生長迅きもの、
▲成可く樹形對稱的に生育して美觀を呈するもの、

斯の條項に照して、我風土に適する樹種を擧ぐれば、

唐楓、プラタヌス、チュリツプ樹、槐、アカシヤ、七葉樹、ポプラ、梧桐、カタルパ、

等である。日本及支那に固有な枝垂柳や公孫樹は、外人の見て驚異する處であるが、外人の來往頻繁な所では、之を採つて植ゆるも適切であらう。大阪が今後行道樹植栽條件としては、右の樹種より撰擇して、通筋は同一樹種にて同一樹型と成し、間離(樹身間)參間、之に見悪かざざる富士形又は鳥居型の支柱を施し、煉瓦を以て水鉢を設くるといふ事に内定してゐるようである。

市としては、尙改善刷新を圖り度き點も少くないであらう、一例を云へば、都市改良には經費の許す範圍に於て、是非とも歐米各都市の大道路の例に倣ひ、車道と人道との間に、所謂並木地帶を設け、行道樹相互間を芝生と成し、更に或る距離を隔つてベンチを据へ付くる計畫もなされたい希望の如き是である。されど、

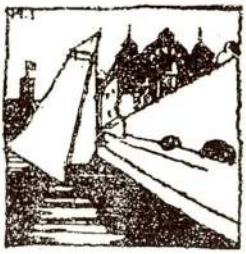
△本事業遂行に際して
最も障碍となるべきは
△公德なき者の行動

である。約言すれば、彼等の行道樹に對する惡戲である。今、其二三の實例を擧げて其反省を促し度い。

先づ、店舗が、自家廣告看板や街燈が行道樹の爲に遮蔽さるゝを厭ひて、密に之を伐除し、甚しきに至りては、惡辣極まる手段を廻らして一夜に凋萎枯死せしむるような言語道斷なる行ひを爲す者がある。素より人知らぬ間に行ふのではあるが、其徴候一見察知せられ、犯行者の見込は畧ぼ付き乍ら、悲哉斷定し兼ぬるより、何時も泣寢入に了るのである。曾て、市電の某々線に於て、一回ならず二回までも斯る奸行を敢て爲したる者を漸く擧げて嚴重に問責したるが如き實例があつた。又、大清潔法施行に關し重量物例へば多くの疊建具を行道樹に立て掛け或は樹に隣接して塵芥を燃燒し、火焔は其葉先を焦がさむ許なるも恬として顧ざる、或は、行道樹に攀登する者、牛馬を繫ぐ者、枝葉を折採る者等は、いふまでもなく到る處頻々として行はれ、當事者の最も慨嘆に禁へざる處である。

今は昔語りになつてゐるも、獨乙は疾くに行道樹の發達したる國にして、都市の街頭に果樹や花木を植へ、四季艶美なる花を着けたる、或は累々たる美果を結ぶも、試みに手を掛くる者さへないとのことである。而して、市は、斯の果實に藉りて年收數萬金に達し、之を總て行道樹費に充つるのである。蓋し、行道樹保護令の嚴重と當局の施設宜しきを得たるに由るとは云へ、一つは人民が大人小童を問はず、何時奈何なる場所にても、常に神の照覽ましますものと信じてゐるからで、蓋し、公德心の進歩を證するに餘りあると思ふ。

大阪市が、極力改善に努力し、且つは、專任の監督者を置きて不斷巡視せしめつゝあれども其反面に斯る防害者の絕へざる限り、此目的を達するに勢ひ遠からざるを得ざるは、甚だ遺憾に禁へざる次第で、止むなくむば、嚴重なる處罰令の制定を望むのである。幷は兎も角として市は最善の注意を拂ふとも、市民自ら進むで、個人なり團体なりして之が保護に膺り、都市美觀を一日も早く完成するの域に達せしめむとする吾人の努力に一臂の力を添へられんことを敢て渴望して息まないのである。



京都古建築觀【十二】

特別賛助員　伊藤清造

十八、西本願寺（其二）

書院

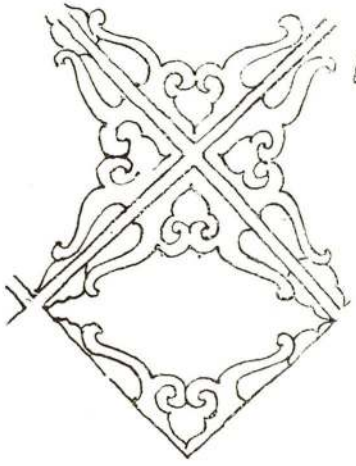
桁行十八間梁行十四間入母屋本瓦葺妻入造りで、廂及簀子椽附である。伏見城より移建したもので、明治三十一年に特建に編入されてゐる主なる間は、鴻の間と白書院即ち紫明の間二の間三の間である。鴻の間は桃山城の大弘間であつて、豊太閤が臣下を引見したといふ對面所である。上段の間には、床違棚式武者隠し附書院等があつて、附書院の上の欄間には桃山期特殊な唐草の透し彫りがあるが、非常に力強く思はれる。此處から下段へ通ずる所に大なる火燈窓を開けてゐるが、俗惡たるを失はない。天井は折上格天井となつてゐるが、格間には幾何學的模様を表はしゐる爲に、一層弘大に見へ且つ嚴粛な感じをも與へてゐる。格縁には漆を塗つて鍍金の金具を張付けてゐる。

下段と上段の間に大きな鶴の彫刻の欄間を設け下段には二柱列があつて、同じく欄間を有つてゐる。

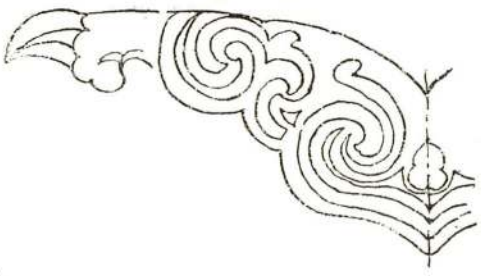
あの上段の間に嚴然として座し、千百の諸臣を引見した秀吉公を懐ふたとき、飛雲閣や醍醐三寶院に遊んだ秀吉公と全く別種の感を催すのである。

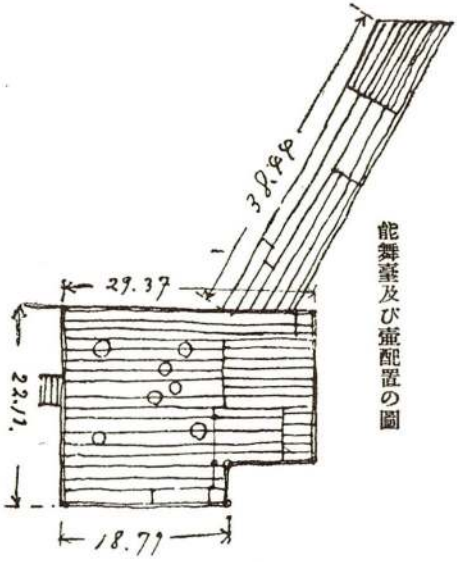
紫明の間はやはり上段の間を有し、床、違棚附書院、武者隠を備へてゐる。二の間三の間を通じ總て桃山建築特有の欄間に見るべきものが

書院上段の間透し欄間



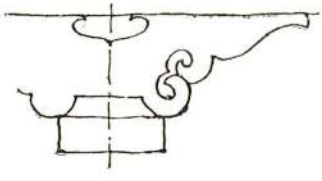
本願寺飛雲閣



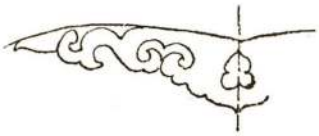


能舞臺及び楽配置の圖

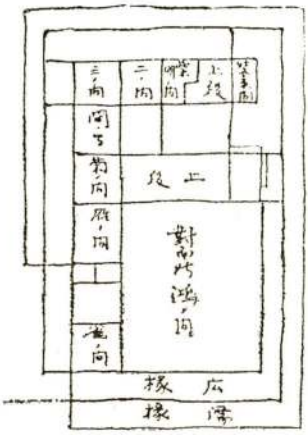
西本願寺所見



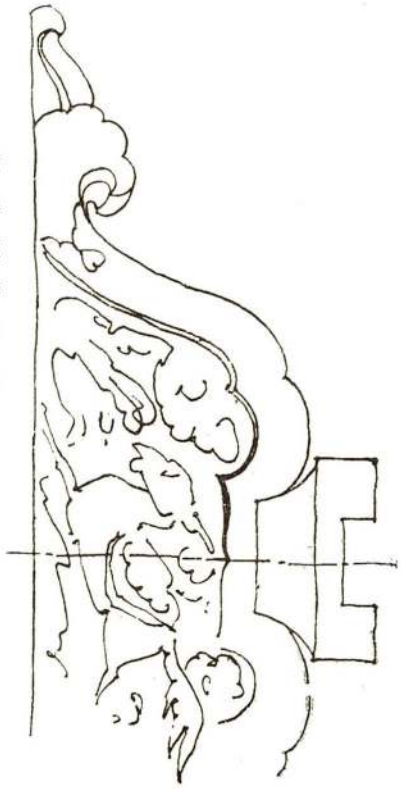
西本願寺所見



西本願寺書院平面圖



西本願寺所見



多い。此の白書院の北側外面の小壁一面には、武蔵野の秋草を畫いてゐるが、弱は弱はしい秋草といふ材料而も廣い場面を此の一とつの材料で力強く調子よく充滿せしめた處は、實に桃山時代を通じての大傑作である。風に軟く靡いた秋草の線柔い中にも生々とした生命が宿され、書院全体を通じて白壁の處は寸分もなく金作を以て裝飾されてゐる。

能舞臺

書院の北方と南方に二つある。北方のものは入母屋造りで、明治四十一年に特建に指定せられ、南方のものは、切妻造りで、明治四十三年に特建の指定を受けたのである。孰も桃山式のもので、南方に在る舞臺の本葺殷は、純然たる桃山式である。舞臺としては北方に在るものが秀れてゐる。

桃山城の能舞臺と稱せられ、日本最古の能舞臺である。橋懸りが長く且つ著しく後方に折れてゐる。又はやしの場が廣くて餘裕がある等は後世の舞臺と大に異つてゐる點である。床の下には壺を埋めて、其床の音の倍音を出すことに備へてあることは、釣甕といつて、普通には舞臺下に五つ橋懸り下に三つ用ひてゐるが、此處には舞臺下のみに七つ用ひてゐる。

唐門

是も桃山城より移建されたもので、明治三十一年特建の指定を受けてゐる。桃山の成金的急造藝術の結果とも云へよう。極の鼻の細末から大体の姿態に至るまで、凡て桃山式の特徴を具有してゐる。特にごた〳〵と澤山に取り附けられた彫刻物は、反つて煩雑な感じを有つてゐるが、又、何處ともなく落付いたしつくりした感じになつてゐるは、時代精神の爭ふ可からざるものがある。四條通仲源寺の唐門に美しいと思ふ吾人が、亦、斯の煩雑な處を美しいと思ふのは何等の徑庭であらう。

西本願寺には、尚桃山期の遺物として、玄關浪の間、太鼓の間、虎の間（明治四十年特建編入）鐘樓（明治四十三年特建編入）等がある。

十九、敎王護國寺

概說

京都九條に在る眞言宗の古寺名刹である。八幡山敎王護國寺と號してゐるが、東寺又は左寺といつてゐる。古昔恒武帝が平安京を造營あらせられたときに、大納言伊勢人を造寺長官として朱雀大路の兩側へ東西兩京鎭護の爲に二寺を造營せしめられたのである。嵯峨天皇は、東寺の方を僧空海に、西寺の方を僧守敏に賜ふたのである。諸堂略完備して古刹の面目を存じてゐる。

建築

東北南西各々大門を有し、築地を以て境内を包んでゐる。南大門を入ると金堂、講堂、食堂と凡て一直線にあつて、金堂の東南方に五重の寶塔がある。食堂の西方に當り別に地を劃して弘法大師空海を祀つた大師堂がある。

飛鳥奈良の兩時代盛に行はれた處の所謂百濟樣の七堂伽藍の配置は、平安朝時代となつて眞言天臺等の密敎が輸入され、密敎建築の形式は今日延曆寺に見るようなものであつて、前時代とは著しく趣きも變つてゐる。彼の飛鳥奈良の兩時代の寺院が總て平坦地に造營せられ、堂々均齊的の配置を取つたのに較べて、平安朝時代に於ける寺院の多くは、其宗義との關係上多く山嶺又は中腹に岩を鑿り崖を拓いて營まれた故必然的に其配置の末に拘泥することは出來なくなつて、自然に延曆寺や醍醐寺等の如くなつたのであるが、我東寺は、堂宇總て百濟樣七堂伽藍の配置を取つてゐたものらしく、今日でも其面影を偲ぶことは出來得るのである。併し密敎によつて、所謂建築には密敎建築の形式を生じ、社會には宗敎的神秘觀を影響させてゐるけれ共中朝以後となつて、社會は念佛往生の敎が行はれて、淨土敎の先驅を爲した位にまで軟化され建築にも、住宅には寢殿造り、寺院には阿彌陀堂建築が行はれて、平安朝美術は爛熟しかけたのであるが、我東寺には其前期の片影を止めてゐる。

金堂

建築當時のものは、文明十八年西紀千四百八十六年に燒亡したので、現存のものは慶長四年八月に豐臣秀頼が勅旨によつて再建に着手し、同十一年に竣工したものがある。明治三十年特別保護建造物となつてゐる。

金堂は七間五面重層入母屋本瓦葺の建物であつて、全部丹色塗りである。此の半面が延暦寺等のものと異つてゐるのは、初から眞言宗の寺院として作られたものでないのを、慶長の再建の際にも其儘を襲踏したからである。下層の腰屋根は其正面の一部を切り上げて、鳳凰堂や法恩寺阿彌陀堂のものと同じ手法によつてゐる。建初平安朝當時から斯うしてあつたものか、鳳凰堂に眞似して慶長再建の際に作つたものか、吾人は之を速斷するの充分な材料を有してゐない。慶長再建の際に鳳凰堂の眞似をしたものとするならば問題とはならないが、延暦創建當時より斯の手法が行はれてゐたとすれば、鳳凰堂設計者の天才は、斯の設計者に讓らねばならぬ斯うすると、鳳凰堂は、當時の大極殿と淨土曼陀羅中の伽藍と、夫れから東寺の金堂と、而して、種々の建築の界點とから暗示を得た集合物に過ぎないものとなつて了うけれ共、是丈けのものを蒐めて立派に纏めた技倆は賞讃すべきであり、尙且つ天才を以て許すべきであらう。殊には、武田先生の御發表になつた詳細な事項を讀んでは、一層其周到なる設計に驚かざるを得ない。

東寺の金堂は、兎も角桃山時代の寺院建築としては最大傑作である。雄渾なる表現と、大膽なる構造手法木割とは、よく桃山精神を發揮してゐる。

細部に就て見ると、組物は賑なものであつて下層は天竺樣三手先、上層は和樣の四手先であるけれ共、其間に半組が使はれてゐる。軒は二軒で美しく突出して少しの反轉を有つてゐる。正面其他に棧唐戸を配し、其他の部分には腰長押上に大なる櫺子窓を有つてゐる。銅の風鐸が四隅の隅々に吊されて冴へた音を洩してゐる。

內部は二重折上組入格天井であつて、是は天竺樣の揷肘木で支承されてゐる。



調査

□大横濱市火罹災家屋に關する調査(B)

＝前號既出＝

壹　火災の原因
貳　當日の風速と　燒の狀況
參　消防設備
四　殘留家屋、燒失家屋調査表
五　前表說明と結論
　罹災地附近平面圖及寫眞六葉

(乙) 構造と火災防禦

□六□　一時耐火構造

本構造は木材を不燃質材料を以て被覆する方法にして火災の際延燒の速力を一時弱むるに過ぎざるを以て決して完全なる構造法に非れども經費及建築時日に束縛せらるゝ場合に假設的方法として蓋し止むを得ざるものなる可し

(1)　壁被覆材料

▲亞鉛引鐵板張り　浪形なれば二山重りとなし下地は土壁とし木部と接觸の箇處は不燃質材料壁へは漆喰石綿板等を狹み釘付けにする事平板なればこはぜ掛とする事

▲瓦張　平瓦を取付け漆喰にて表面を塗る事

▲煉瓦貼付　下地鐵網を柱に張り付けセメントモルタル及漆喰塗の上煉瓦を貼付け化粧目地仕上げを爲す事

▲**鐵網コンクリート塗**　川崎式丸形鐵網又はエキスパンデッド、メタルラッス類を柱に張り附け内外よりセメントモルタル一寸五分以上塗り附たるもの一時耐火としては比較的効率多し

▲**セメントモルタル塗又は漆喰塗**　木摺板の上に一寸五分以上セメントモルタル若くは漆喰を塗り仕上げ木部を表面に現はさざるもの

煉瓦半枚積煉瓦を柱へ鐵物を以て引付け積立て外部よりセメントモルタル、土又は漆喰類を塗り仕上げたるもの

▲**石材張付**　鐵物を以て石の中央より柱へ引付け積立て内外共前同様に塗立てたるもの石材は房州石を宜しとす

以上は耐火性に厚薄ある事勿論なりとす

（ロ）屋根被覆材料

▲**瓦葺**　普通の方法にて葺立たるもの特に土居塗を爲したるものは効率多し

▲**金屬板葺**　普通の方法の上に尚ほ土居塗を爲すを可とす

▲**石盤葺石綿盤葺**　何れも同上

▲**鐵網コンクリート屋根**　裏板上にフエルトを敷き鐵網コンクリート厚一寸五分以上塗り之れに防水工事を施す事

（ハ）窓入口設備

窓入口扉等は防火上最も重要なる箇處なるに拘らず日本風建築に在りては其面積比較的大なるを以て兎角閑却され易きの感あり一時耐火構造と雖之の方面に周到なる注意を拂ふ時は不測の災害より免るゝ事を得可し

▲**金屬被覆扉**　銅板又は亞鉛引鐵板を木扉の内外に張り付け其下地には不燃質材料を敷き込む事召合せ及周圍には二段以上段形に取合せ目塗用溝を構成する事

▲**鐵扉**　鐵板は一重にては耐火上比較的薄弱なるを以て之を二重とし隙間に砂或はアスベスト類を充塡し又一重と爲す時は外部にモルタル若くは漆喰を塗る事家屋自体の耐火程度に應じ設計するは勿論なりとす

▲**鐵製巻揚シヤツター**　各種の様式あり
▲**二重裝置防火扉**　巻揚一重のものより更に有効なる事勿論なり
▲**土扉**　在來の方式に據る
▲**鐵網コンクリート扉**　鐵枠に鐵網を張り之れにコンクリートを塗り立たるもの

（ニ）一般的設備

▲**軒先**　は成る可く突出を少なくし前記壁被覆材料を以て被覆する事
▲**軒蛇腹**　は金屬製とし成る可く木骨と獨立して構成する事床下空氣抜は石又はコンクリート等を以て閉鎖し目塗の用意を爲す事
▲**倉庫**　は窓目塗用意の爲め鐵梯子の取付を爲せば便利なりと雖金物を以て直接柱に取付ざる事之の金物の高熱と成りし爲め柱を燃燒したる形蹟多し
▲**窓入口の庇**　全然建物と分離し燒失に委するか又は金屬を以て被覆し其取付方前同斷の注意を要す

□七□ 耐火構造

本構造は燃燒物を安全に被覆するか全然不燃質材料のみを以て建造する方法なり故に周到の注意を以て構造せば火災に際し絶体に安全なり耐火構造とは英國の標準に據れば華氏一千八百度以上の熱に對し二時間半以上耐ゆる程度を稱するものにして我邦にては未だ此種の標準無きは遺憾なり

（イ）土藏造

七八寸以上の土壁を普通行はるゝ方法により十數回繰返し塗立たるものにして窓入口扉等は目塗溝を作りて目塗りの脫落せざる樣構造し裏白戸は木部の現はれざる樣重なりを多くする事一般的設備は一時耐火構造の項に據る事

（ロ）煉瓦造

建物の大小高低に應じ一枚半以上の壁厚となし完全にモルタルを充塡し外部に化粧目地を爲す

かモルタル又は漆喰を六分以上塗付け内部も六分以上の漆喰塗を爲し屋根は前述の耐火材料を以て被覆するは勿論葺下地はセメント漆喰等を以て土居塗を爲す窓外部には鐵扉を附し硝子戸は鐵製枠に網入硝子を嵌入する事荷重を受くる用材階段昇降器室等皆不燃材料とし鐵部は不傳熱性の材料にて保護す

家根空氣抜は防火上最も注意を要す之れ其使用の目的と防火とは全く兩立せざるを以てなり故に屋根空氣抜は空氣抜として保存し天井を鐵筋コンクリート等の構造とし建物と分立せしむるに如かず

防火扉鐵板製とし兩面に框を附し之れがアングル鐵なれば一層有効なるべく之れを鐵筋コンクリート構造とし上下左右に三吋の重なりを附せば猶完全に耐火の効ある可し

鐵製巻揚シャッター試驗の結果は多少の反りを生じ戸の周圍より火焔を通過せしむるを以て之を二重扉とすれば更に安全なりとす防火壁に使用する扉は壁の兩面に附するを可とす一は火焔の攻撃を防き他は餘焔の通過を妨ぐ

某銀行に於て金庫の前室に鐵扉を用ゐ凡そ一尺を距つる内側に裏白戸を閉せしに其引手金物は鐵扉より傳熱し裏白戸内部木製の框を焼き頗る危險に頻せしも幸に焼失を免れたり注意を要す

要するに防火戸は常に開閉を容易ならしむる事に注意し且不用の際は必ず之を閉し置く可し周章狼狽の際密閉するを忘れたる例もあり

扉の密閉に自動的裝置種々ありと雖餘りに信を置く時は却て不測の害を招く事あるべし

實際窓として如何なる防火設備を撰擇するかは其建物の構造用途並に周圍の狀況等により研究するの必要ある可し

□大阪市接續町村下水道調査綱要(二)

＝前號既出＝

▲總　說

▲各　說(1)

(イ)豐崎町

各　說(2)

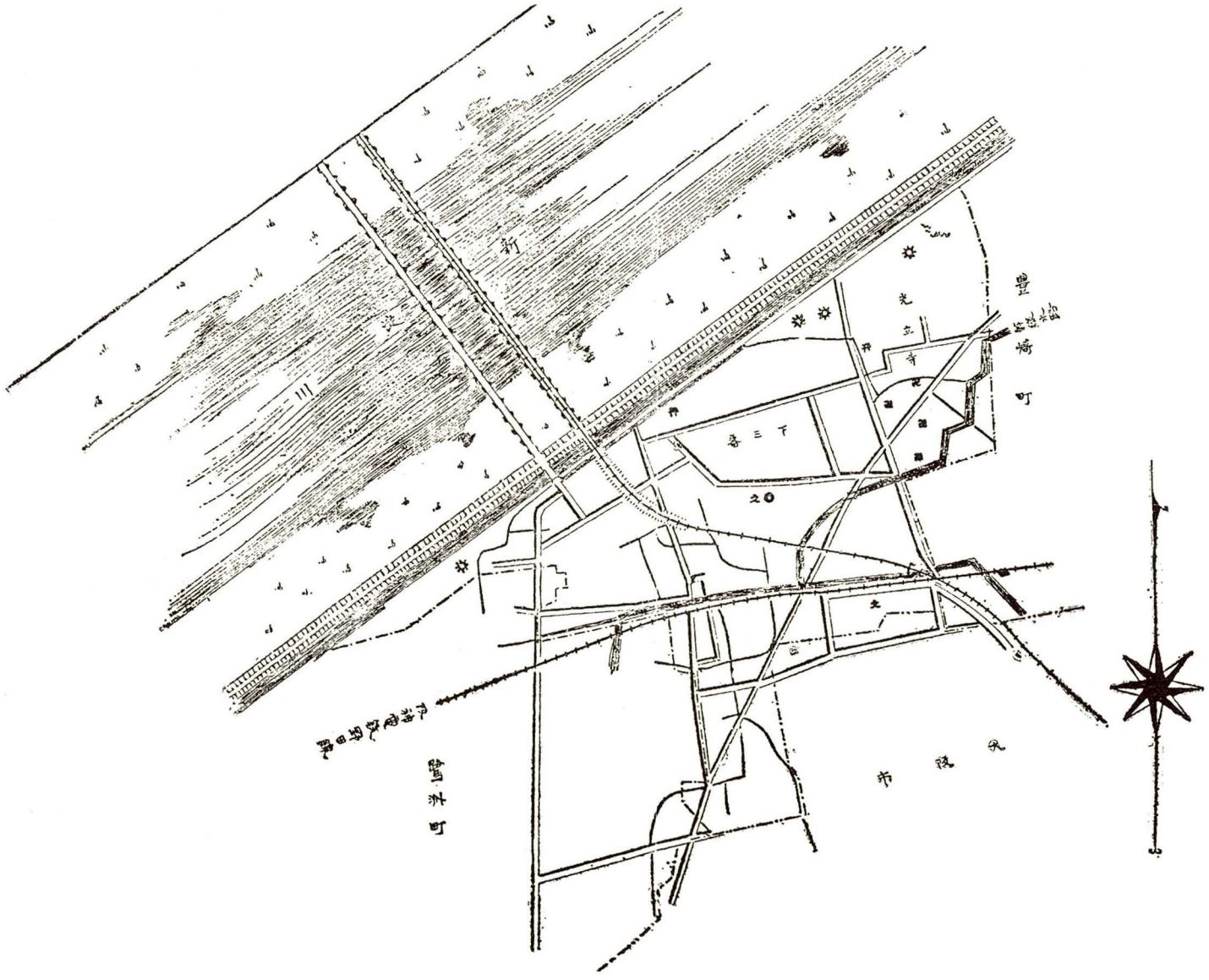
＝中　津　町＝

東は豐崎町に接し北は淀川堤防を隔てゝ神津村に隣り西は鷺洲町に界し南は大阪市に接續し土地平坦にして卑濕なり光立寺及下三番の二字より成り大正四年末現在戸數三千七百六十二、人口一萬九千九百九人を算し両字共に日進月歩急速の發展をなし工場及住家の建設せらるゝもの日に增加し漸次各部落膨大し市街の狀態を呈せり

下水溝は從來灌漑用水路たりし豐崎町より流下し鷺洲町字大仁に流出するものを幹水路とし之に連絡せる支路は町の縱横に數條ありて何れも勾配なく其流下極めて緩慢疏通甚だ不良にして常に汚水停滯せり就中不潔なるは字光立寺毛斯綸紡績會社正門前より南に流るゝ幅約三尺の下水溝及之に連絡する巡査派出所前より西へ工成舍製藥工場東手に至る幅三尺の護岸の設けなき(所々に兩側板杭止の箇所あり)下水溝は全然流出せず汚水汚泥瀦溜し不潔甚だしく常に惡臭を放てり又毛斯綸紡績會社正門前より運河に沿ひて西に流れ同製藥工場西より南に同町役場南部に至り前記幹水路に連絡する幅三尺餘の下水溝も殆んど流出せず汚水停滯す

尙特筆すべきは字下三番阪神電車線路の南方市内北區牛丸町(北野中學校の西部)に接したる所の幅三尺乃至一間餘の下水溝及之に連絡したる

西成郡 中津町

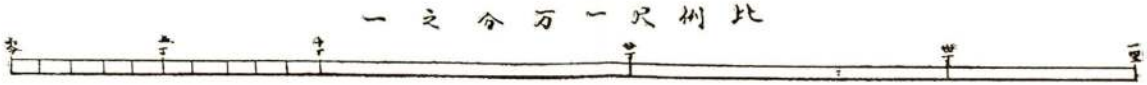


大阪市接續町村下水道略圖

凡例

○	町村役場		河川及池沼		國縣道	道路	
X	警察署		下水道		里道		
文	學校		鐵橋		小路		
✡	工場		橋		鐵道		
卄	神祠		田		軌道		
卍	寺院		荒地		接續	境界	
	現陸岸		濕潤地		郡		
	墓地		草地		町村		

比例尺一万分之一





西成郡　鷺洲町

數條の支路は蘆芥、汚物を投棄したる儘浚渫を下を阻止し其の不潔實に名狀すべからざるもの行はず土砂崩潰、埋沒したる箇所ありて全く流　あり

既往拾ケ年間人口と傳染病患者及死亡率調査表

年次	赤痢 患者	赤痢 死亡	虎列剌 患者	虎列剌 死亡	腸窒扶斯 患者	腸窒扶斯 死亡	パラチブス 患者	パラチブス 死亡	實的里 患者	實的里 死亡	患者數	死亡數	人口	人口増加率	人口千人に對する患者率	人口千人に對する死亡率
三八	二	—	—	—	一五	一	—	—	—	—	一七	一	五、七五三	〇・八二四	二・九	〇・一三二
三九	四	—	一	—	二〇	三	—	—	—	—	二五	三	六、二三〇	〇・八二五	四・〇	〇・四八一
四〇	三	—	—	—	一六	二	—	—	—	—	一九	二	六、八〇九	〇・九二五	二・八	〇・三二五
四一	五	一	—	—	一九	四	—	—	—	—	二四	五	七、五六五	一・一〇七	三・一	〇・六六一
四二	二	—	一	—	一七	五	—	—	六	一	二六	六	八、四〇五	一・一一一	三・一	〇・七一四
四三	一	—	八	六	一八	四	—	—	五	—	三二	一〇	九、三〇五	一・〇六二	三・五	〇・一〇七
四四	二	—	一	—	四一	七	—	—	五	二	四八	九	一〇、〇九五	〇・八八一	四・七	〇・八九二
四五	八	三	一	—	五九	一二	—	—	二	一	七〇	一六	一二、六三九	二・二五〇	五・五	〇・一二七
大正二	一一	—	—	—	七四	二〇	四	一	七	四	八六	二五	一八、二八五	四・四六〇	四・七	〇・三七
三	一六	三	—	—	七七	二四	五	二	四	二	一〇二	三一	一九、三八五	〇・六二五	五・二	〇・一六〇
合計	四四	七	二	六	三五六	八二	九	三	二九	一〇	四四九	一〇八	一〇四、四七一	—	—	—

═鷺洲町═

東は中津町及大阪市に接し南及西は市の北端と接續し唯僅かに町の西北端の一部は舊中津川を隔てゝ稗島村南岸の飛地に隣り北は淀川堤防を以て圍まる大字を大仁、浦江（浦江は東海道官線以北を北浦江以南を南浦江と稱せり）海老江の三字に區分す大正四年末現在戸數五千二百六十三人口二萬四千五十二を有し各字共に各種の工場建設し加ふるに住家の新築日を逐ふて增多し漸次部落の膨脹すると共に南浦江の如きは今や耕地田園を見る能はず又大仁海老江の兩字も從來の田畑は忽ち變じて工場及住宅の敷地となり殆んど餘地なきまでに急速發展し何等市と異ならざる狀態を示せり

土地は低濕にして勾配なく爲に家用下水の排出概して不良なり下水路は悉く舊灌漑用水路たりしものにして各字共に無數に存在し殆んど算ふべからず之等の下水路は土地の發展と共に自然各種工場の汚水は悉く之に流出するを以て一層不潔ならしむるに至れり下水路中最も不潔甚だしかりしものにして既に改善せられたるものは南浦江聖天裏より現今の市場通を南へ約二十丁其の幅二間餘のものは大正二年中暗溝に改め其の他南浦江阪神電車線路に沿ひありしものにして全部埋沒したるもの及其の他數ヶ所の下水溝に改廢工事を施したるものありて一部面目を一新したる箇所ありと雖も尙縱横無數の下水路を存し之が改善工事の必要は實に焦眉の急に迫れるものと認めらる

下水路及其の支路にして不潔なるものに就き之を字別として其の概況を摘記すれば左の如し

▲字大仁

豐崎町及中津の各工場及家用下水全部を受容し大仁に入り南又は西に彎曲流下し市内福島北三丁目に入り市と町との境界を南に流れ市の下水抽水場前より西流して西野田に入り其の下端は逆川（北區吉野東の町）に入るものを幹水路（其幅五、六間乃至十間内外ありて大部分は護岸の設なし）とし町の各下水路の多くは之に連絡せり又同字中舊大仁葬儀所北方より南

に流れ同幹水路に連絡する支路（幅三、四尺乃至一間にして護岸の設なし）は其の疏通良ならざるも時々浚渫を行ふを以て不潔甚だしからず

▲字浦江

北浦江アルミニユーム製造工場前より南に流れ末端は前記幹水路に合する幅三間乃至四間餘の大下水路及之に連絡する小支路にして北浦江より南に流れ八阪神社敷地東を經て南に東海道官線を貫き南浦江に入り織布會社北部を西流して同水路に合する幅六尺餘の支路は護岸の設けなく土砂崩潰埋沒したる箇所及塵芥汚物を投棄して其の疏通を阻害し全然汚水流下せず不潔且常に惡臭を放てり

又同字中尋常小學校所在地附近民家の下水を受容する同校西及南部にあるものにして大和田街道を貫き南に流れ製藥會社敷地南側を西に流れ字海老江の田中に在る溜池と連絡する下水路は汚水常に澱溜し殊に大和田街道以北は土砂崩潰埋沒し加ふるに塵芥汚物を投棄し全然疏通せず不潔を極む

▲字海老江

市內西野田大開町府立職工學校西北部に在る大溜池（全池支路の下端は前記中津町より仝町に入る幹水路に通ず）に連絡するもの及末端舊中津川に連絡する下水路の各支流は部落の縱橫に在りて汚水常に停溜し從て家用下水の流出概して不良なるも南北浦江に比して其の不潔甚だしからず

之を要するに鷺洲町全部の下水路疏通不良なるは各水路の連絡する幹水路は逆川に流出するも下端埋沒して勾配なく滿潮の際は河水逆流し終始流下せず從て汚泥汚物增多し自然埋沒すると共に漸次疏通せざるに至れり尙舊中津川に連絡する下水路は却て同川の水平線より高く全然流出せざる狀態にあり

既往十ケ年間人口及傳染病患者幷に死亡率調査表

年次	赤痢 患者	赤痢 死亡	ペスト 患者	ペスト 死亡	コレラ 患者	コレラ 死亡	腸窒扶斯 患者	腸窒扶斯 死亡	パラチブス 患者	パラチブス 死亡	實扶的里亞 患者	實扶的里亞 死亡	痘瘡 患者	痘瘡 死亡	疑似發疹望扶斯 患者	疑似發疹望扶斯 死亡	患者數	死亡數	人口	前年に對する人口增加率	人口千人に對する患者率	人口千人に對する死亡率	患者百人に對する死亡率
三八	一	一					二	一			五	一					五	〇	八、五〇六	〇・六一	〇・五九〇	〇	〇
三九	一	一	一	一	一	一	九	三	一	一	五	一					八	二	九、六二八	一・三四三	〇・八三〇	〇・二〇七	二八・五〇
四〇	五	二			一	一	九	三			九	二					一五	六	一〇、九六四	一・三八八	一・三七〇	〇・五四七	四〇・〇〇
四一	七	二					五	一			九	二					一二	五	一一、七六四	〇・七八八	一・七八〇	〇・四二五	二二・八六
四二	六	一					五	二			一〇	二					一一	五	一二、二五七	二・九七八	一・三七六	〇・三二七	二二・八六
四三	五	一	一	一	一九	七	一〇	五			五	三					四三	二六	一六、〇三五	〇・五一〇	二・六八〇	〇・九九八	五四・五四
四四	二	二					一五	五			四	四					二一	一一	一七、七八六	一・〇九〇	一・二五〇	〇・六七九	五四・五四
四五 大五元	四	一			九	四	三七	一五			三	二					五六	一三	二〇、五〇八	一・五二九	二・七三〇	一・〇七〇	四〇・〇〇
大正二	二	一					六九	一六	八	一	一二	三					九〇	二一	二一、八七九	〇・六六九	四・一六〇	〇・九五九	二三・三三
全三	五	一					三七	一〇	一		一九	八					六一	一九	二一、七八四		二・八〇〇	〇・八七〇	三一・一五
合計	三七	一二	一	一	二九	一三	一九四	五七	八	一	六一	二五					三四二	一〇八	一五四、一一二	一	二・一六〇	〇・七〇〇	三一・六七

時報



▲公設市場法提案　公設市場設置は今や全國各都市の急務となり來りしに就ては内務省保健調査會にては客年以來公設市場法の立案中なりしが現下の狀態に鑑み急速草案を成就することゝ成り既に大体出來上り中央衛生會の贊成を得て來議會に提出するの運びとまでなれり同調査會湯淺幹事の語る處に據れば法案の目的は公共團體が所有する公設市場の普及と奬勵とを圖るに在りて市場に販賣する凡ての商品は廉價新鮮にして不正品なく所謂國民生活の安定を保障するものなるを以て是に關し保健衛生上より取締を嚴にすべしと。

▲市營住宅の增設　大阪市にては内務省の都市社會事業に對する融通の低利資金九百五十萬圓の内より三百萬圓の借入方を當に非公式に申込めるが其内容は融通資金全部を住宅經營に投じ共同宿泊所二箇所共同住宅二箇所、の建設費を除きたる剩餘金を以て長屋を建設する筈なり共同宿泊所は木造一箇所鐵筋コンクリート造一箇所とし鐵筋コンクリートの分は今宮方面に建設し既設宿泊所の經營に基き一室卅名を收容し得べく寢臺を並べ全部三百名を收容せんとする設計にて木造の分は天滿方面に建設し一室六疊敷に二人を收容し一日十錢位の宿泊料を徵し本人の希望にて二人分の宿泊料にて一室を獨占せしむる計畫なるが是亦收容人員三百名にて既設宿泊所の主として勞働者なるに對し專ら獨身の月給取を收容せんとするものなり共同住宅は妻帶者を收容すべき和洋折衷の三階建鐵筋コンクリートとし住宅は築港櫻宮の市有地二箇所に建設の筈にて總數八百戸の豫定なり、家賃は十圓十二圓十四圓廿圓の四種とし家賃十圓の分の建築數は二千圓十四圓の分は二千六百圓見當にて家賃十四圓の家屋は階下三疊四疊半六疊の三間階上六疊三疊の二間の設計なりと

▲大阪市貸屋增築計畫　大阪市にては内務省に低利資金二百萬圓（郵便貯金利用）及び百萬圓（簡易保險資金利用）計三百萬圓の融通を申請すべくその事業は貸屋並に共同宿泊所の建設に使用すべき方針にして池上市長は六日兩助役及各關係課長等をして内務省に申請すべき起案の大綱を協議せしめたるがその決定の要項は政

府は七百萬圓を各府縣の社會政策事業に振向けんとするものなれば大阪市が三百萬圓の融通申請は或は手張り居るも知れざれど種々の事業及人口の主要問題は勿論當面の緊切なる事情より觀察するときは三百萬圓の融通は敢て過分にあらざるべく又貸家及共同宿泊所の如き大阪市としては始めての事業にあらず早く既に時勢の推移を看取し全國各都市に率先して同事業の創設を行ひたるが尚一層徹底的に當面の急に對應せんとする次第なれば內務當局にても此點に就ては大に諒解あるに依り市は此三百萬圓の全額を融通し得るものと推定し中等階級以下に貸貸すべき見込みにてその家賃は二十圓を最高とし以下漸落せしむる方針なり但しその還元方法は三十箇年にて元利及地代其他一切の費目を償還し得べき計算にて貸家及共同宿泊所が幾戶出來得るか市營繕課にて至急設計をなさしめこの目的を以て申請すべく又賃貸料の標準に就ては市が市內の貸家業者に對抗する譯にあらざるより世間普通の利廻りにて模範的の貸家たらしむべき程度取なれば既設貸家の賃貸料の如く安廉なる能はざる事情ありてその建築は未定なれど市有地の築港方面には貸家と共同宿泊所櫻宮方面には貸家にして尚此他利便多き場所にも建設すべき見込みなりと又以上の事業遂行の爲に材木その他の材料價格に影響を及ぼさんことを慮るゝと事業の性質を斟酌して農商務省宮內省及鐵道院に申請して右建築材料を御料林中より伐採の許可を受けその運搬料も全免にあらざれば半減にて搬送し得るやう交涉せんとするにありと

▲勞働調査會審議　勞働調査委員會において審議さるべきものは大要左の如き質問事項に對する回答案なるが當局は成るべく急速に成案を得ることに努力すべしと

本年十月華盛頓に開催の國際勞働會議第一回準備委員會は五月六七兩日英國勞働省に設けられたる同事務所に開かれたるが委員は佛、米、英、日、白、伊及瑞西の七箇國なり準備委員會は左の事項を決定せり

(イ)議題

準備委員會は質問書に依り華盛頓會議の議題に關する各國の立法及び慣習並に之れに關する各國政府の意嚮を聽取したる上之が回答を大小按配して表を作製し之を資料として總會に於ける討議の基礎たるべき協約又は勸告案の參考案を起草し之を各國政府に通じて委員に配布する事

(ロ)豫備事項

內部手續に關し總會においてなすべき事業として

一、國際勞働局支配部選任の件

二、準備委員會の起草にかゝる議事規則承認の件

(ハ)委員及顧問の任命

四名の委員及び委員に隨從する顧問の氏名を各國外務省を經て北米合衆政府に通知すること▲顧問制については各委員が總會の議事の各項目毎に二名宛顧問を帶同することを得る次第なるも成るべく一人にて二項目以上を取扱ひ得るものを任命せられたき事▲委員および顧問は信任狀を携帶するを要す而して右信任狀には氏名の外地位資格を記載し非政府委員及び其顧問については同意を得たる各雇主又は勞働者を代表する團體の名稱を記載する事

(註)非政府委員及び其顧問は資本家又は勞働者を最も能く代表する產業團體の存する場合には其團體の同意を得て選出したるものを任命する事

(ニ)總會の手續

一、公用語は英語又は佛語たる事
二、佛語の演說は英語に、英語の演說は佛語に譯せらるべき事
三、各委員は各本國語にて演說することを得るも各委員の飜譯者に依り佛語又は英語に飜譯せしむることを要する事
尙幹事に於て從前の國際大會に於て使用せられる用語に關し調査する事
(ホ)書記局
一、準備委員事務所は九月一日華盛頓勞働省に移る事
二、總會には其指揮に係る總書記局を置き尙飜譯者、速記者、タイピスト、走り使等を包含する書記を準備する事
三、各委員に就いては顧問の外一人の飜譯者又は一人の書記を帶同して議場に入ることを得るの外其他の委員附書記の入場を許さざる事
尙第二回は六月廿八日巴里に、第三回は七月十五日倫敦に開かれたる筈

質問及び諮問要領

議題第一項　一日八時間又は一週四十八時間の原則の適用
第一、現行法並に慣習法▲第二、目下懸案中にある法律案▲第三注意

議題第二項　失業豫防又は防遏に關する問題
第一、失業の性質及び範圍▲第二、失業の豫防▲第三、强制失業保險▲第四公設機關▲第五、失業に對する任意施設▲第六、注意

議題第三項　女子の雇傭
A産前及産後に於ける女子の雇傭
第一、現行法及慣習▲第二、現在考慮中の提案▲第三、注意
B夜業
C衛生上有害なる作業に於ける女子の雇傭
第一、現行法及び慣習▲第二、注意

議題第四項　幼年者の雇傭
A幼年者の最低年齡
B夜業
第一現行法及び慣習▲第二法意

議題第五項　燐寸の製造に於いて白燐の使用禁止を目的とする千九百六年ベル國際協約の擴張及び實施

▲新設社會課の事業

今回新設せらるべき內務省社會課がどんな仕事から手を着けるかにつき田子救護課長は語る、「これは大藏省に豫算を出し目下審議中だから內容を詳しく說明することは出來ないが兒童保護を主とし住宅市場の如き生活の改善防貧救貧村落改善等諸種社會事業の指導監督助成等の事業に力をつくす考へで目下各府縣に依頼し十二三種の調査をなしつゝあるが其第一眼目たる兒童保護事業としては從來の如く兒童を親の手から離して貧民學校に送ることは教育上種々缺陷を生ずるといふので公費を以て貧困母の生活の幾分を救ひ親の手元で温かに兒童を養育せしめたい心から出たので貧困母といふのは法律上又は事實上の保護者なく生活困難な母親を指す夫が在監中の者精神病たる者勞働不能の者三箇月以上行方不明の者及び夫と死別せる者離婚されたるもの棄てられた者等の狀養兒童(十五歲未滿)を調査して貰ふ一方勞働兒童即ち商業見習職工徒弟僕婢街上商業官公署給仕小使其他使用人土方人足仲仕車力等の勞働に從事する者年若き藝妓舞妓酌婦娼妓遊藝稼人子守等を廿歲迄義務教育を施すべく之を參考迄に調査し尙孤兒の事は市町村の小學校で施與する午飯の模樣學用品の給與貸與等を詳しく取調べて居る亞米利加では戰後改善の第一着手として勞働大臣が此五月華盛頓で各國から代表者を招き兒童保護大會を開き我が內務省からは生井囑託が渡米したが最近の報告によれば亞米利加では十八歲迄は保護教育を與へる相であると云々」

▲小公園の大增設

大阪都市計畫

の一とつとして市區改正調査部にては公園の最も少き大阪市の現況よりして都市の体裁を備ふべく新公園を設くることは一大難事なるより同部にては頗る苦心しありとの事なるが市公園は全市の總面積一萬四千五百エーカーに對し七十一エーカー餘あるのみにて七十一エーカーは中の島公園の六町七段、天王寺公園の十五町七段に御大典記念の小公園八ヶ所を加へたるものにて大阪に公園なしといふも過言にあらず米國紐育が一エーカーに人口千七百四十五人相當なるに鑑れば一萬四千五百エーカーの我大阪市は千エーカー百二十萬坪の公園を必要とするの勘定なり土地安價なる市附近には公園の必要なく高價なる現市街の一部を公園たらしむる要あり大公園の設備は經費の關係上望み難ければ小公園を各所に設くる方實用の點に於ても公園利用の方面よりも便利なれば小公園大增設の外ならざるべしといふ。

▲神戸市長屋經營　神戸市では愈今回二百六十五萬圓だけ低利資金の融通を得たれば內二百五十五萬圓にて神戸市長田村の寺池東池及び尻池村の蓮池埋立地に九百九十七戸を建設する筈なり

借家は上中下の三階級に分ち大部分階上と階下とを別世帶となし大阪の電車長屋式とし階上階下沒交渉で出入し得る設計とすべく家賃は上等（疊數二階九疊、下十疊半）は一戸二十圓（二間に分ちて十圓宛以下同じ）中等（上下共九疊）十五圓下等（上下共十疊）は十三圓

とし敷金なしの家賃後拂にて何人にも貸與する筈なり近く市會の承認を得八箇月間にて竣工せしむる尙ほ右低利資金の殘額十萬圓を以て更に市內六箇所に公設市場を設くべしとの〃ことなり

▲地方住宅公營一束　住宅難の聲は獨り東京大阪神戸等の大都市に於ける問題のみにあらずして實に地方都市も亦斯の問題に逢着せるもの〻如く最近に於て之等住宅公營の計畫されたるものを擧ぐれば左の如し

□福岡市教員住宅　同市では福岡縣が低利資金百萬圓の融通を受けたる內より廿萬圓を借入れ內十五萬圓にて教員住宅百戸を建設する筈

□岐阜市の住宅經營　同市にては低資十五萬圓の融通を受けたる內より貸長屋百餘戸を建築する計畫

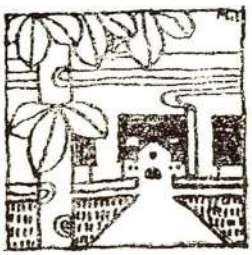
□名古屋市官舍計畫　同市に於ける住宅の拂底は恐らく全國の最位ならんとのことなるが縣當局は其一策として同市に縣官吏の官舍を經營することとなれりと

□池田町の貸長屋　大阪府豐能郡池田町にては町有なる池田山約百町歩を伐採開拓して此處に貸長屋を經營すべく計畫中なりと

□若松市勞働長屋　同市は現在一千戸許住宅不足を感じあることとて差當り勞働長屋廿戸、巡査住宅廿五戸、教員住宅廿五戸、市吏員住宅廿一戸を建築することに決せりと

□大牟田市營住宅　同市は今回內務省の利低資金拾參萬圓を借入れ小學校教員、市長以下市吏員の住宅五六十と獨身者の寄宿舍を建設することとなれりと

* * * * *



會報

會誌

一、近來印刷界の不祥なる事故に仍りて本紙前號も亦發行が遲れましたが、何とか然るべき方法の下に成るべく期日通りに發行致度いと種々苦慮して居りますから、遲からず理想通りになるだらうと存じます、どうか之を諒とせられむことをお願致して置きます

一、本誌の内容に就ても、奈何にしたらば最善の編輯振りを發揮出來得るかといふ事に絶へず研究して居りますから讀者各位に於ても本誌に對する御注文なり又御氣付の點なりを御示し被下るようあり度いと希望して居ります。

一、本誌は、都市計畫－都市研究の立場より先づ我大阪市の諸般に亘りて紹介し度いといふ考で、取敢へず前號より大阪市及接續町村に於ける細民生活狀態市營住宅並に共同宿泊所を、本號には簡易食堂、兒童相談所等を紹介しましたが、來月號には職業紹介所及其他の事項を紹介しようと考へて居ります之等に就ても御意見なり御希望なりを御寄せ被下樣に御願致して置ます。

交換雜誌

建築雜誌　第三三輯第三九〇號（建築學會）
建築世界　第十三卷第八號（建築世界社）
住宅　第四卷第八號（住宅改良會）
鐵道協會雜誌　第二十卷第八號（鐵道協會）
工業之友　第一四八號（工手學校）
工業之大日本　第十六卷第八號（工業之大日本社）
鐵と鋼　第五輯第八號（日本鋼鐵協會）
建築新報社　第一卷第四號（建築新報社）
建築評論　第一卷第四號（建築評論社）
ガーデン　第二號（關西園藝協會）

寄贈雜誌

工業評論
オートモビル
早瀨塗料商報
造船鐵工時報
通俗衛生
大工業
京都商業會議所半年報
木材新聞
ペイント商報
大橋月報
商工時論
產業勞働新聞

第七部委員會（第十回）

日時　大正八年七月二十一日午後六時半—九時半

會場　大阪商品陳列所

出席者　瀨戸（文）、石田、佐藤、森、小林、大原

記事

一、委員長より建築學會の建築法案調査委員會に於ける傍聽の狀況、及び同會材料寸法統一調査委員會の調査方法に就て探聞せる事項を報告し、各員の意見を交換せり。

一、第七部委員調査會と建築業協會との聯絡に就き大原委員より質問及希望あり、協議の結果二三事項を決定す。

一、第七部委員會は八月中休止し、更に九月八日を以て第十一回委員會を開催することに決す。

一、材料品位の調査に就き谷委員より提出の希望案並に陸軍省、農商務省、山林局の品位規定等の參考書類を當部各員に於て回覽し、右谷氏の提案を次回迄に各委員に送附薦め各自の研究に俟つこととせり。

一、大阪府廳及大阪市役所に在勤の當協會員中より各一名宛を第七部委員に推選することに決す。

例會

一、客月の例會に於ける決議に基き本月は暑中休會とせり。

會員

▲新入會員　左記の兩君は理事會の承認に依り普通贊助員として入會せられたり

二宮義彦君　瀨上友吉君

高松　壽君　內藤多仲君

▲會員轉居　左の諸氏は下記の場所へ轉住せられたり。

井尻艮雄君　京都府舟井郡世木村殿田

伊部貞吉君　東京府北多摩郡調布町下石原松塚

▲會員渡歐　久保田繁亮君は歐米に於ける建築狀況視察の爲八月下旬渡航されたり

編輯たより

▲本誌にも亦頗る有益な多くの玉稿を輯錄し得たことを光榮とし、寄稿家各位に篤く御禮を申上ます。

▲是より追々と、所謂燈下親むの時季に向ひますから、斯の好季に於て一層の活動を爲し、編輯振りの面目を益々進化せしめ度いと今より期待して居ります。

▲本誌中渡邊、內田、吉村氏等の玉稿は、前號にも申して置きましたように校閲を經るの便宜がなかつたので、其儘掲載したのでありますから、文責は勿論當編輯者に在ることをお斷りして置きます。

役員及職員

理事長	片岡安
理事	宗兵藏（主記）
	野村一郎（編輯）
	松本禹象（編輯）
	日高舟橋喜一（主計）
編輯補	設樂貞雄
	波江悌夫
	佐藤四郎
	江村郊郎
書記	小谷信藏
	山崎萬壽夫

會員	一七四	會員（地方）	四二
名譽賛助員	六四	終身賛助員	三九
特別賛助員	八	普通賛助員	二四三
合計	五七〇		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正八年八月二十日印刷
大正八年八月廿五日發行　（毎月壹回　廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）

發行兼編輯人　伊藤幸太郎
大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

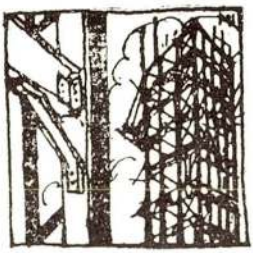
印刷人　伊藤幸太郎
大阪市東區今橋一丁目十一番地

印刷所　大阪活版所

發行所　日本建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

巴里市衛生規則

（下）



巴里市衛生規則（下）

第八項　公道又ハ私道ニ於ケル私設下水支渠固定又ハ動カスヿヲ得ル溜、井戸、水道栓下水渠ノ泥溜、大下水渠ヲ備ヘタル道路ニ於テ採用スベキ設備

第七十三條　私設下水支渠ハ其當事者タル家主ノ負擔ニテ之レヲ設ケ又其手入ヲナスベキモノトス

一本ノ私設下水支渠ハ一軒ノ家屋ニ專用スベキモノトス然レドモ廢水ヲ成ル可ク完全ナル條件ノ下ニ排出スルニ必要ナルトキハ一軒ノ家屋ニ數本ノ私設下水支渠ヲ設クルヿヲ得

第七十四條　一般ニ下水ノ支渠ハ其水渠ト連結スベキ大下水支渠ヲ造ルニ當リテ準據シタル規則ニ從ヒ且其材料ト同一材料ヲ用ユルカ或ハ市役所ニ於テ同等ノ材料ナリト認メタルモノヲ用ヒ之レヲ造ルモノトス

此支渠ノ內部ノ大サハ左ノ如シ

頂點以下ノ高サ一「メヾトル」八十「センチメートル」

穹起隆點ノ幅九十「センチメートル」

底部ノ幅五十「センチメートル」

私設下水支渠ハ各々家屋ノ內部ト交通シ通風ノ設備ヲ備フルヿヲ要ス、私設下水支渠ハ公設大下水渠ト交接スル點ニ於テ疎石トセメントヲ以テ造リタル厚サ少クモ三十「センチメートル」ノ壁ヲ以テ之レヲ閉チ其兩面ニハ漆喰ヲ塗リ家屋ノ側ニ於テハ垂直ノ壁面ヲ顯ハシ大下水渠ノ側ニ於テハ大下水渠ノ穹隆起點以上ハ支渠ノ凹天井ノ頂點ノ高サ迄垂直ニ延長シ而シテ該穹隆起點以下ハ大下水渠ノ穹隆起點以下ト相一致シ斯クテ其口ハ大下水渠ニ顯ハルヽモノトス家屋ノ番地ヲ顯ハシタル陶器又ハ瀨戸引金物ノ板ヲ大下水渠內ノ壁壁ノ表面ヲ被フ漆喰ノ內ニ取付クルモノトス

第二十五條　通行少ナキ二等道路及ビ五千法以下ノ所得ヲ有スル家屋並ニ私設道路ニ於ケル下水支渠ハ其地床ノ性質之レヲ許ストキハ石工ヲ以テ造ル代リニ厚キ鐵管ヲ以テ之レヲ造ルヿヲ得但其接處（ツヾメ）ハ鉛ヲ以テ之レヲ接ギ少クモ一「

メートル」毎ニ三「センチメートル」ノ傾斜ニテ之レヲ配置スルモノトス此鐵管ハ直接ニ家屋ト大下水渠トヲ連結スルモノトス

唯單ニ家屋前部ノ雨水及家庭用汚水ヲ排出スル爲メニ設クル補助下水支渠ニアリテモ亦前記ノ規定ヲ適用スルモノトス

第七十六條 總テ私設道路ニ接シテ設クベキ下水支渠ハ市役所ガ下水渠ヲ設クルニ當リ使用スル規定ノ斷面型ノ一ツニ由リテ造リタル下水渠ノ一部分ヲ以テ其一部ヲ造ルモノトス

此一部分ノ支渠ハ公道ニ於テ如何ナル工事ヲモ施コスヿナクシテ總テノ廢水ヲ受クル爲メニ充分深ク公設大下水渠ヨリ私設道路内ニ公道ノ線ヲ超ヘ進入セシメ之レヲ造設スルモノトス

此下水支渠ハ流込ニ便ナル方向ニ設ケタル屈曲セル一部分ヲ以テ公設下水渠ト相連結スルモノトス此一部ノ下水支渠ハ私設下水渠ガ石工ニテ造ラルヽ時ニ當リテハ私設下水渠ト相連結シ其一部トナルモノナリ又此一部ノ支渠ハ私設道路内ニ鐵管ヲ以テ下水ヲ造ル時ハ横壁ヲ以テ其上部ヲ閉ツルモノトス

公設大下水渠ト私設下水渠トノ交通ヲ遮斷スル爲メニ兩下水渠ノ界ニ鐵柵ヲ設置セシムルヿヲ得

第七十七條 廢水及ビ排泄物ノ排泄溝道ハ公設下水渠ノ内壁面迄之レヲ延長シ流入ニ便ナル彎形ノ一部ヲ附加シ公設下水渠ノ濠低渠ニ之レヲ連結セシムルモノトス

道路ニ面セル家屋ノ外部ノ壁面ニ設ケタル竪樋ハ之レヲ排泄溝道ニ導クタメ必ラズ家屋ノ内部ニ其下端ヲ入ルベキモノトス

實際之レヲ行フヿ能ハザル場合ニ當リテハ此等ノ竪樋ハ人道ノ下ニ通ジテ直接ニ排泄溝道ニ之レヲ連結スルヿヲ得

此連結ハ厚キ鐵管ヲ鉛ニテ接合シ最少限一「メートル」毎ニ三「センチメートル」ノ傾斜ヲ以テ之レヲ造ルモノトス

此最後ノ條件ヲ充タスヿ能ハザル時ハ補充的支管ヲ設クルモノトス

第七十八條 私設下水渠ノ設計ハ所轄官廳ノ費用ニテ家主ガ提供スル說明ニ基キ市廳ノ技師之レヲナスモノトス

正規ノ認可ヲ經且此認可ノ條件ニ依ルニアラザレバ工事ヲ實行スルヿヲ得ザルモノトス

第七十九條 石工ヲ以テ造リタル下水支渠ノ或ル一部分ガ以前ヨリ存在スル瓦斯管ト出會スルヿアル時ハ瓦斯管ハ鐵製ノ包裝ヲ施コシ之レヲ隔離スベシ而シテ家主ハ其費用ヲ負擔スベキモノトス、電流管ノ存在セル時モ亦之レト同一ノ方法ニ依ルモノトス

第八拾條 一條ノ道路又ハ道路ノ一部ニ連合ニテ造ルベキ下水支渠ハ此種ノ工事ニ對シ特ニ入札ヲ爲サシメ豫メ定メタル一人ノ工事請負人ニ之レガ造設ヲ一任スルヿヲ得

然レ𪜈此請負工事ハ嚴ニ外部ノ工事ニ之レヲ限リ支渠ノ内部ニ造設スベキ導管ノ供給及ビ其敷設モ亦之レニ含マレザルモノトス

家主ハ支渠内部ノ下水工事ヲ自由ニ自己ノ選擇セル工事請負人ヲシテ實行セシムルヿヲ得但其工事ハ速カニ之レヲ實行シ外部ノ支渠工事終了後廿日以内ニ終了ナシムベキモノトス、此猶豫期

限經過後ハ豫メ特ニ通知ヲナスコトナクシテ人道上ノ樞ヲ當然除去スルコトヲ得ルモノトス

若シ家主ノ要求アル時ハ工事ノ實行ヲ監督シタル技師ニ依リ無料ニテ完成工事ノ檢査ト精算ヲ爲サシメタル上家主ハ各自ノ負擔スベキ費用ヲ直接ニ工事請負人ニ支拂フベキモノトス

第八拾壹條 家主ガ個々別々ニ計畫スル下水支渠工事ハ家主ノ選擇スル工事請負人ヲシテ實行セシムルモノトス

第八拾貳條 公道ノ下ニアル下水支渠及ビ其附屬物ノ手入ハ其創設時代ノ如何ヲ問ハズ家主ニ於テ之レヲ負擔スベキモノトス

家主ハ下水支渠ヲ常ニ頗ル清潔ナル狀態ニ保存シ水ノ停滯スルコトアルトキハ之レヲ掃除セシムベキモノトス

家主ハ下水渠内ニ其性質ノ如何ヲ問ハズ決シテ物品ヲ留置スベカラズ

監督ノ任ヲ帶ビタル所轄官廳ノ官吏又ハ警視廳ノ吏員ガ臨檢スルコトアル時ハ家主ハ何時タリトモ之レニ應ズベキモノトス

下水支渠敷設以後ニ於テ水道瓦斯管又ハ電流管ガ下水支渠ヲ橫斷スルカ又ハ一般ノ利益ニ基ク工事ノ爲メニ下水支渠ヲ侵害セラレ或ハ又變更セラルヽ處アルトキ家主ハ之レニ對シ如何ナル要求モナスコトヲ得ザルモノトス

第八十三條 各家主ハ其所有ニ係ル家屋ニ於ケル排水ノ爲メニ家ノ内外ニ建設スル諸設備ノ創設、存在及ビ保管ヨリ生ズベキ一切ノ事件ニ付キテハ官廳ニ對シテモ亦第三者ニ對シテモ其責ニ任ズベキモノトス

第八十四條 現存ノ公設下水渠ト連聯セル下水支渠ハ第七十四條ノ規定ニ從ヒ公設下水渠ノ交接點ニ於テ漸次之レニ墻壁ヲ設クベキモノトス

此改造ハ其家屋内ニ直接ニ公設下水渠ニ流出セシムル設備ヲ爲ス際ニ之レヲ實行スルモノトス

第八十五條 私設下水渠ノ配置、新設及ビ其保管規則ニ關シ是迄公布セラレタル達ニシテ前記ノ規則ニ抵觸セザルモノハ悉ク其効力ヲ有スルモノトス

第九項　一時的特別規定

第八十六條 大下水渠ヘ直接排出ヲ爲ス方法ヲ適用シタル爲メ溜穴等ノ不用トナリタルモノハ之レヲ汲取リ全部消毒ヲ施スベキモノトス

下降管及ビ通風管モ亦等シク全部之レヲ掃除シ消毒スベシ

第八十七條 地下ニ吸收セシムル流場ノ使用ハ其性質ノ如何ニ拘ハラズ之レヲ嚴禁ス

第八十八條 固定シタル溜又ハ動カスコトヲ得ル溜樽、阻水的ノ流場等ハ所轄官廳ノ認定スル場合ニ限リ假リニ之レヲ設置スルコトヲ得ルモノトス即チ下水渠ヲ欠ギタル場合或ハ又公設下水渠若クハ水道ノ配置又ハ其他ノ原因ニ因リ廢水又ハ排泄物ノ下水渠ニ排出スルコトヲ得ザル場合ニ限ルモノトス

第八十九條 現ニ下水渠ノ備アルモ直接下水渠ニ排出スル設備ナキ町ニアリテハ千八百八十七年十一月廿日附達ノ條件ニ依リ水漉（樽ノ上部ヲ開キタル）樽ヲ用ヒ之レヲ經テ下水渠ニ溜水ヲ排出セシムル爲メ假リニ其認可ヲ與フルコトヲ得

第九十條　固定又ハ動カス㆓ヲ得ル溜ノ汲取口ハ家屋外ノ自由ニ空氣ノ流通スル場所ニ之レヲ置クベキモノトス

第九十一條　固定又ハ動カス㆓ヲ得ル溜水漉槽、下降管及ビ通風管等ノ新設及ビ其配置ハ本規則ニ依リテ廢止セラルヽモノヲ除キ總テ現行ノ法令、達、規則等ノ定ムル規定ニ準據スベキモノトス

第九十二條　溜ノ內部ヲ檢査シ又ハ修繕ヲナス必要ヲ生ジタル時ハ豫メ汚水ヲ汲取ル㆓ヲ要ス猶又溜ノ中ニ降ル時ハ其都度先ヅ降入ヲ安全ナラシムルニ足ルベキ空氣ヲ一方ヨリ送入シ通風ヲ爲スモノトス、斯クシテ排出シタル不潔ナル空氣ハ大氣中ニ放散スル前ニ火中ヲ通過セシムル㆓ヲ要ス

又溜ノ中ニ職工ヲ降入セシムル時ハ其原因ノ如何ニ拘ハラズ職工ノ腹部ニ綱ヲ結付クルニアラザレバ降入セシムル㆓ヲ得ザルモノトス其綱ノ一端ハ外ニアル職工ヲシテ之レヲ持タシムルモノトス

第九十三條　何レノ方面ニ於テモ下水渠ヲ備ヘタル道路ニ接觸セサル家屋ニアリテハ下層ノ床ノ水準線ニ於テ下降管ヨリ道路ノ石溝ヘ雨水及家庭用汚水ヲ左ノ條件ノ下ニ排出セシムル㆓ヲ得

中庭及ビ小中庭ノ床ハ阻水的ノ材料ヨリ成ル外皮ヲ以テ之レヲ造リ雨水又ハ汚水ヲシテ停滯スル㆓ナク容易ニ且速カニ流出セシムルニ足ル傾斜ヲ附シ之レヲ造ルベキモノトス

此目的ヲ以テ設クル溝及ビ樋ハ住居ヨリ少クモ六十「センチメートル」ノ距離ニ設置スベキモノトス而シテ非常ニ傾斜セル漆喰塗リカ又ハ擧ロ步道ニ依リ建物ト之レヲ分離セシムルモノトス

雨水及ビ家庭用汚水ハ少クモ五「メートル」毎ニ檢査口ヲ備ヘ一樣ニシテ且充分ナル傾斜ヲ附シ造リタル上蓋ヲ有スル阻水的ノ溝ニ依リテ家屋內ヲ通過セシムルモノトス

此ノ溝ハ追水ヲ流ガシ常ニ之レヲ頗ル清潔ニナスベキモノトス又住居ニ充ツル場所又ハ商工業ニ用ユル場所ニ之レヲ設クル㆓ヲ得ズ

共用ノ通路廊下又ハ緣側等ニ此溝ヲ通ズル㆓アルトキハ是等ノ場所ハ適宜ニ光線ヲ引キ又常ニ明放シアル窓ニ依リテ空氣ヲ新陳代謝セシムル㆓ヲ要ス

此ノ溝ヲ公道ニ於ケル人道ヲ橫斷シテ設クル時ハ淺漥ニ便ナル鑄鐵製ノ箱樋ヲ用ヒ直接ニ道路ノ石溝ト連聯セシムベキモノトス

此樋ハ常ニ之レヲ完全ニ手入スベキモノトス

第九十四條　場所ノ位置惡シキ爲メ公設下水渠又ハ道路ノ石溝ニ家庭用汚水ヲ流ス㆓能ハザル㆓アル時ハ家主ハ地下ヲ通ジテ固定溜ニ汚水ヲ排出スル許可ヲ得ル㆓アルベシ

固定溜ハ全然阻水的ノ條件ノ下ニ之レヲ造リ便所用溜ノ構造ニ關スル千八百十九年九月廿四日勅令ノ規定ニ準シ之レヲ造リ其汲取法ハ千八百三十四年六月五日附法令ノ規定ニ依ルベキモノトス

固定溜ヲ新設シ又ハ在來ノモノヲ保存セントスル家主ハ其工事設計圖ヲ添ヘセーヌ縣知事ニ出願スベキモノトス

願書受領証ノ日附ヨリ廿日以內ニ認可ノ可否ヲ決裁スベキモノトス

第四章　食料品ノ販賣又ハ貯藏ニ充ツル場所

第九十五條　鮮魚、鷄、獲物、乾酪、諸種ノ生肉ノ如キ食料品ヲ販賣シ之レヲ保存スル店ハ總テ肉類販賣業並ニ豚肉販賣業ニ關スル特別規則ニ準シ空氣ノ流通ヲ完全ナラシムル樣構造スベキモノトス

空氣ヲ流通セシムル爲メ店ノ前面ニ於ケル天井ノ最高部分ニ其孔口ヲ有スル少クモ四「デシメートル」角ノ孔ヲ有シ且其高サハ家屋ノ最高部分ヲ超ユル通風管ヲ設クルカ或ハ又他ノ通風ニ適スル設備ヲナスベキモノトス

店ノ前面ニハ其全表面ノ面積ノ少クモ五分ノ一ニ相當スル目透窓ヲ設クベキモノトス

壁及床ハ防水的ノ腐蝕セザル材料ニテ造ルモノトス

床ハ頻繁ニ洗滌スルヲ得ル樣之レヲ造リ其傾斜ハ下水渠ニ汚水ヲ導キ密閉スルヲ得ル蓋ヲ備ヘタル地下溝ノ孔口ニ向ヒ水ヲ流下セシムルニ足ル程度ニナスベキモノトス又此地下溝ノ孔口ニハ金網ヲ張リ溝内ニ固形物ノ流入ヲ防グベキモノトス

此種ノ店ハ決シテ夜間ノ住居ニ之レヲ充ツルヲ得ズ又小部屋、便所ヲ店内ニ設クルヲ得ズ又家屋ノ全部若クハ一部ノ水ヲ排出スル爲メニ充ツル樋ヲ店内ニ敷設スルヲ得ザルモノトス

煮沸セズシテ賣消スベキ食料品ニシテ店内ノ陳列棚ニ置キ又ハ公道ニ於テ販賣スルモノハ塵埃ヲ避ケ且汚レザル樣ニ之レヲ保護スベキモノトス

第九十六條　店ニアラザル場所即チ穴藏地下室、物置等ニシテ前條ニ示シタル食料品ノ調理若クハ保存ニ充ツル場所ハ專ラ店ノ前面ニ關スル規定ハ之レヲ除キ其他ノ店ニ關スル規定ト同一ノ規定ニ依ルベキモノトス

第五章　建築物ノ手入

第九十七條　壁、板羽目、天井ハ決シテ外氣ノ侵入又ハ水ノ浸入ニ通路ヲ與フベキ割目又ハ裂目等ヲ生ゼザル樣手入スベキモノトス

第九十八條　共用ノ通路、廊下、階段、小廊下等ノ床及ビ便所ノ床ハ穴、凹等無キ樣平滑ニ之ヲ保存スベキモノトス又中庭及ビ小中庭　溝等ノ床ハ水溜リノ出來サル樣常ニ之レヲ修理スベキモノトス

第九十九條　煙出管ハ必要アル都度之レガ檢査及ビ試驗ヲナシ又之レヲ修理スルモノトス

煙突ハ少クモ毎年一回宛掃除スルモノトス

第百條　道路又ハ中庭ニ面セル家屋ノ外面ハ總テ少クモ拾ケ年毎ニ之レヲ清潔ニナスベキモノトス

家屋ノ外面ヲ漆喰ニテ塗リタルモノハ清淨ニナシタル上之レヲ塗リ替フルカ又ハ石灰水ヲ塗ルモノトス

第百一條　小中庭及ビ料理場ノ中庭ニ面スル家屋ノ表面及ビ共用ノ通路、廊下、階段、小廊下等ノ塗リタル壁ハ少クモ十ケ年毎ニ灰汁洗ヲナスモノトス

前記家屋ノ表面ガ漆喰ナル時ハ之レヲ塗リ更フルカ又ハ石灰水ヲ塗ルモノトス、中庭、料理場ノ中庭若クハ小中庭ニ設ケタル鑛柵及ビ硝子屋根ハ何時ニテモ之レニ近ヅクヲ得ル設備ヲ爲シ清潔ニナシ置クベキモノトス

第百〇二條　共同便所ノ壁、天井、板羽目、等ハ毎年洗滌シ又ハ灰汁洗ヲナシ

少クモ五ヶ年毎ニ塗替ヲ爲スベキモノトス

第百三條　各小中庭ニ於テハ日々其壁及ビ床ヲ洗滌スル爲ニ護謨管ヲ取付クルヿヲ得ベキ洗滌水栓ヲ設ケ如何ナル場合ト雖モ小中庭ノ床ニ直接ニ達スルヿヲ得ル一ノ入口ヲ備フベキモノトス又中庭ノ屋根ガ二階ノ高サニ設ケラレタルトキハ其洗滌水栓ハ屋根ノ上ニ於ケル中庭ノ壁ノ上ニ之レヲ設ケ屋根ノ上ニハ容易ニ且直接ニ屋上ニ出ヅルヿヲ得ル出口ヲ設ケ置クモノトス

第二節　傳染病ノ豫防患者ノ運搬

第百〇四條　傳染病ニ罹リタル患者ノ運搬ハ市有ノ病者又ハ負傷者ヲ運搬スル馬車ニ依ルカ又ハ所轄官廳ノ認可ヲ經其監督ヲ受ケ特ニ病者ノ運搬ニ適スル機具ヲ有スル私設會社ノ手ニ依リテ之レヲ行フベキモノトス

傳染病患者ヲ運搬シタル馬車ハ運搬後直チニ消毒スベキモノトス

普通ノ馬車ニテ傳染病ニ罹リタル患者ヲ運搬スルコトヲ禁ズ特別ノ場合ニ於テ傳染病患者ヲ運搬シタル普通ノ馬車ハ其運搬後直チニ之レヲ消毒スベシ

病毒ニ感染シタル場所及ビ物品ノ消毒

第百〇五條　病期間患者及其看護者ノ家庭用若クハ自用ノ物品ニシテ傳染ノ媒介トナル恐レアルモノハ成ルベク消毒スベキモノトス

前記ノ物品ハ決シテ屋内ノ所々ニ之レヲ放置スベカラズ

第百〇六條　患者ノ占タタル室及ビ其室内ニアル物品ノ掃除ハ必ラズ消毒液ニ浸タシタル布巾又ハ布片ヲ用ヒ之レヲナスベキモノトス

傳染病患者ヨリ出デタル糞尿及ビ分泌物ヲ公道、私道、中庭、小中庭、庭園又ハ馬糞堆ノ上ニ棄ツベカラズ

前記ノ汚物ハ消毒シタル陶器製ノ特別容器ニ入レ便所ニ之レヲ棄ツベキモノトス又便所ハ丁寧ニ消毒スベキモノトス

第百〇七條　患者ノ爲メニ用ヒ又ハ患者ヲ置キタル場所ヨリ出ヅル布巾、衣類若クハ其他ノ物品、敷物、窓掛等ハ豫メ消毒シタル後ニアラザレバ窓口又ハ屋外ニ之レヲ乾カシ其塵埃ヲ打拂ヒ又ハ其洗濯、賣却、贈與等ヲ爲スヿヲ禁ズ

汚レタル洗濯物ハ洗濯ニ出ダス前ニ消毒液ニ之レヲ浸タスベキモノトス

蒲團ハ慥カニ消毒ヲ了シタルヿヲ証明スルニアラザレバ其綿ヲ打返スヿヲ得ザルモノトス

患者ニ接觸シタル價値少キ物品ハ之レヲ燒棄スルカ又ハ熱湯ヲ以テ消毒スベキモノトス

第百〇八條　病毒ニ感染シタル場所及ビ物品ハ患者ノ全快、死亡又ハ運搬後之レヲ消毒スベキモノトス、所轄官廳ノ要求アル時ハ當事者ハ消毒ヲナシタルヿヲ証明スベキモノトス

宿ナキ者ヲ一時救助スル公私ノ慈惠院ニアリテハ被救者ノ爲ニ用ヒタル物品及ビ彼等ヲ置キシ場所ハ毎日之レヲ消毒スベキモノトス

第百〇九條　消毒ハ千九百〇二年二月十五日附ノ法律第七條ニ定メタル條件ノ下ニ之レヲ行ナヒ殊ニ其方法ハ内務大

臣ノ認可ヲ得ルコトヲ要スル規定ニ從ヒ官憲又ハ個人之ヲ行フモノトス

第百十條 義務的消毒ニ用ユル消毒機械及ビ其方法ハ常ニ巴里市衛生局（セーヌ縣所管）ノ監督ヲ受クルモノトス

消毒機械及ビ消毒法ガ其使用認可狀ニ於テ豫期シタル條件ヲ充タスニ足ラザル狀態トナルカ若クハ檢査ノ上認メラレタル機械ノ損壞ハ機械ノ普通ニナスベキ作用ヲ妨グルモノナリト認メラレタル時ハ其使用ヲ禁止スルモノトス

第百十一條 或ル人ガ法律第四條ニ示定シタル疾病ノ一ニ因リ死亡シタルモノアリト推定セラレタル時ハ直チニ市役所ニ其死亡屆ヲ差出スベキモノトス

市醫ハ死亡屆アルヤ直チニ臨檢ヲナスベキモノトス

市醫ノ臨檢証明書ニ於テ速カニ入棺スベキ旨ヲ記載シアル場合ニハ市長ハ直チニ入棺ヲ命ジ速カニ埋葬セシムル爲メニ必要ナル方法ヲ採ルベシ

死骸ヲ包ムベキ布ハ豫メ消毒液ニ之レヲ浸タスコトヲ要ス

棺ハ阻水的ノモノタルコトヲ要ス又厚サ五內至六「センチメートル」ノ中和性藥品ト消毒性藥品ヲ混合シタル蒲團ヲ備フベキモノトス

特ニ屆出ヲ要スル疾病ニ因リ死亡者アリタル時ハ市長ハ埋葬許可狀ニ特ニ屆出ヲ要スル疾病ニ因リ死亡シタル者ナルコトヲ記入シ其病名ヲ記入セザルモノトス而シテ此記入事項ハ墓地ノ受入簿ニ記入シ置クモノトス

總則

第百十二條 此違規定ハ郡ノ全部、公設ノ建物、學校、病院、兵營、官廳等ニ適用ス

第百十三條 特別ノ場合ニシテ所轄官廳ヨリ特ニ許可ヲ得ルニアラザレバ此違ノ規定ノ適用ヲ制限スルコトヲ得ザルモノトス

前記諸規定ノ一部分ノ適用ヲ制限スルコトアル時ハ當事者ハ其節ヨリ與フル一切ノ命令ニ服從スベキモノトス

第百十四條 此規則ノ適用ヲ監督スル爲メニ正當ナル職權ヲ有スル官吏ガ臨檢及ビ取調ヲ爲サントスル時ハ何人モ之レヲ拒ムコトヲ得ズ

第百十五條 此規則ノ規定ニ違反スル者ハ千九百〇二年二月十五日附ノ法律第廿七條及ビ第廿九條ニ依リ之レヲ起訴シ刑法第四百七十條及ビ前記ノ條文ニ於テ示定シタル刑罰ニ處スベキモノトス、但第廿八條及ビ第廿條ノ適用並ニ前記ノ違反者ニ適用セラルベキ大道取締法ト稱スル規則ノ適用ヲ妨グルコトナシ

第百十六條 現行ノ違規則布告等ハ此規則ノ規定ニ抵觸セザル限リ其効力ヲ有スルモノトス

第百十七條 市長、市建築部長 巴里市工事行政部長等ハ各自關係事項ニ於テ此規則ノ實行ヲ擔任スベキモノトス此規則ハ行政法規公報及ビ市ノ公報ニ掲載シ巴里全市ニ之ヲ掲示スベシ

ゼード、セルヴ（署名）

千九百〇四年六月廿二日巴里ニ於テ之レヲ布告ス

縣知事ノ命ニ依リテ

縣書記官 オートラン（署名）

廣告目次

ハ、原安商會　一七
日本石綿盤製造株式會社　一九
ホ、ホーン株式會社大阪支店　一六
ヘ、米國貿易會社　三五
別府スティンド硝子製作所　二一
ト、東京電氣株式會社　（前）一
オ、大阪鐵筋混凝土工務所　一四
大阪煖房商會　二四
大阪窯業株式會社　二八
大野式特許品營業所　二三
カ、川崎工場　七
河津商店　二二
ヨ、横河橋梁製作所　二六
タ、高石商會大阪支店　二七
高田商會　二五
ナ、内外土木建築材料合資會社　裏表紙裏
ム、村井工業所　三一
ウ、宇野澤組スティンド硝子製作所　二一
ノ、野澤幸三郎　三一
ヤ、山本窯業商店　一二
山本商會　二〇
マ、松尾和助商店　一四
ケ、建築事務所案内　四―七
建築請負業者案内　八―一二
コ、コルク工業合資會社　三二
エ、榮進社　二九
ア、淺野スレート株式會社　裏表紙表
淺海商店　三〇
有田製陶所　一五
キ、銀座建築用品店　三六
北木島石材株式會社　一五
共同建材製作所　三四
メ、明正社　一八
モ、木材石材商案内　一三
ス、須賀商會　三三
巢鴨製作所　（前二）